

令和元年度
障害者のスポーツに関する意識調査
報告書

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

目次

1 調査概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 調査方法及び回答結果	1
(1) 調査方法	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査対象及び回答結果	1
(4) 調査期間	2
(5) 利用上の注意	2
2 調査結果	3
2.1 障害者の属性	3
(1) 本人あるいは同居する家族における障害者の有無	3
(2) 年齢	4
(3) 性別	4
(4) 障害の種類	5
(5) 障害者手帳の保有状況	7
(6) 障害が発生した年齢	13
(7) 過去1年間の就業状況	15
(8) 過去1年間の平日・日中の居場所	17
2.2 スポーツ・運動に関する情報源	19
2.3 スポーツ・運動の実施	21
(1) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無	21
(2) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数	26
(3) 過去1年間に行ったスポーツ・運動	30
(4) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(種目別)	34
(5) スポーツ・運動を実施する場所	36
(6) スポーツ・運動を一緒に実施する人	39
(7) スポーツ・運動を実施する理由	42
(8) スポーツ・運動を実施しない理由	45
(9) 現在のスポーツ・運動への取組	48
(10) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援	51
(11) スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援	54
(12) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望	57
(13) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と一緒に観戦したい人	60
3 日常生活における車いす利用の有無によるスポーツ・運動の実施状況	63
4 過去1年間における就業の有無によるスポーツ・運動の実施状況	74
5 まとめ	89
○ 参考文献・付録	95

注)「しょうがい」の用語は、「障がい」「障碍」などがあるが、本報告書では、法令等における表記である「障害」を使用した。

1 調査概要

1.1 調査目的

今後の東京都における障害者スポーツ振興に向け、都内に居住する障害のある方のスポーツに関する意識を調査し、「東京都スポーツ推進総合計画」(平成30年3月策定)における政策目標の達成状況等を把握する。

1.2 調査方法及び回答結果

(1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

(2) 調査内容

- 回答者本人および同居する家族の障害の有無
- 障害者手帳の保有状況
- 障害が発生した年齢
- 過去1年間の収入を伴う仕事の従事状況
- 過去1年間の平日日中の所在
- スポーツや運動についての情報源
- 過去1年間に行ったスポーツや運動の種目
- 過去1年間に行ったスポーツや運動の種目別実施頻度
- 過去1年間に行ったスポーツや運動の実施頻度
- スポーツや運動を実施した場所
- スポーツや運動を一緒にする人
- スポーツや運動を実施した理由
- スポーツや運動を実施していない理由
- スポーツや運動を行う際に必要と考える支援
- スポーツや運動への取組の満足度とその理由
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の希望観戦方法
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人

(3) 調査対象及び回答結果

インターネット市場でモニター登録している方のうち、以下に該当する方を調査対象とした。

- 都内に居住する18歳以上の障害者本人あるいは同居する家族に障害者がいる方

該当する回答者は1,034人であり、その属性は以下のとおり。【図表 1】【図表 2】【図表 3】

なお、同居する家族として、障害者の兄弟、姉妹、子供が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上のものについてのみ、回答を依頼した結果、回答者本人及び同居する家族内の障害者を含めた障害者の総数は、1,253人であった。

【図表 1】回答者の居住地

居住地	回答数	比率
23区	684	66%
多摩	350	34%
島しょ	0	0%
合計	1,034	

【図表 2】回答者の年齢

年代	回答数	比率
18~19歳	10	1%
20歳代	85	8%
30歳代	148	14%
40歳代	191	18%
50歳代	253	24%
60歳代	214	21%
70歳代以上	133	13%
合計	1,034	

【図表 3】回答者の性別

性別	回答数	比率
男性	714	69%
女性	320	31%
合計	1,034	

(4) 調査期間

2019年6月7日(金)～2019年6月11日(火)

(5) 利用上の注意

(ア) 比率の単位は「%」、実数の単位は「人」である。

(イ) 百分率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、内訳の合計が100%とならない場合がある。

(ウ) 障害程度のカテゴリ〔軽度／重度〕については、以下のとおり分類を行った。

- 軽度:身体障害者手帳3～6級、療育手帳3～4度、精神障害者福祉保健手帳2～3級の保持者
- 重度:上記以外の障害者手帳保持者

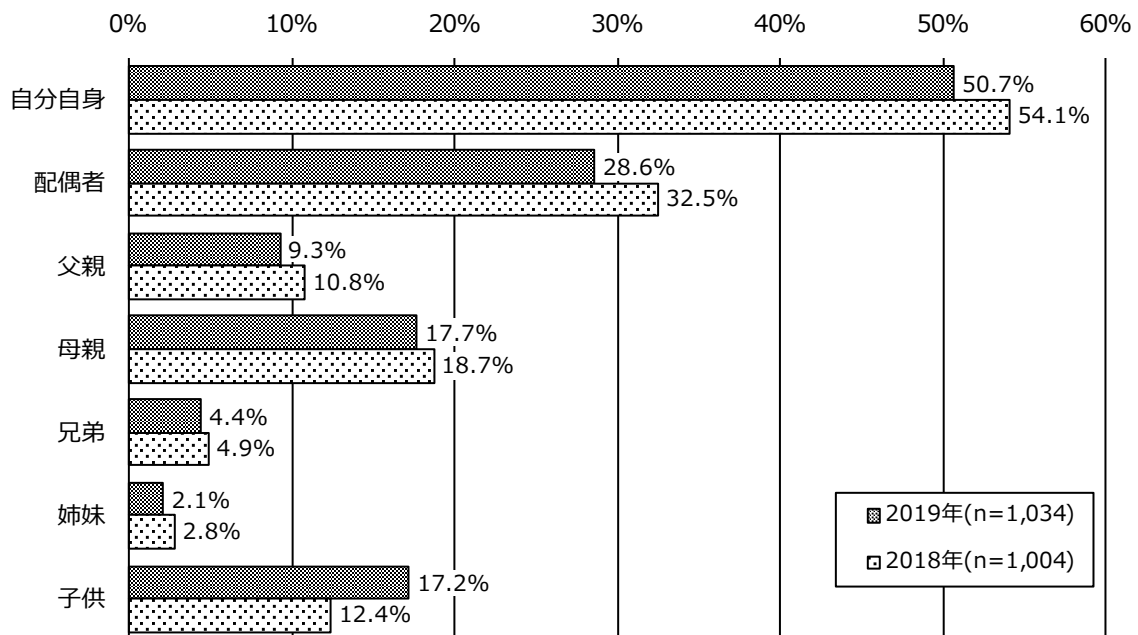
2 調査結果

2.1 障害者の属性

(1) 本人あるいは同居する家族における障害者の有無

本人あるいは同居する家族における障害者の有無については、「回答者自身」(50.7%)が最も多く、次いで「配偶者」(28.6%)、「母親」(17.7%)であった。【図表 4】

【図表 4】本人及び同居する家族における障害者の有無[複数回答]

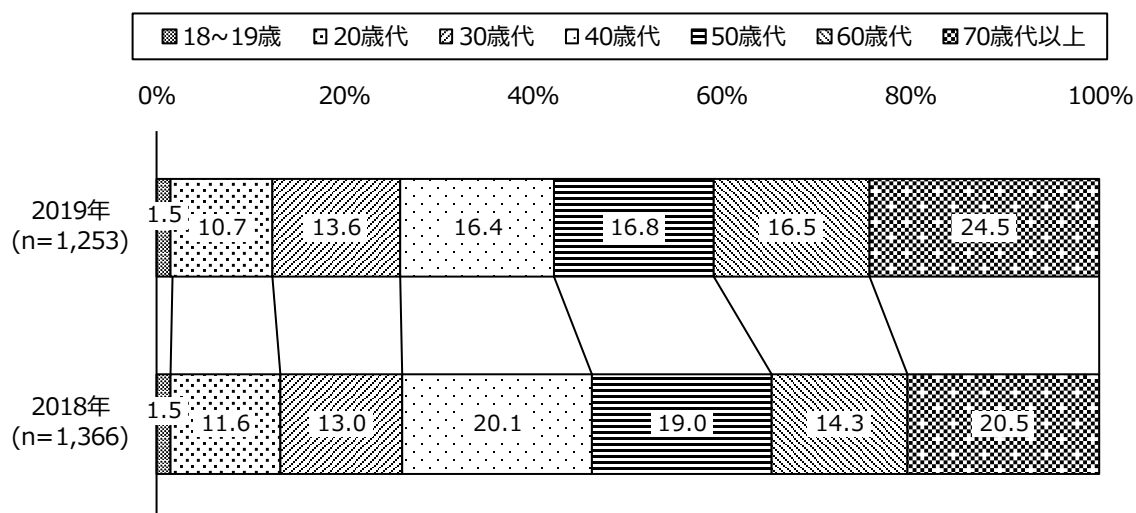


以降の報告では、障害者本人及び同居する障害者1,253人に関する回答結果を示している。

(2) 年齢

総務省の平成27年国勢調査では、東京都の18歳以上の人口の内、18～19歳が2.2%、20歳代が14.2%、30歳代が17.6%、40歳代が19.3%、50歳代が14.1%、60歳代が13.8%、70歳代以上が18.8%であり、都民全体と比べて年齢構成に大きな差はなかった。【図表 5】

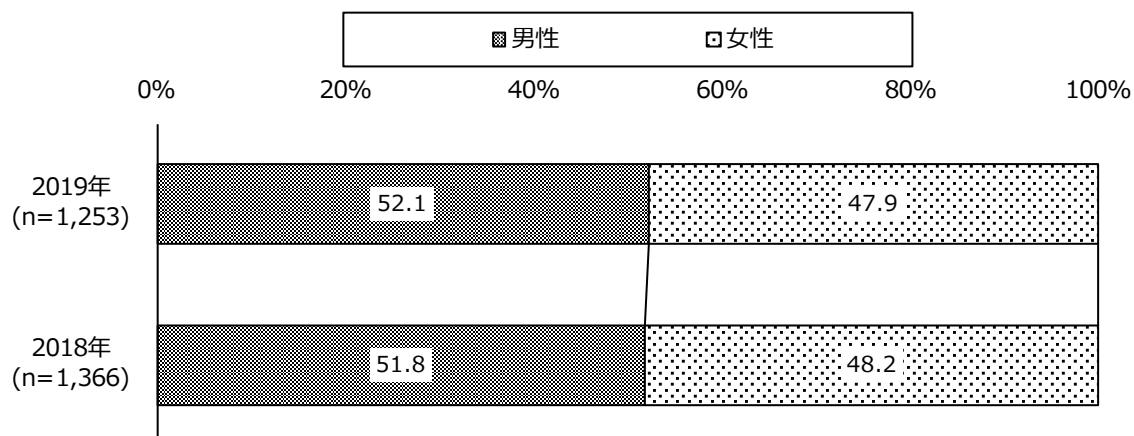
【図表 5】年齢



(3) 性別

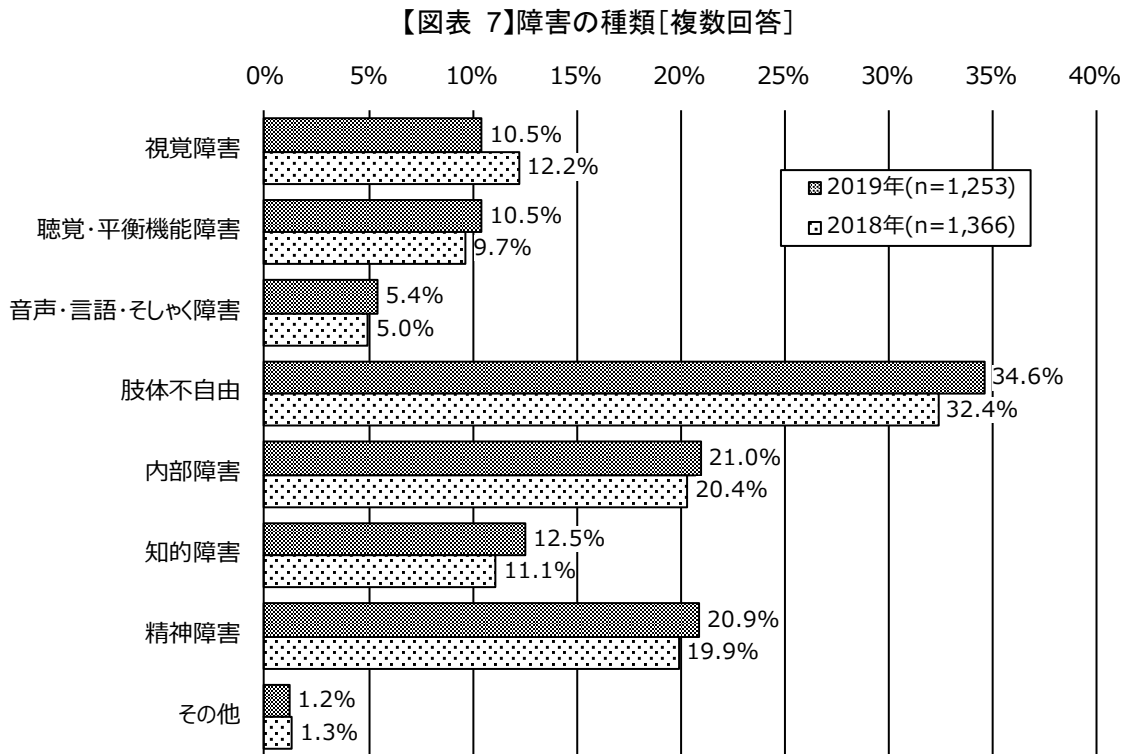
総務省の平成27年国勢調査では、東京都の人口の内、男性が49.3%、女性が50.7%であり、都民全体と比べて大きな差はなかった。【図表 6】

【図表 6】性別

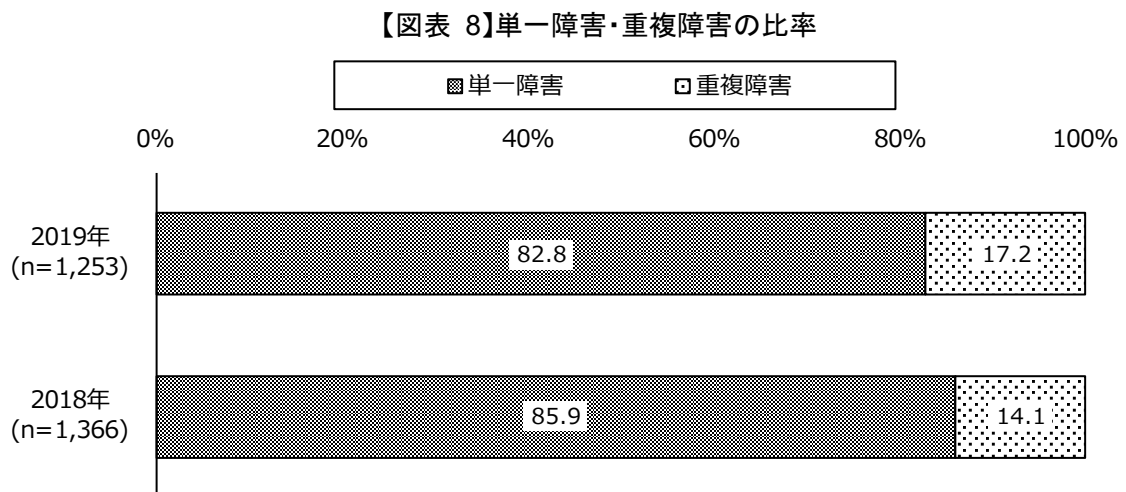


(4) 障害の種類

障害の種類は、「肢体不自由」(34.6%)の割合が最も高く、次いで「内部障害」(21.0%)、「精神障害」(20.9%)の順であった。【図表 7】

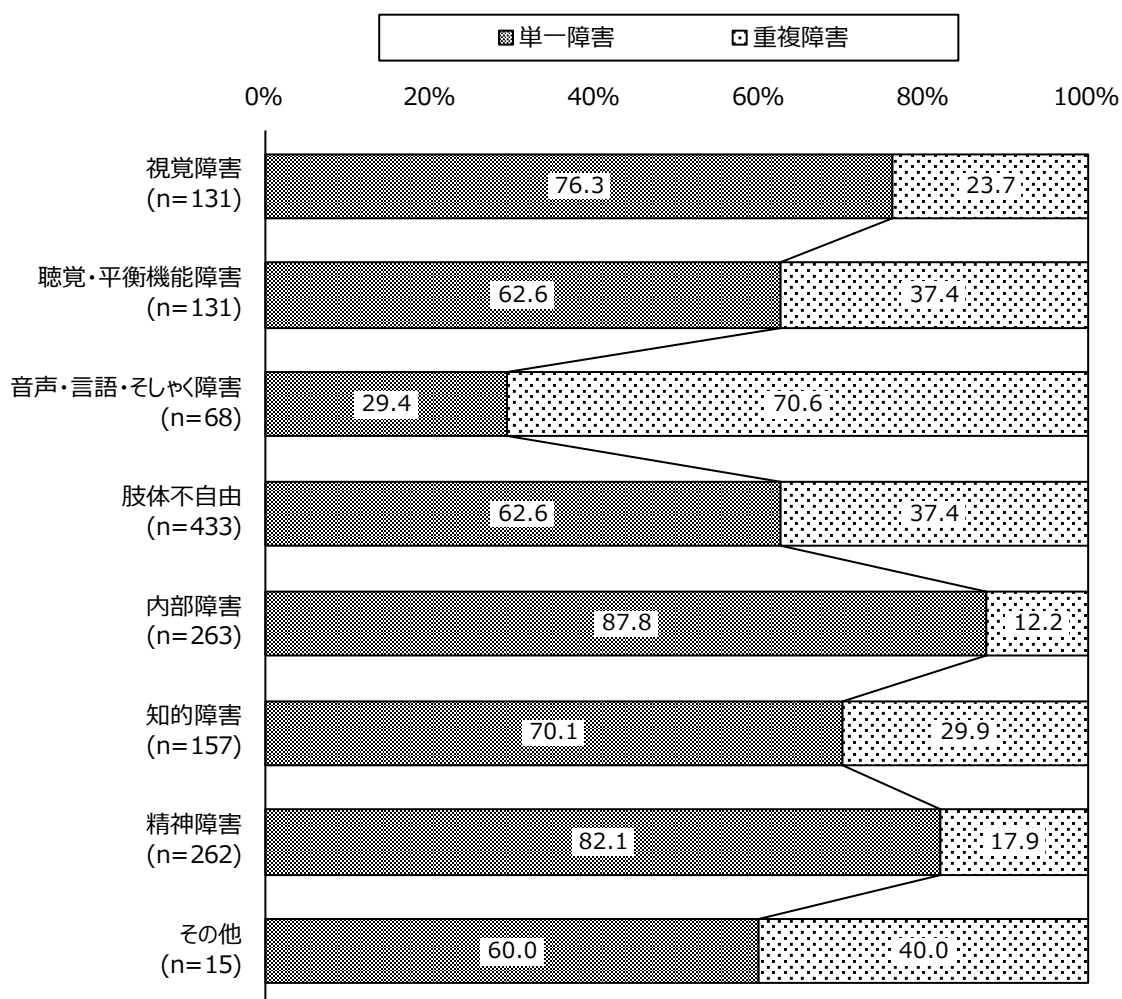


単一障害・重複障害の比率をみると、重複障害の比率は17.2%であった。【図表 8】



障害種別にみると、重複障害の割合は、「音声・言語・そしゃく機能障害」が70.6%、「聴覚・平衡機能障害」と「肢体不自由」がともに37.4%と、他の障害に比べて高かった。【図表 9】

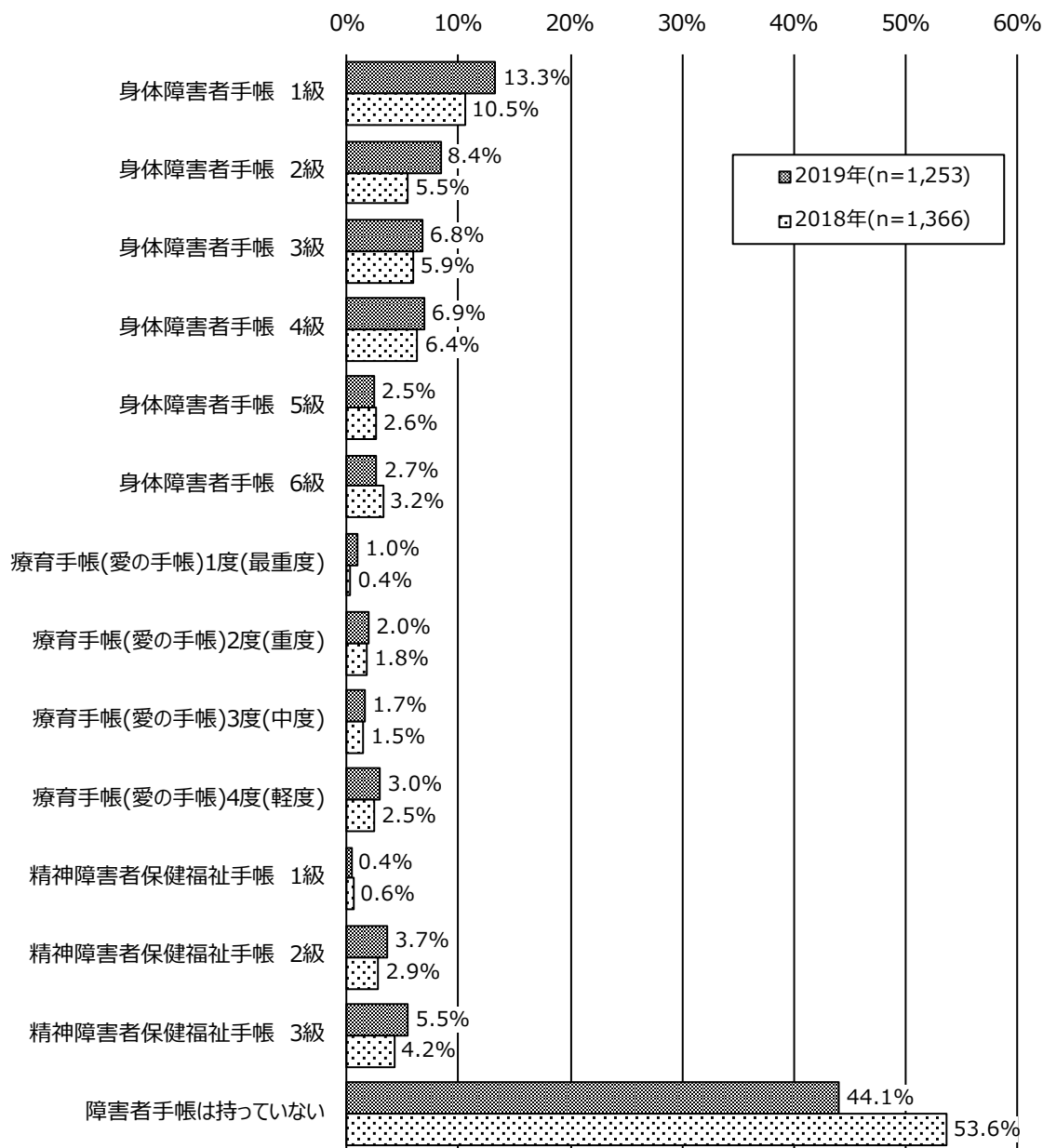
【図表 9】単一障害・重複障害の比率(障害種別)



(5) 障害者手帳の保有状況

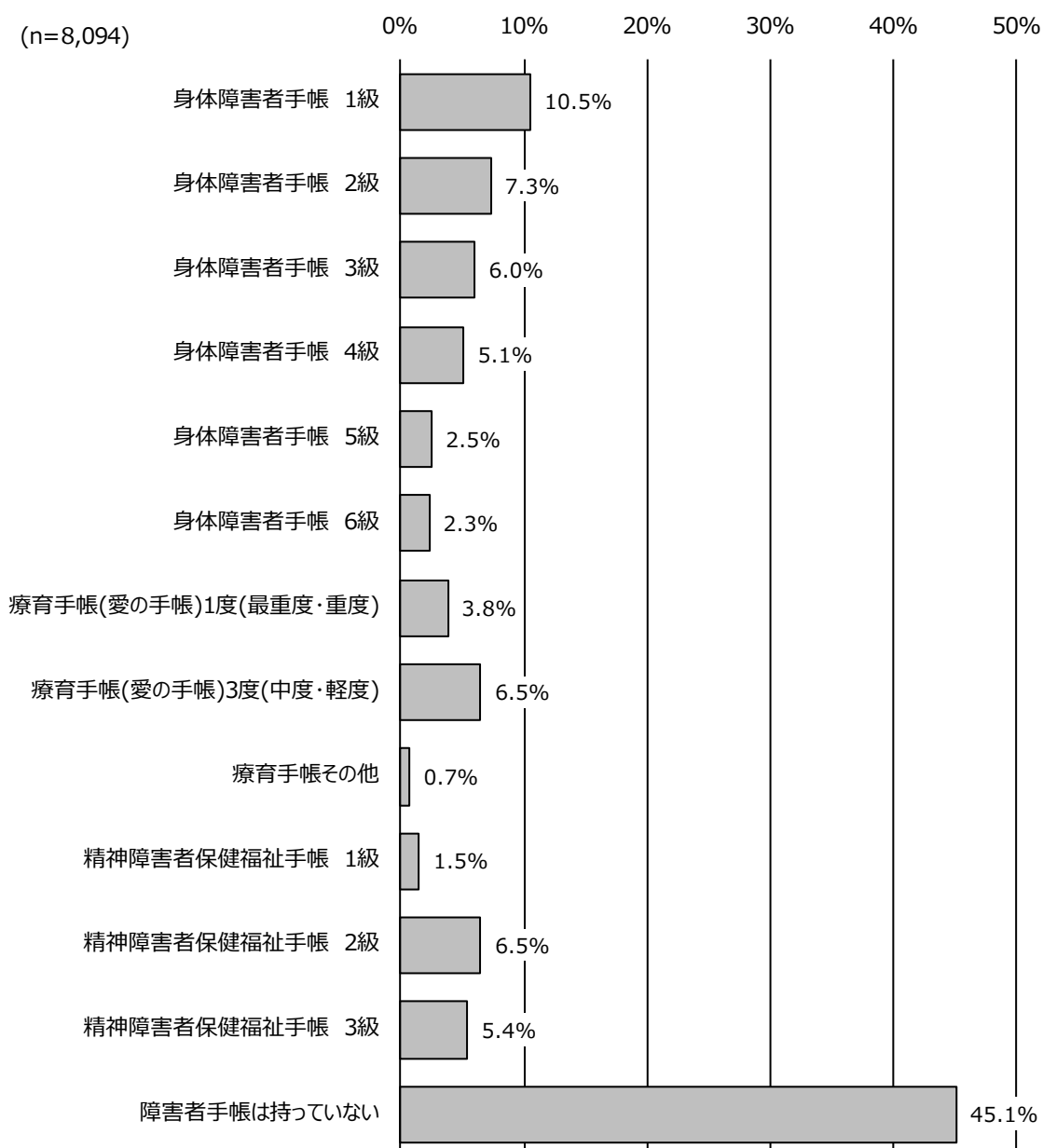
障害者手帳の保有状況については、「障害者手帳は持っていない」が44.1%であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳1級」(13.3%)の割合が最も高く、次いで「身体障害者手帳2級」(8.4%)、「身体障害者手帳4級」(6.9%)であった。【図表 10】

【図表 10】障害者手帳の保有状況<<手帳の種類>>[複数回答]



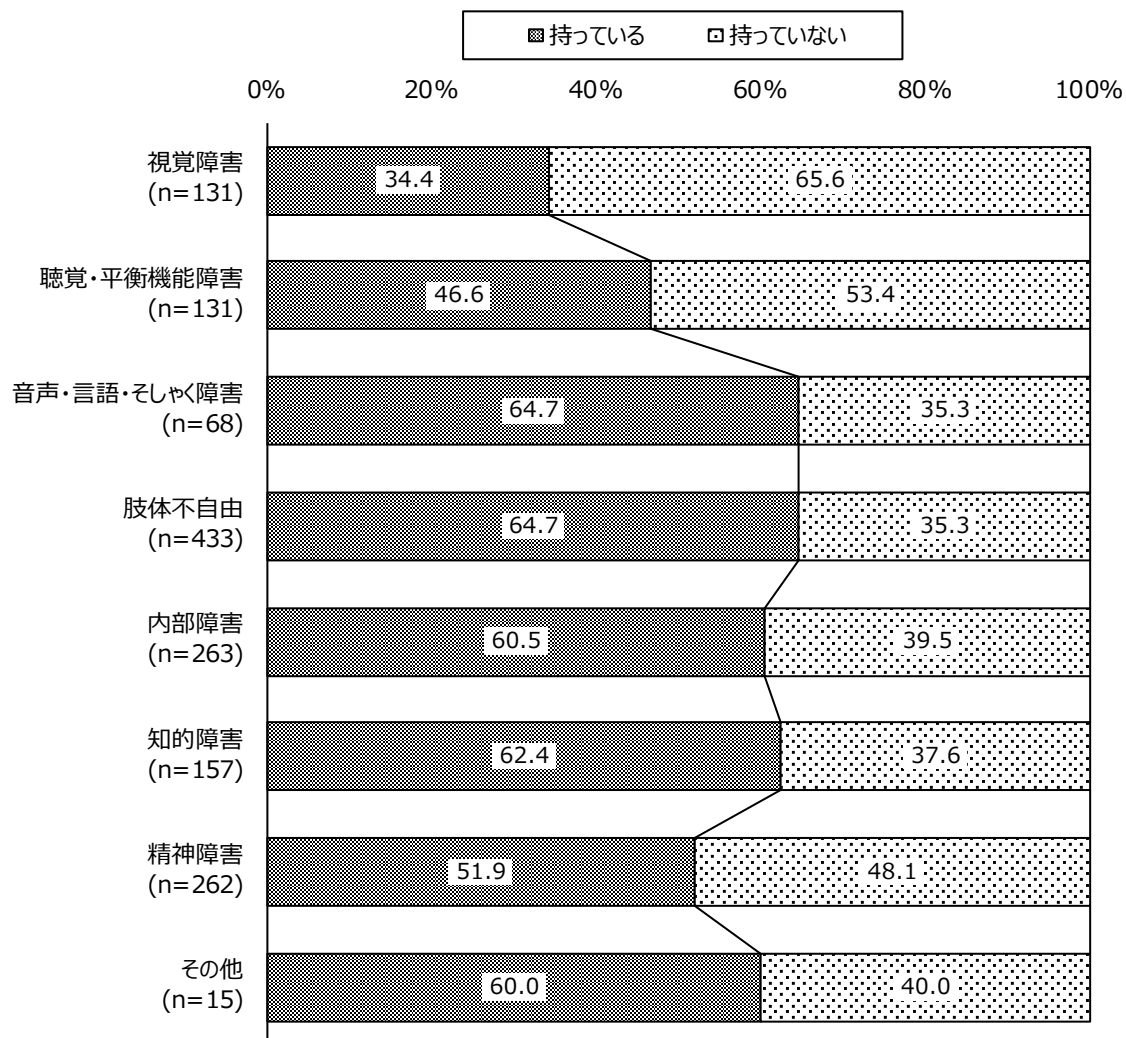
スポーツ庁が全国の障害児・者を対象に実施している『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』(笹川スポーツ財団:平成30年3月)と比べ、それぞれの手帳の保有率や「障害者手帳は持っていない」非保持者の割合に大きな差はなかった。【図表 11】

【図表 11】障害者手帳の保有状況<<手帳の種類>>[複数回答]
『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』
(笹川スポーツ財団:平成30年3月)



障害種別にみると、障害者手帳の保有率は、「音声・言語・そしゃく障害」と「肢体不自由」(いずれも64.7%)、「知的障害」(62.4%)、「内部障害」(60.5%)で6割を超えたが、「視覚障害」は34.4%と低かった。
【図表 12】

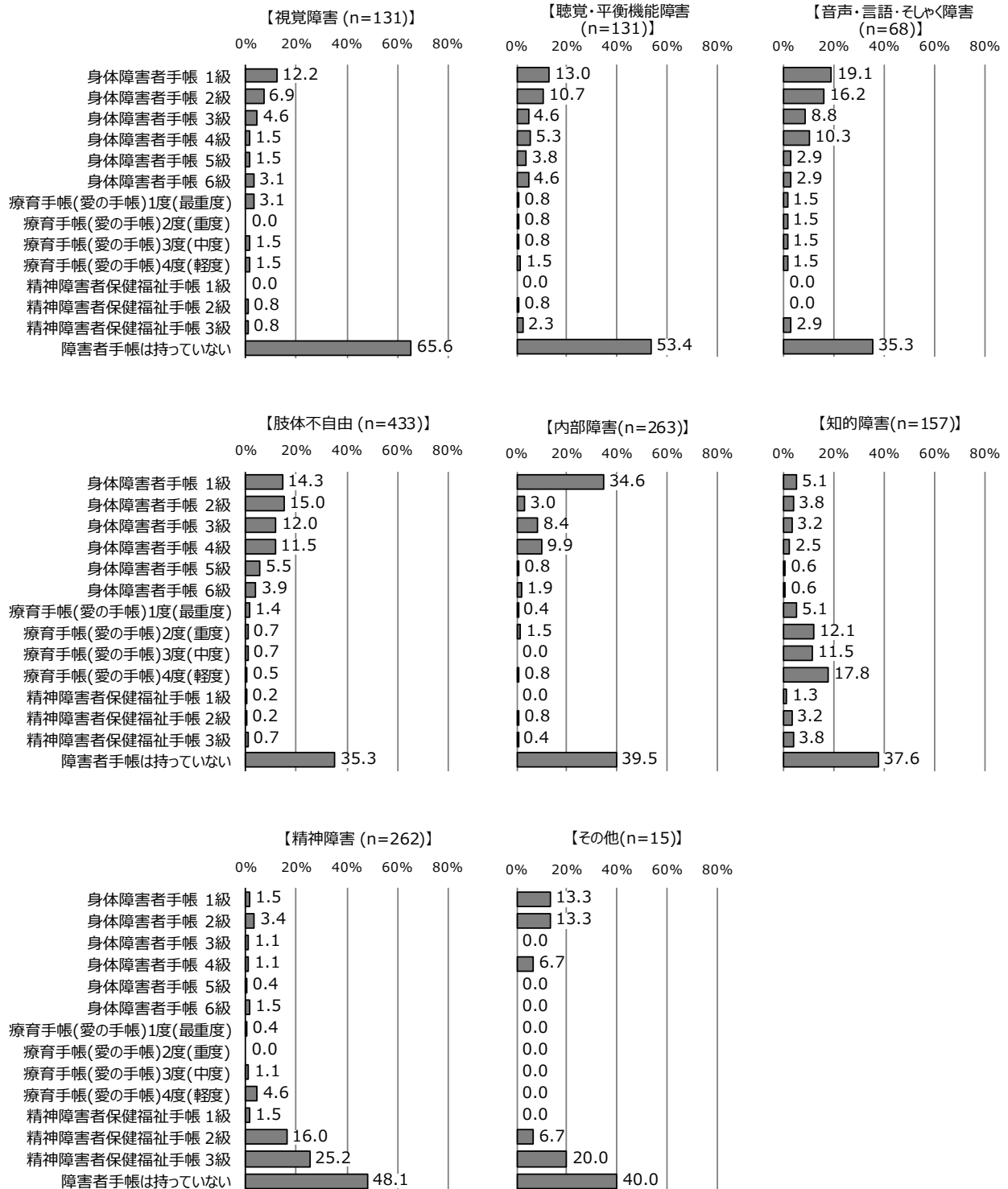
【図表 12】障害者手帳の保有状況<<保有の有無>>(障害種別)



また、障害種別の障害者手帳の保有状況をみると、重複して手帳を保持している方もいた。

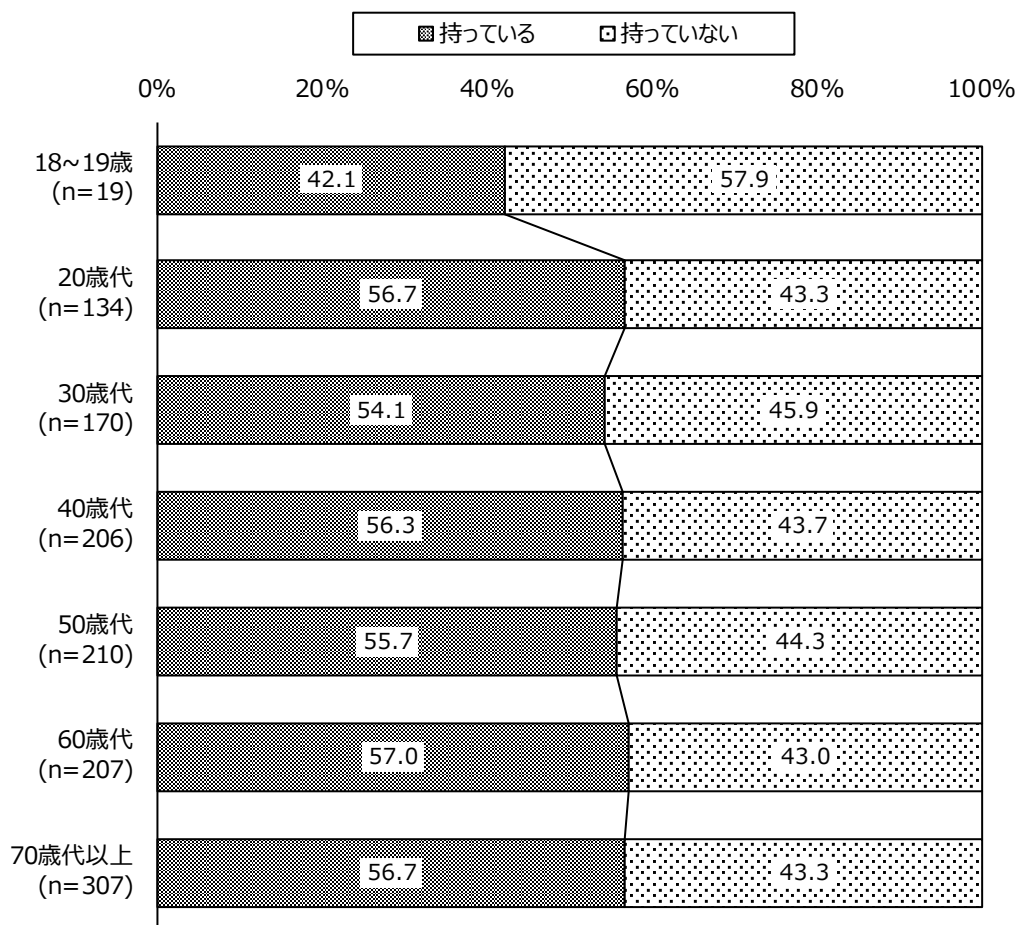
【図表 13】

【図表 13】障害者手帳の保有状況≪手帳の種類≫(障害種別)[複数回答]



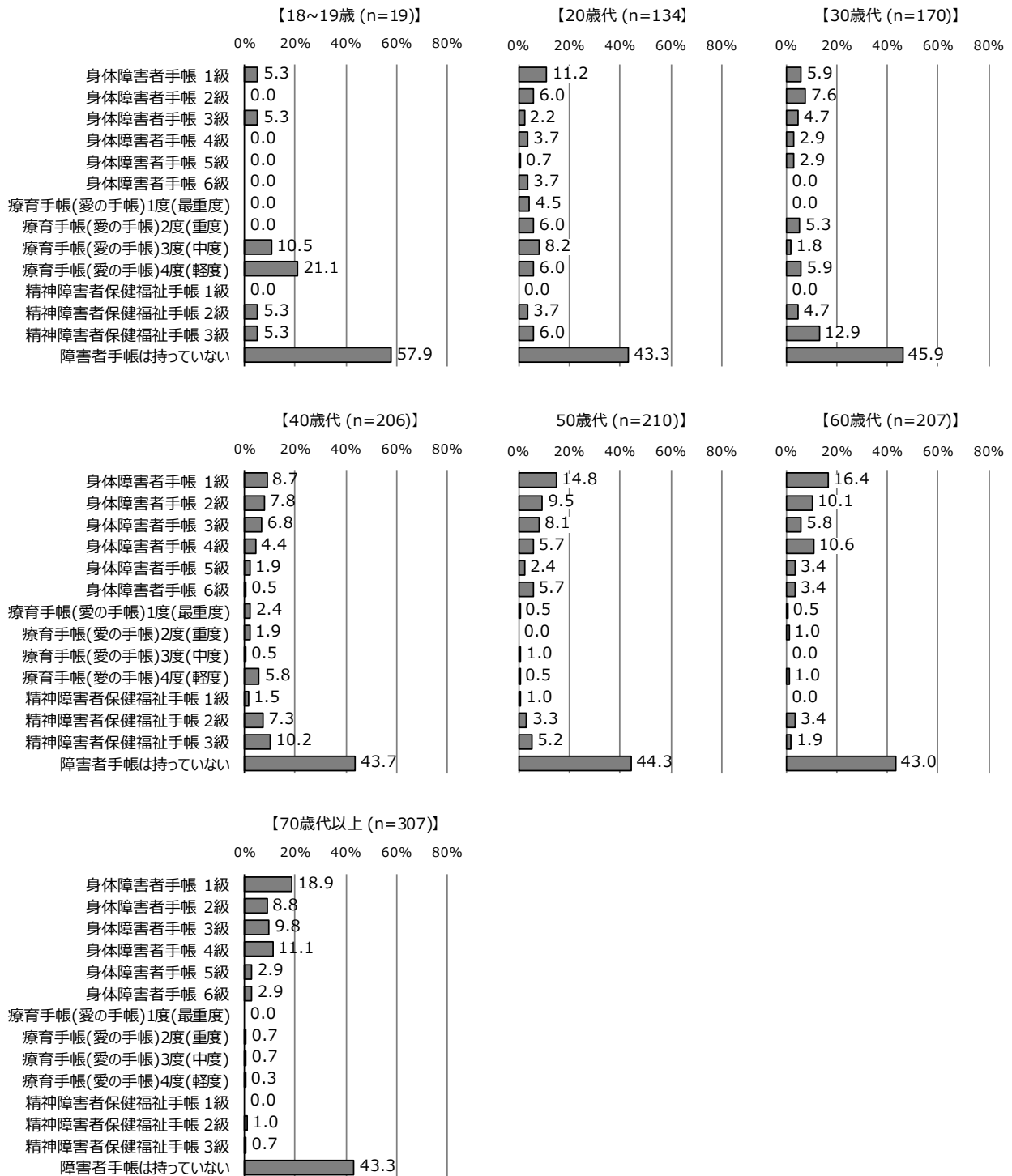
年齢別にみると、障害者手帳の保有率は、「18歳～19歳」が42.1%と低かった以外は、概ね50%台の半ばで年齢による大きな差はなかった。【図表 14】

【図表 14】障害者手帳の保有状況<<保有の有無>>(年齢別)



また、身体障害者手帳は、年齢が上がるにつれて保有率が高くなる傾向であった。【図表 15】

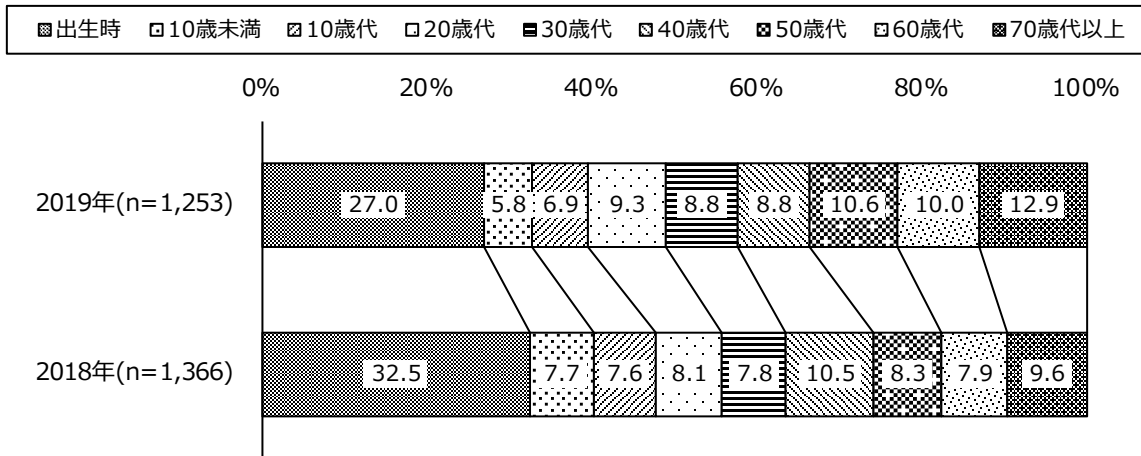
【図表 15】障害者手帳の保有状況《手帳の種類》(年齢別)[複数回答]



(6) 障害が発生した年齢

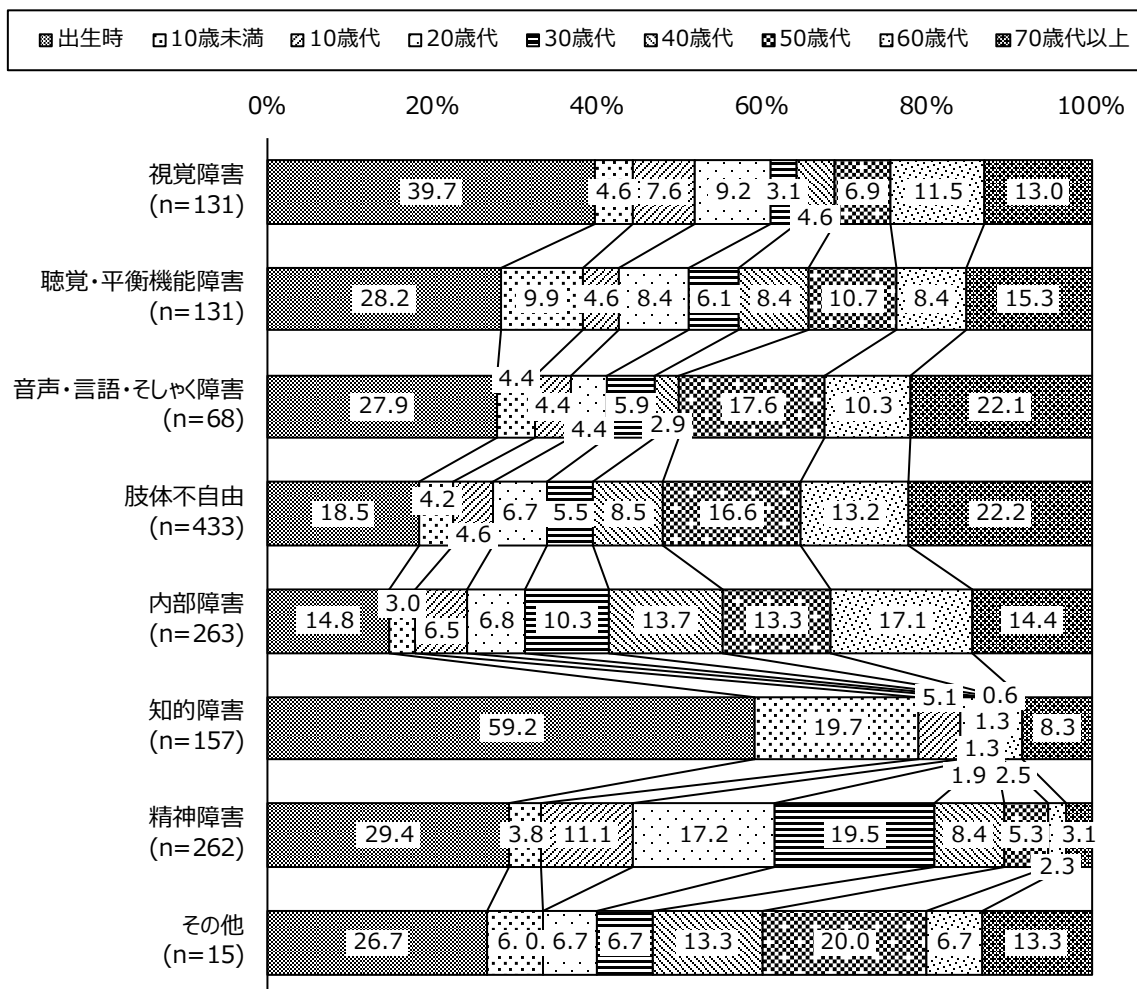
障害が発生した年齢については、「出生時」が27.0%である一方、「40歳代以降」に障害が発生した人も42.3%おり、障害が発生した年齢は多様であった。【図表 16】

【図表 16】障害が発生した年齢



障害種別にみると、他の障害と比べて、「知的障害」(59.2%)と「視覚障害」(39.7%)は、「出生時」の割合が高かった。また、「知的障害」は、低年齢時の発生が他の障害に比べて高く、「肢体不自由」「音声・言語・そしゃく障害」「内部障害」は高年齢時の発生が他の障害に比べて高かった。【図表 17】

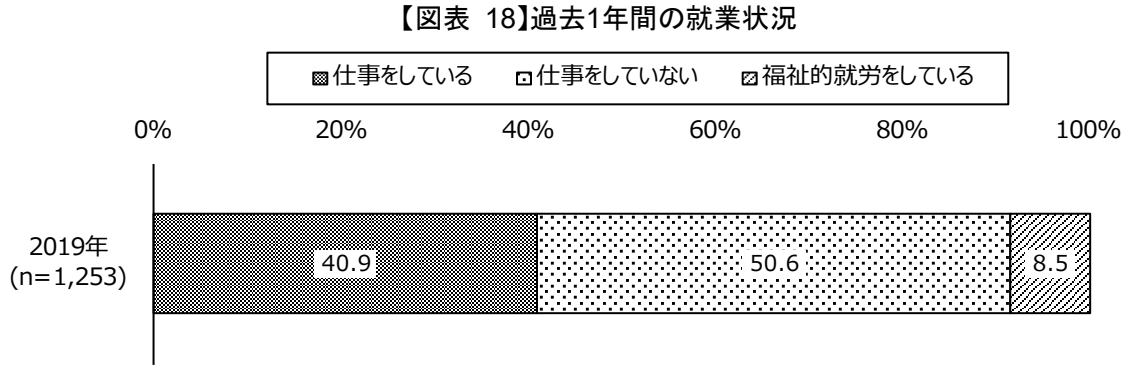
【図表 17】障害が発生した年齢(障害種別)



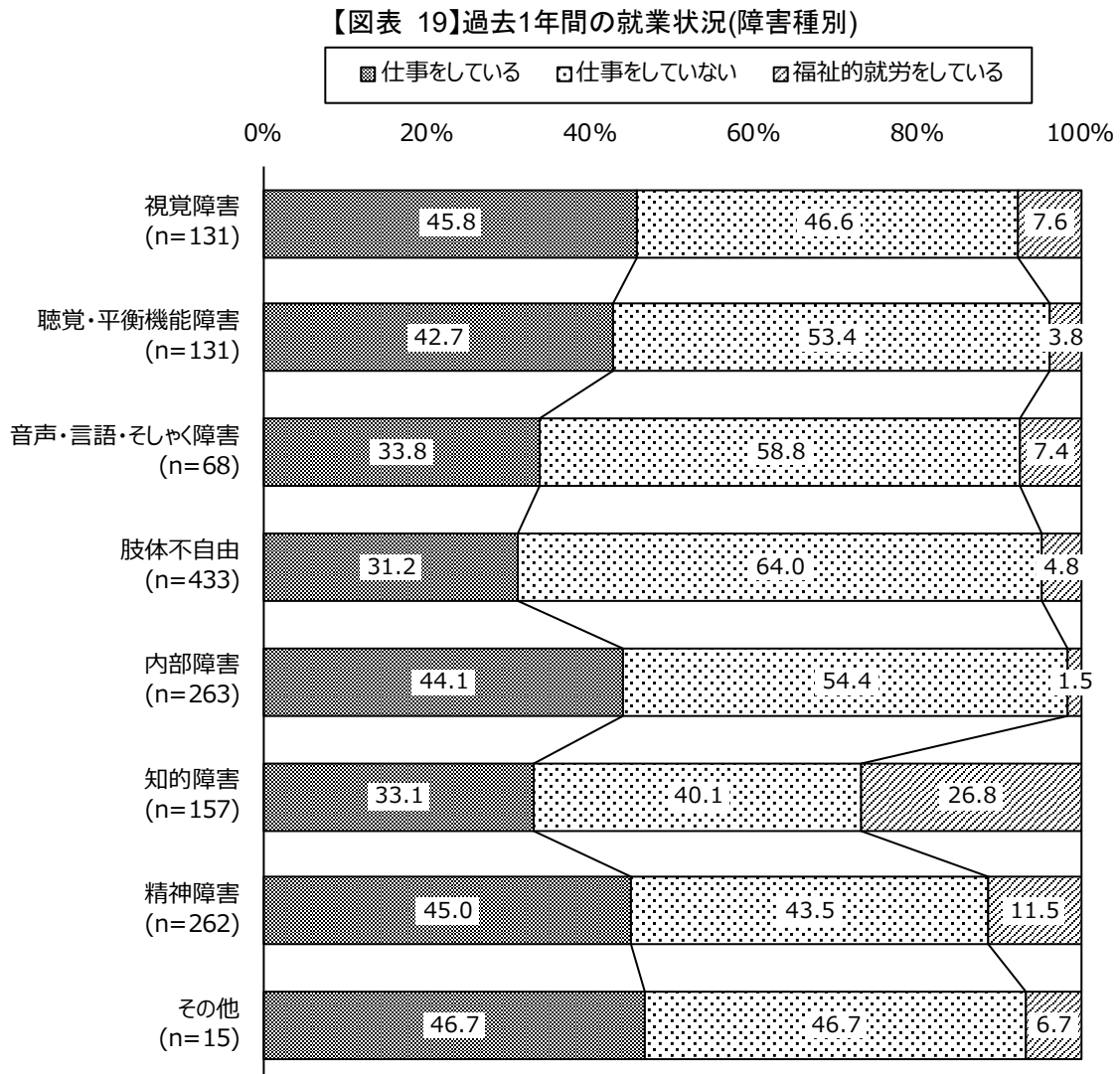
(7) 過去1年間の就業状況

過去1年間の就業状況については、「仕事をしている」が40.9%で、「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)」(8.5%)と合わせて、約半数が何らかの就労をしていた。

【図表 18】

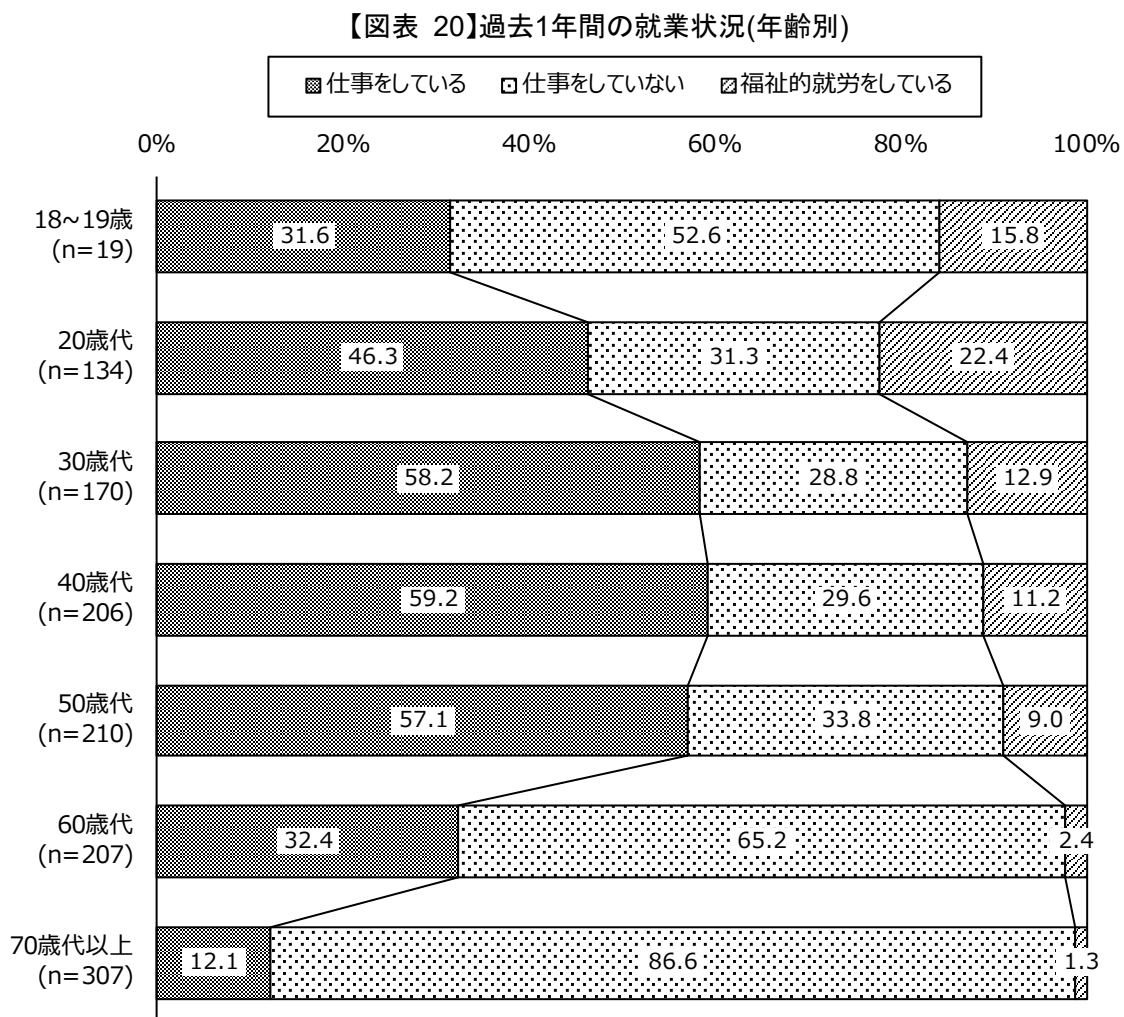


障害種別にみると、「仕事をしている」割合は、「視覚障害」(45.8%)、「精神障害」(45.0%)、「内部障害」(44.1%)、「聴覚・平衡機能障害」(42.7%)で4割を超えた。【図表 19】



年齢別にみると、「仕事をしている」割合は、「20歳代」が46.3%で、30歳代～50歳代は6割近くであった。

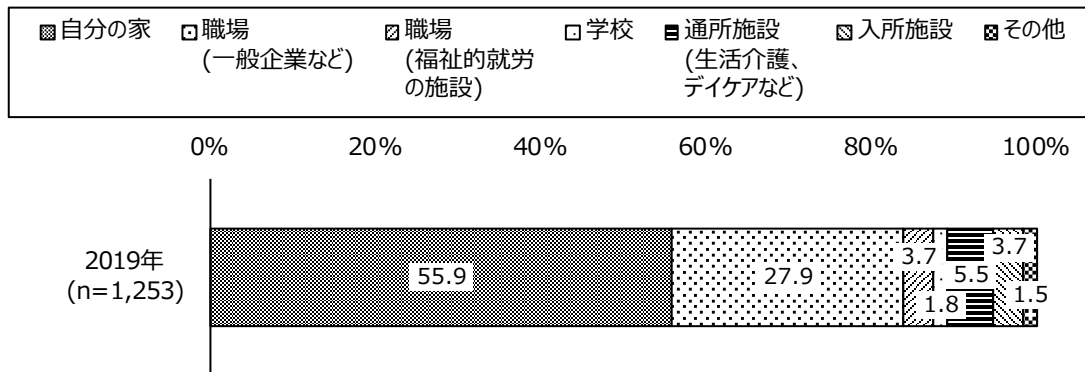
【図表 20】



(8) 過去1年間の平日・日中の居場所

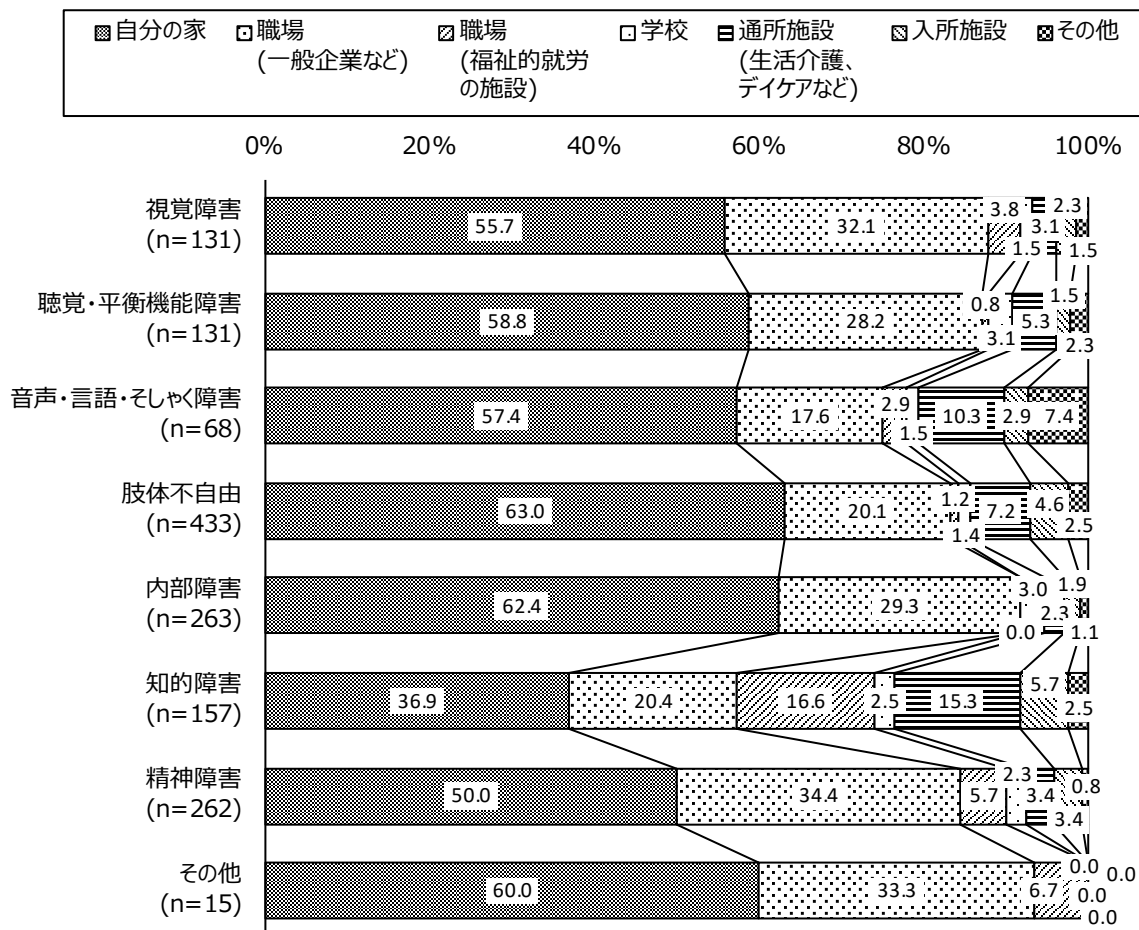
過去1年間の平日・日中の居場所については、「自分の家」が55.9%で、「職場(一般企業など)」(27.9%)と「職場(福祉的就労(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)の施設)」(3.7%)を合わせた「職場」が31.6%であった。【図表 21】

【図表 21】過去1年間の平日・日中の居場所



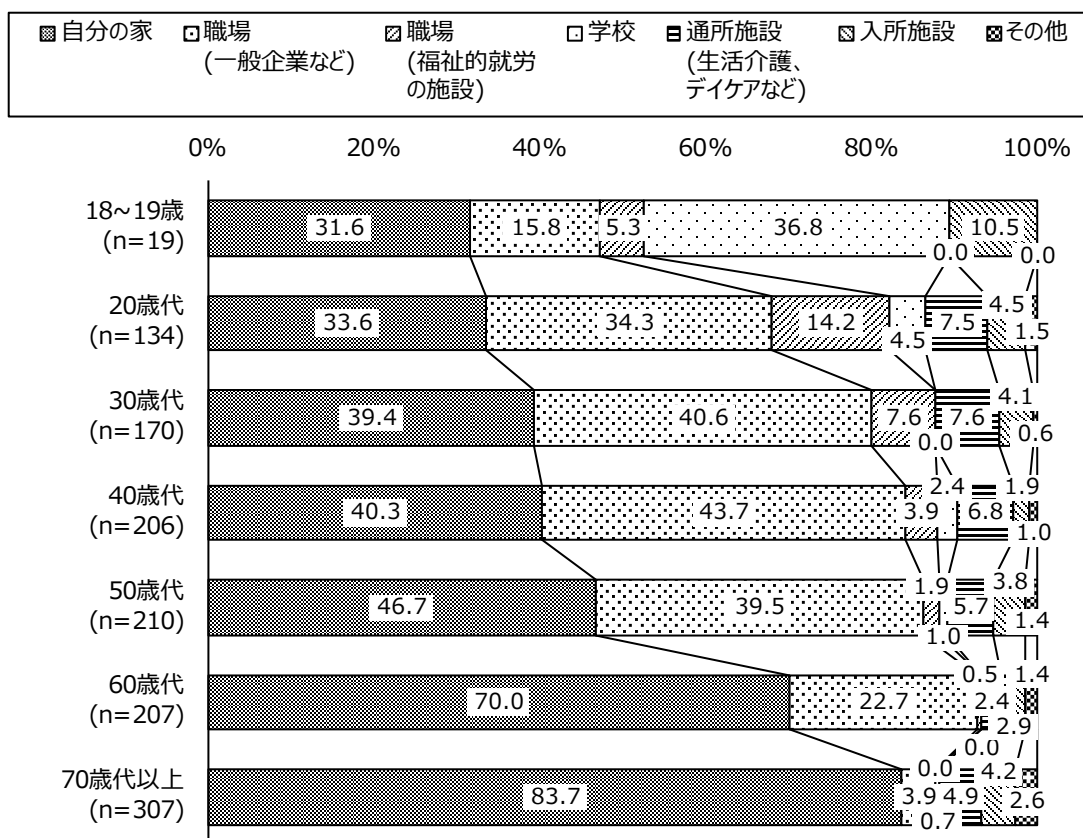
障害種別にみると、「肢体不自由」と「内部障害」では平日の日中に「自分の家」にいる割合が6割を超えた。「精神障害」では「職場」にいる割合が4割を超え、「知的障害」と「音声・言語・そしゃく障害」では「通所施設」にいる割合が1割を超えた。【図表 22】

【図表 22】過去1年間の平日・日中の居場所(障害種別)



年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、平日の日中に「自分の家」にいる割合が高くなる傾向であった。【図表 23】

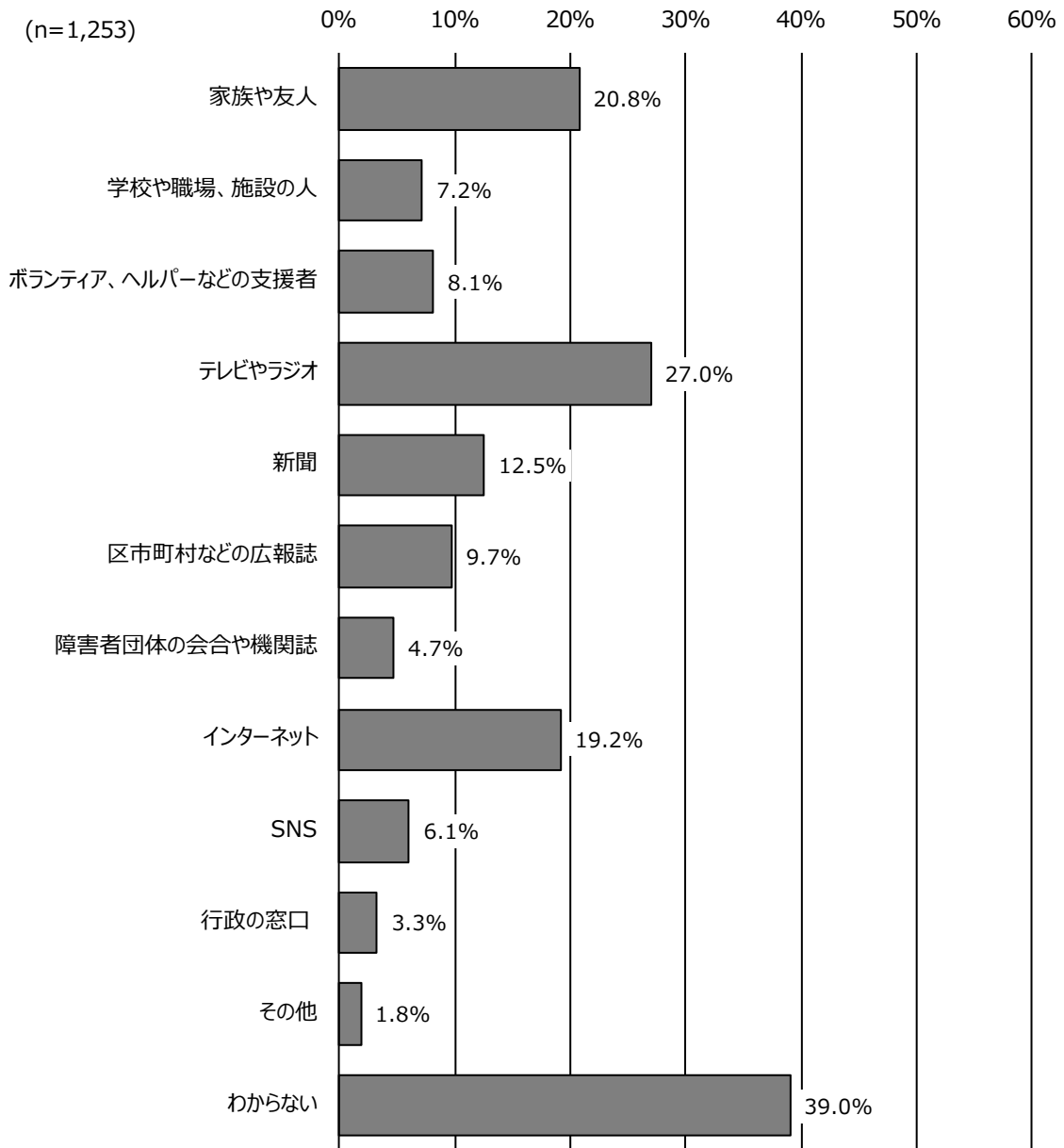
【図表 23】過去1年間の平日・日中の居場所(年齢別)



2.2 スポーツ・運動に関する情報源

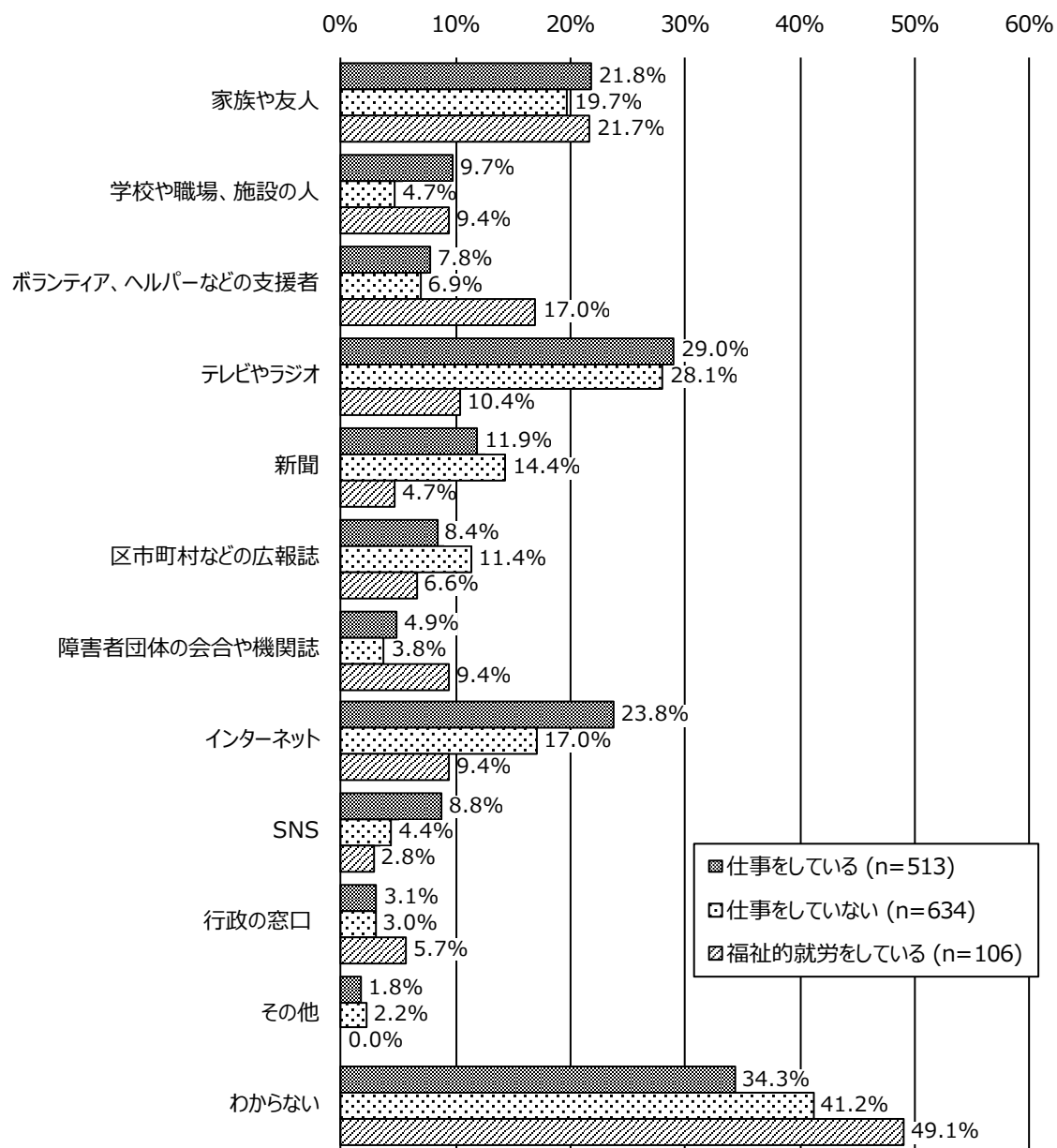
スポーツや運動に関する情報源としては、「テレビやラジオ」の割合が 27.0%で最も高く、次いで「家族や友人」(20.8%)、「インターネット」(19.2%)の順であった。【図表 24】

【図表 24】スポーツ・運動に関する情報源[複数回答]



就業状況別にみると、「仕事をしている」人では、「仕事をしていない」人に比べて、「インターネット」「学校や職場、施設の人」「SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど)」を情報源とする割合が高かった。【図表 25】

【図表 25】スポーツ・運動に関する情報源(就業状況別)[複数回答]

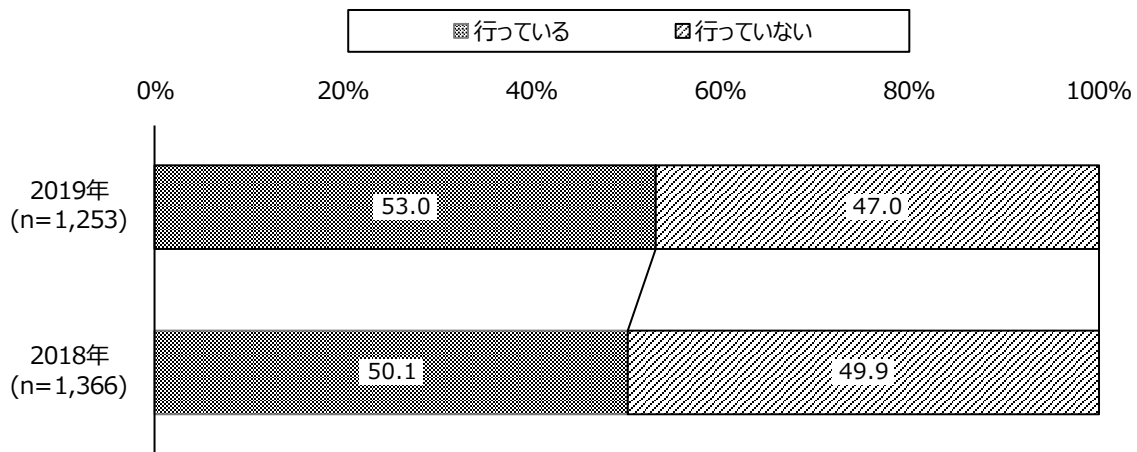


2.3 スポーツ・運動の実施

(1) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

過去1年間のスポーツや運動の実施の有無については、「行っている」が53.0%であった。【図表 26】

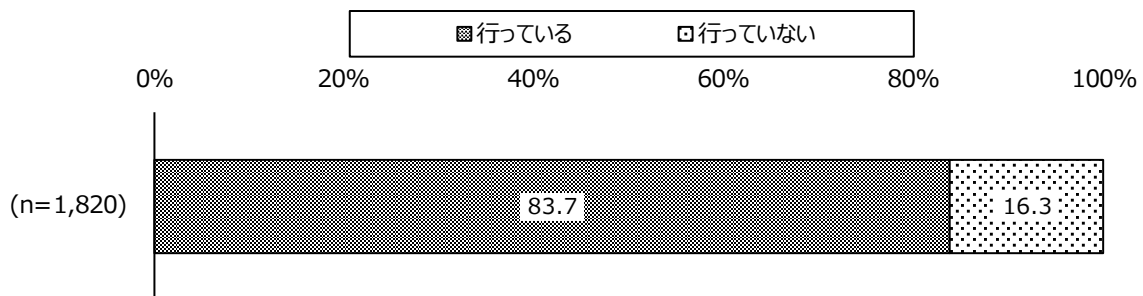
【図表 26】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無



なお、18歳以上の都民全般を対象に実施している『都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査』(東京都生活文化局:平成31年2月)では、年1日以上スポーツ・運動実施者の割合は83.7%であった。【図表 27】

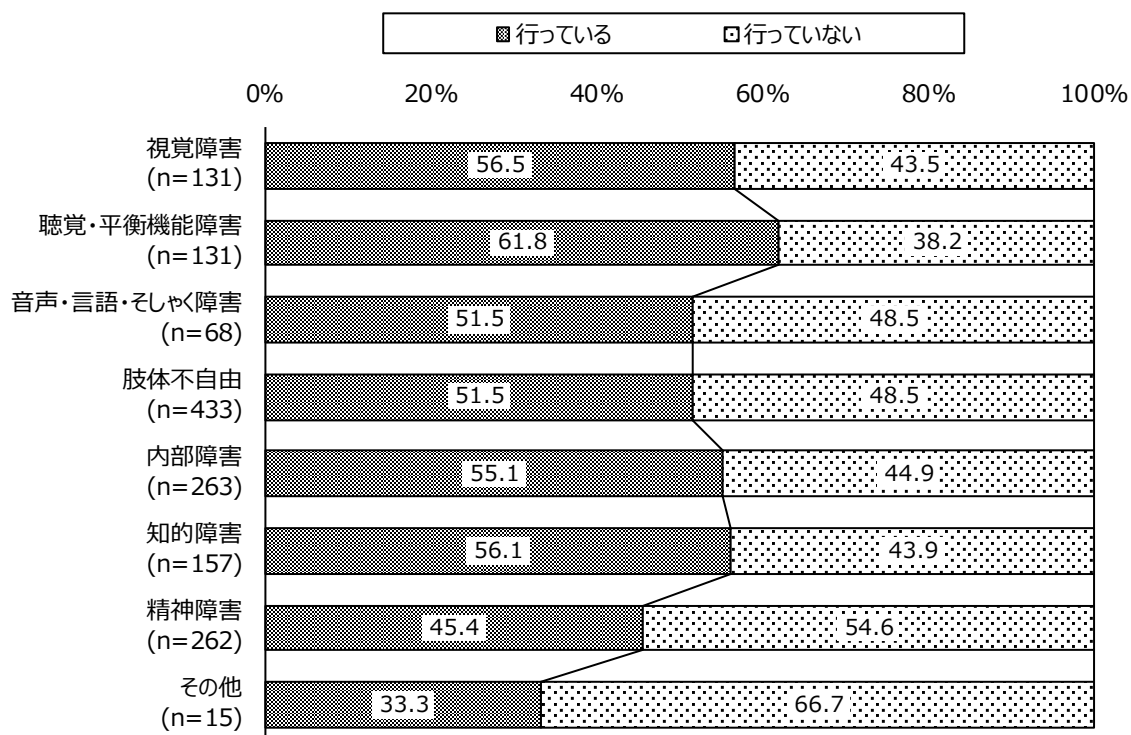
【図表 27】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

『都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査』(東京都生活文化局:平成31年2月)



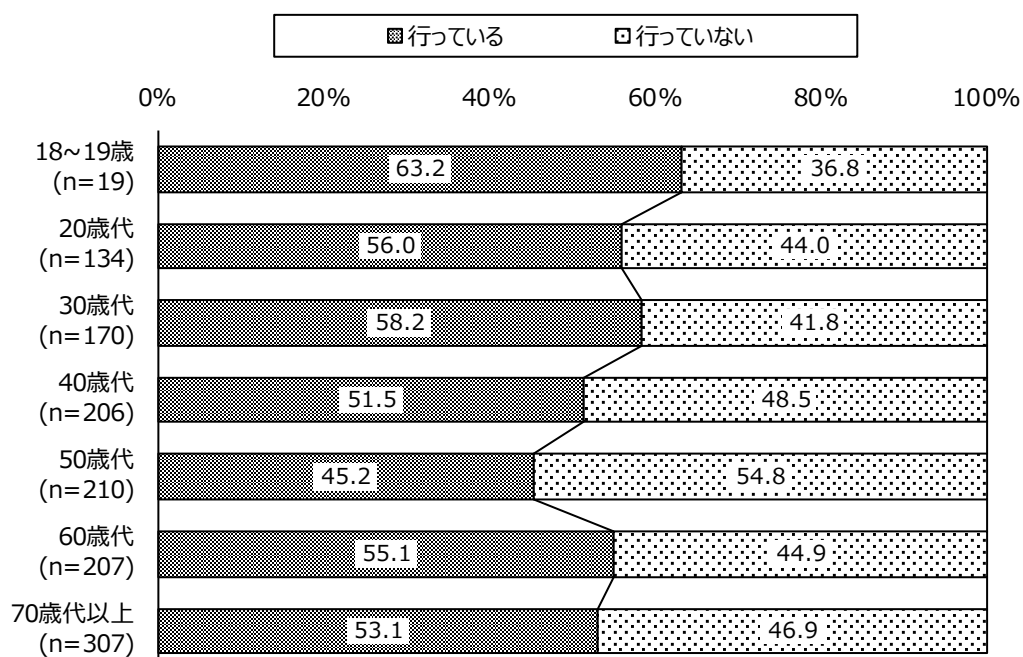
障害種別にみると、「精神障害」では「行っている」が45.4%であったが、「聴覚・平衡機能障害」(61.8%)、「視覚障害」(56.5%)、「知的障害」(56.1%)をはじめ、他の障害ではスポーツ・運動の実施率が5割を超えた。【図表 28】

【図表 28】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害種別)



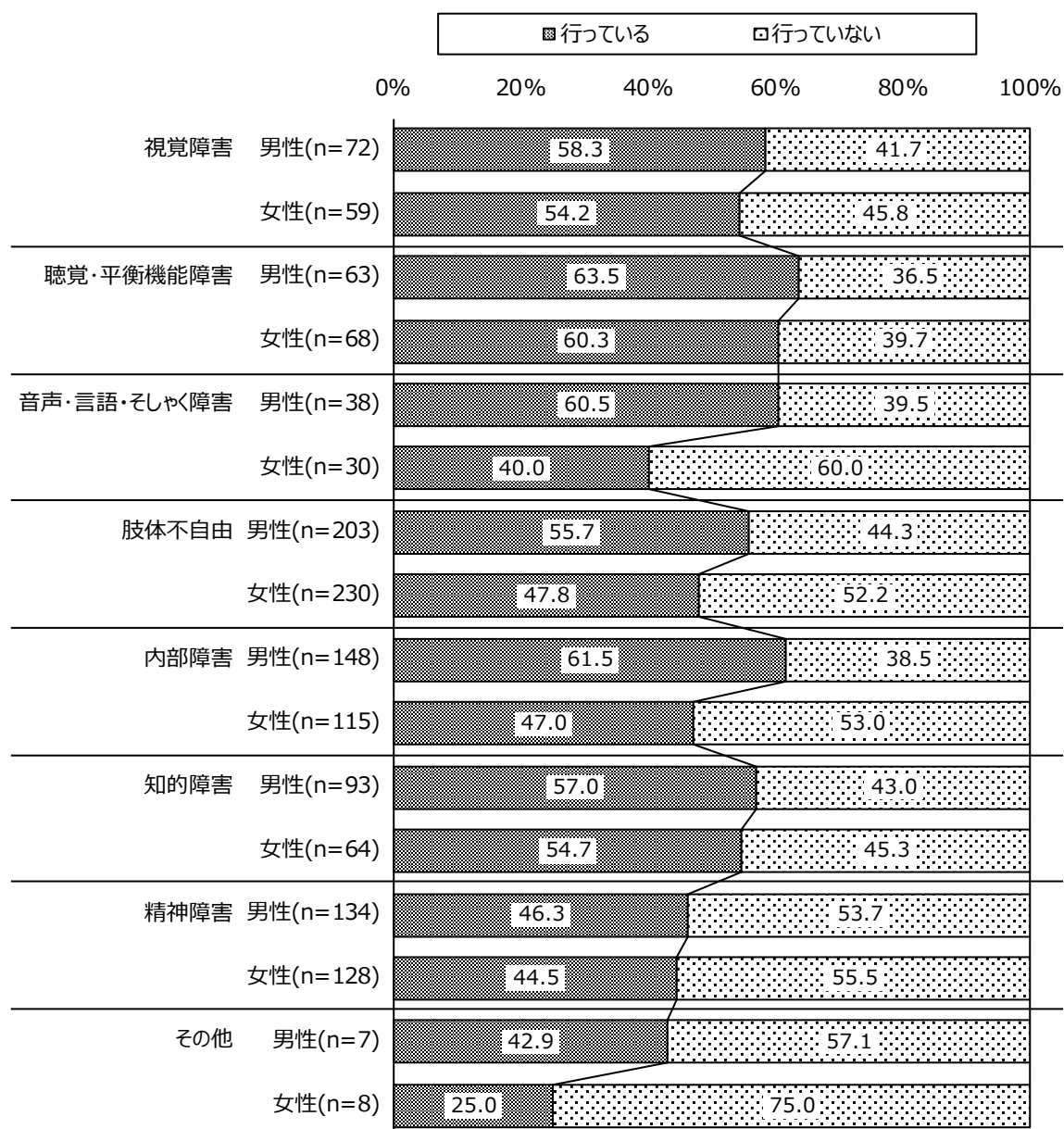
また、年齢別で見ると、スポーツ・運動の実施率は、「50歳代」では45.2%であったが、他の年代では5割を超えた。【図表 29】

【図表 29】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(年齢別)



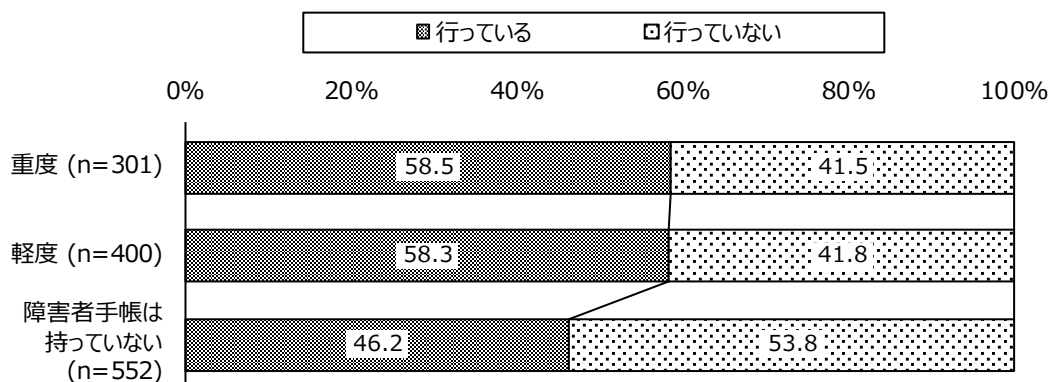
性別で見ると、すべての障害において、女性よりも男性の実施率が高く、「音声・言語・そしゃく障害」では20.5ポイント、「内部障害」では14.5ポイントの差があった。【図表 30】

【図表 30】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害種別・性別)



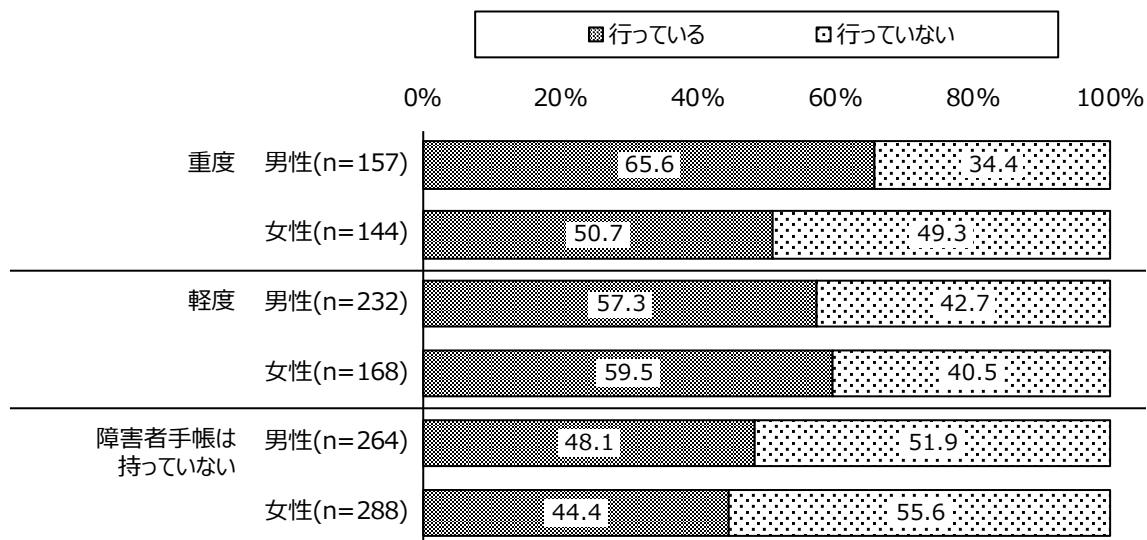
障害の程度別にみると、「重度」が 58.5%、「軽度」が58.3%の実施率であった。また、「障害者手帳の非保持者」の実施率は 46.2%であった。【図表 31】

【図表 31】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害の程度別)



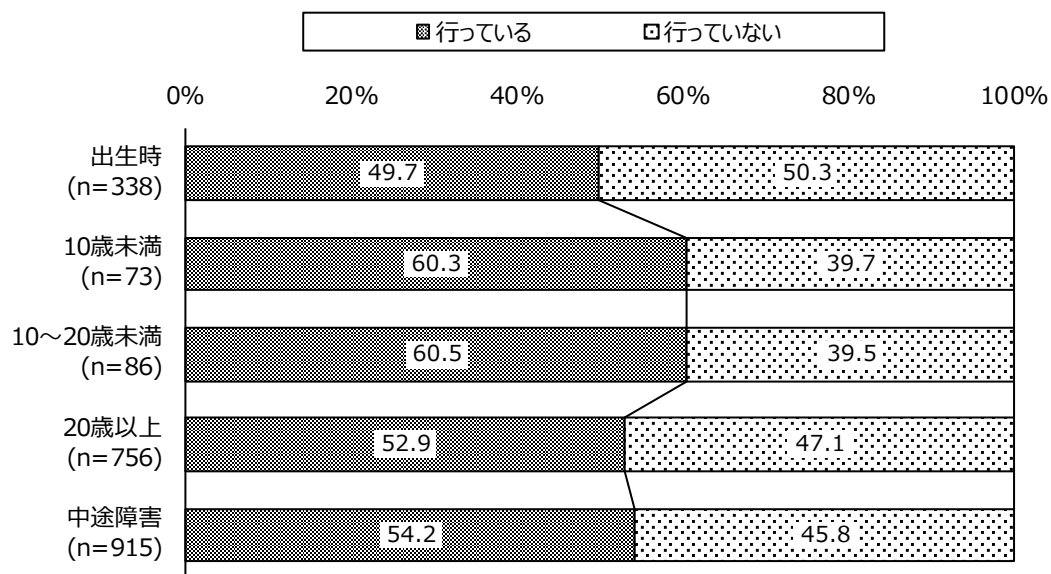
障害の程度ごとに性別で比較すると、重度では、男性の方が女性に比べ、14.9ポイント高かった。【図表 32】

【図表 32】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害の程度別・性別)



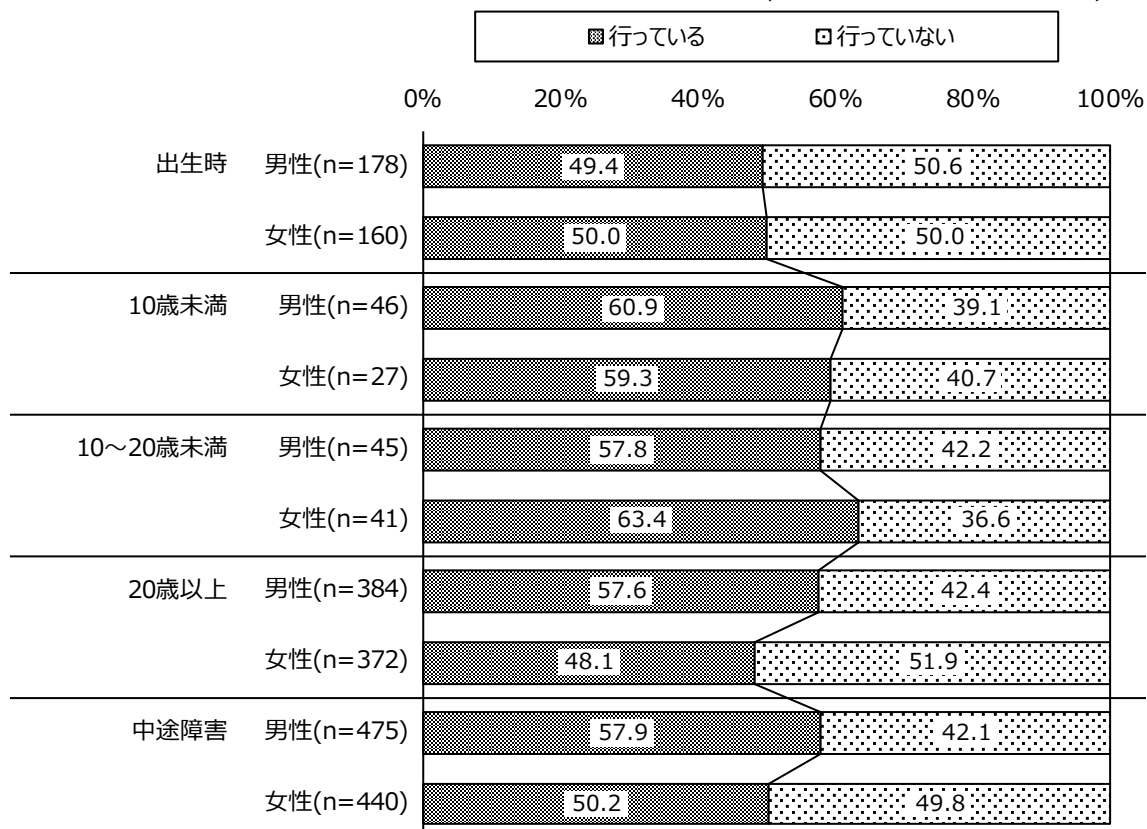
障害の発生年齢別でみると、「出生時」(49.7%)より「中途障害」(54.2%)の実施率の方が高かった。
【図表 33】

【図表 33】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害発生時の年齢別)



障害の発生年齢ごとに性別で比較すると、「出生時」では性別による実施率に違いはなかったが、「中途障害」では、男性の方が女性に比べ、7.7ポイント高かった。【図表 34】

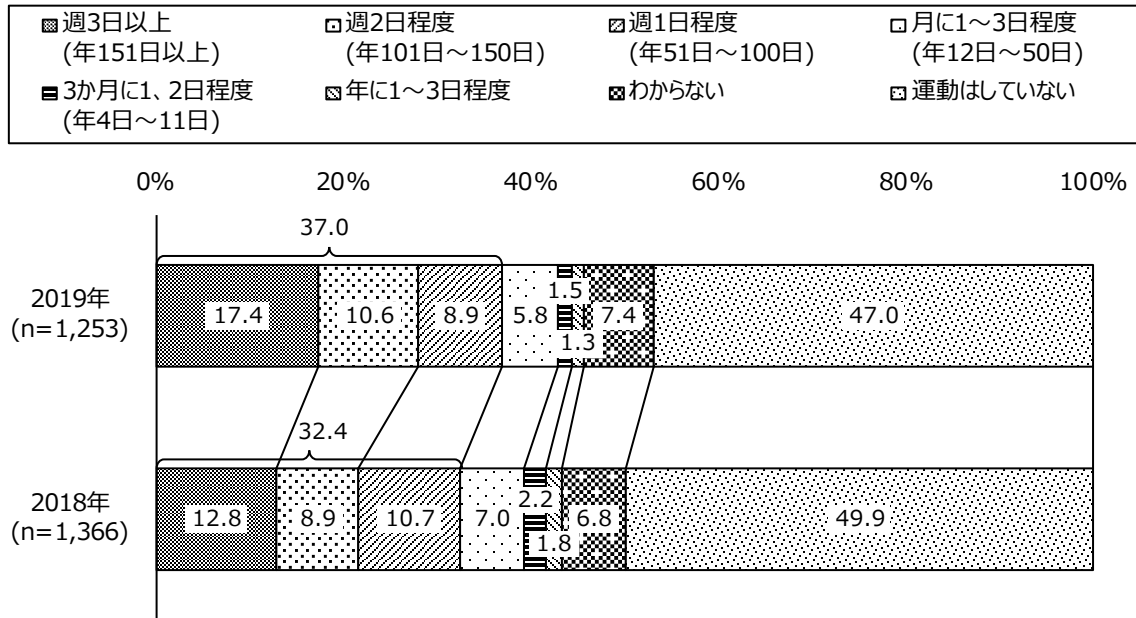
【図表 34】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害発生時の年齢別・性別)



(2) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

過去1年間にスポーツや運動を行った日数について、「週3日以上」が17.4%、「週2日程度」が10.6%、「週1日程度」が8.9%と、週1日以上の実施者は37.0%であり、昨年度に比べ4.6ポイント高かった。なお、「運動はしていない」は47.0%であった。【図表 35】

【図表 35】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

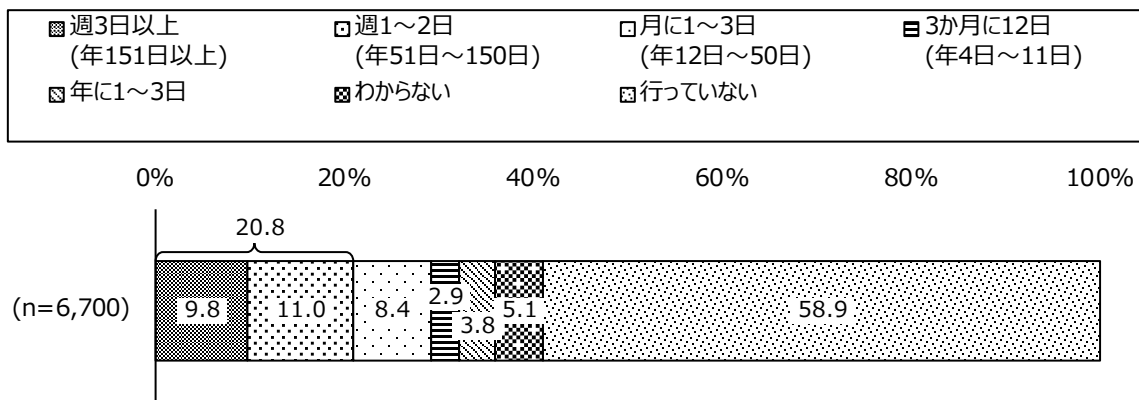


※ 本調査の設問番号6-2に「運動はしていない」との選択肢はないが、設問番号6において、過去1年間に実施したスポーツ・運動は「特になし」と回答のあった数値を「運動はしていない」と整理している(以下、同様)。

スポーツ庁が全国の障害児・者を対象に実施している『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』(笹川スポーツ財団:平成30年3月)では、成人の週1日以上の実施者は20.8%であった。【図表 36】

【図表 36】過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

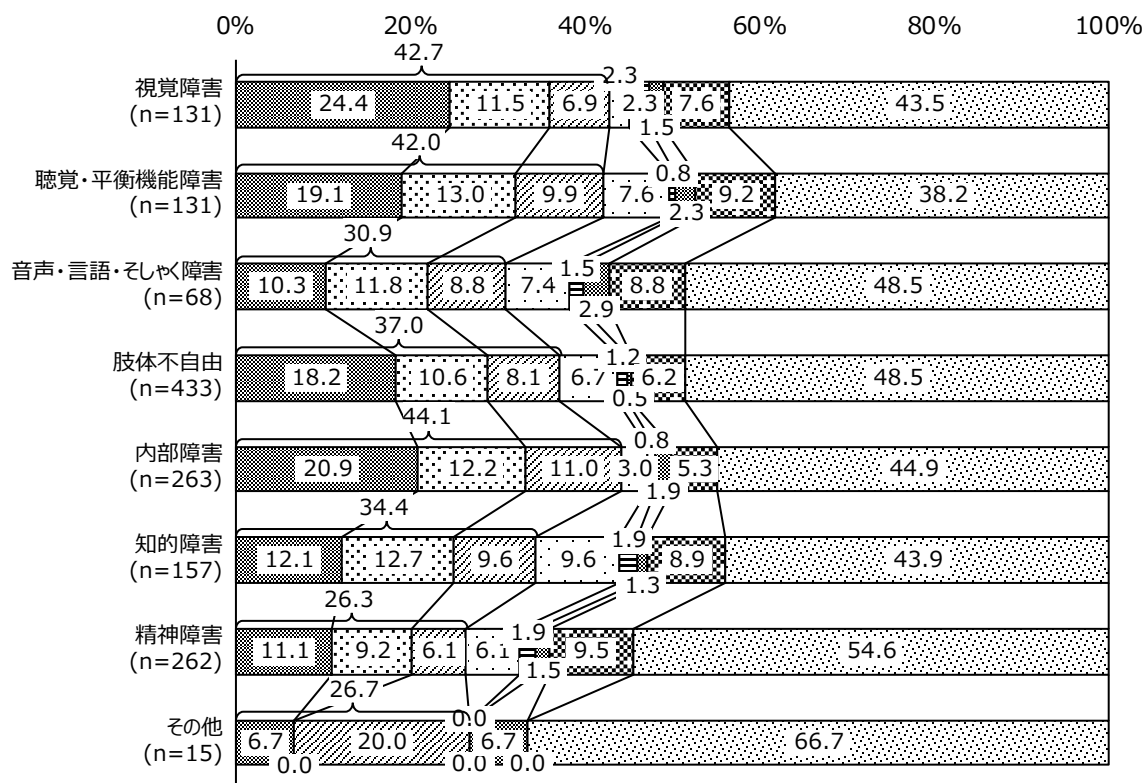
『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』
(笹川スポーツ財団:平成30年3月)



障害種別でみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「内部障害」が44.1%、「視覚障害」が42.7%、「聴覚・平衡機能障害」が42.0%であったのに対して、「音声・言語・そしゃく障害」は30.9%、「精神障害」は26.3%であった。【図表 37】

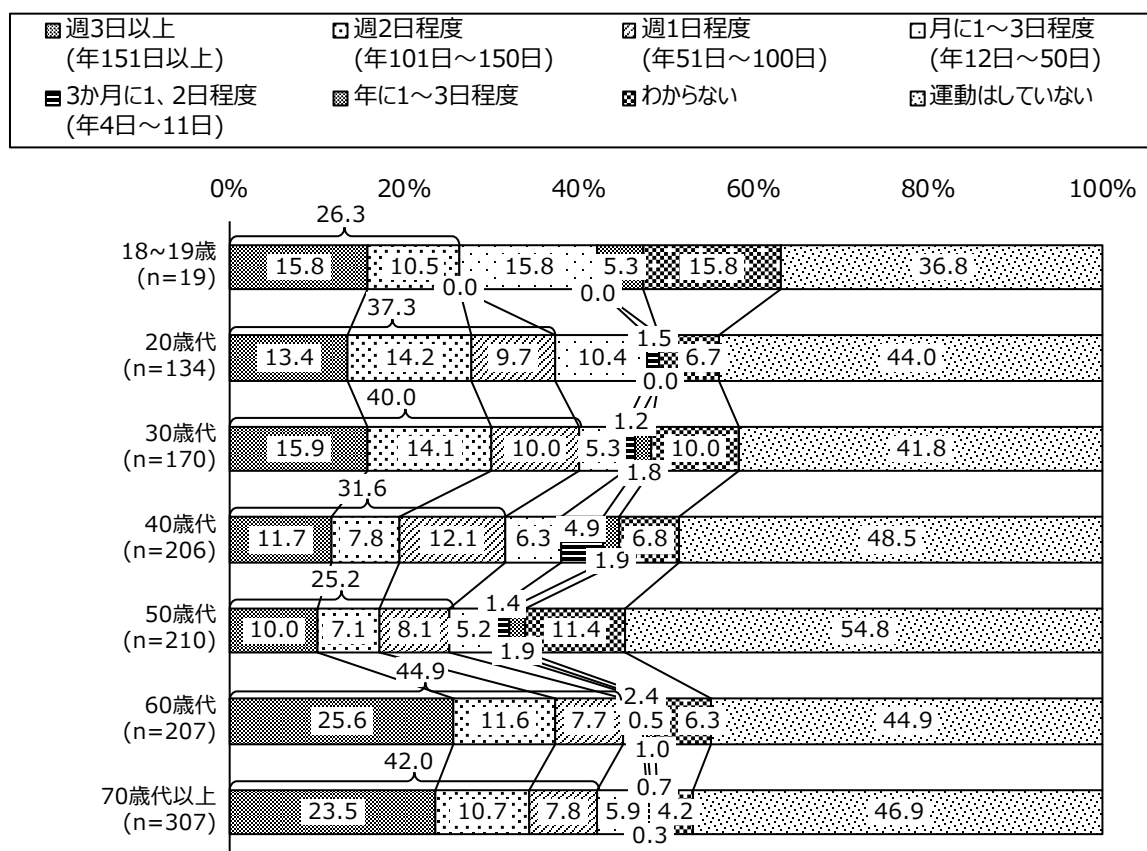
【図表 37】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(障害種別)

■ 週3日以上 (年151日以上)	□ 週2日程度 (年101日~150日)	▨ 週1日程度 (年51日~100日)	□ 月に1~3日程度 (年12日~50日)
■ 3か月に1、2日程度 (年4日~11日)	■ 年に1~3日程度	■ わからない	□ 運動はしていない



年齢別でみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「30歳代」「60歳代」「70歳代以上」で4割を超え、このうち、「60歳代」と「70歳代以上」では、週3日以上の実施者の割合が2割を超えた。

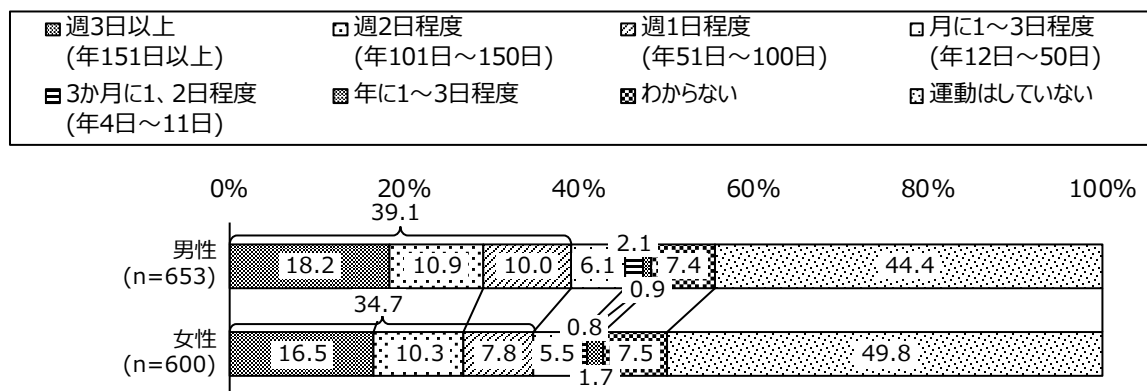
【図表 38】



【図表 38】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(年齢別)

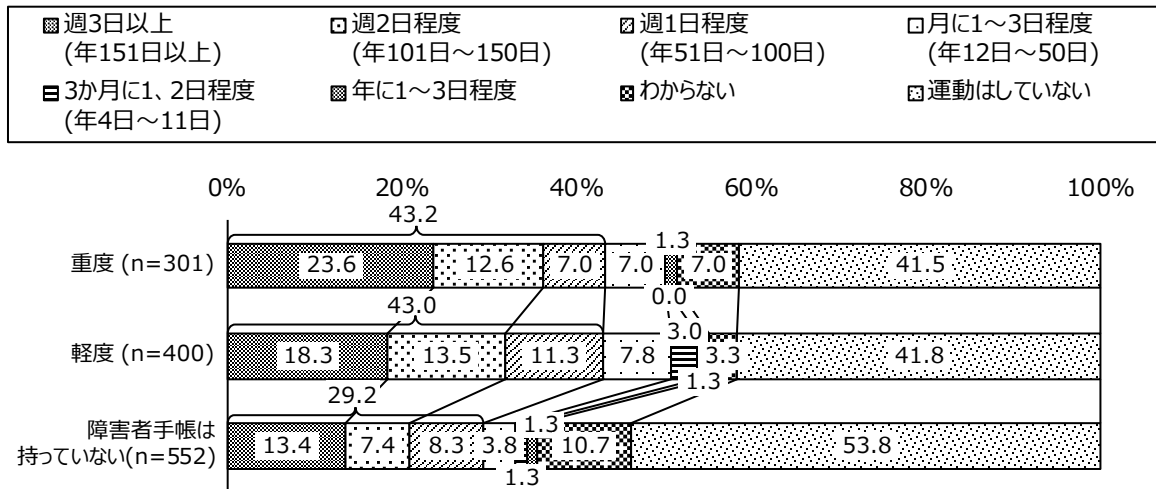
性別でみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「男性」が39.1%、「女性」が34.7%であった。【図表 39】

【図表 39】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(性別)



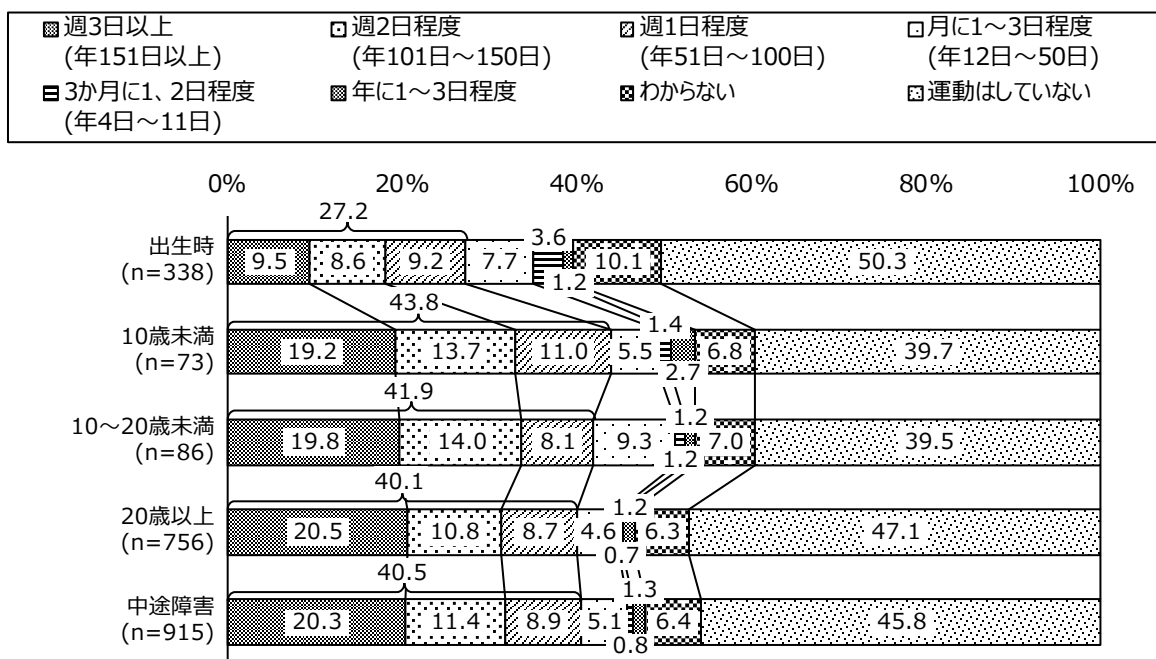
障害の程度でみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「重度」が43.2%、「軽度」が43.0%であった。なお、「障害者手帳の非保持者」は29.2%であった。【図表 40】

【図表 40】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(障害の程度別)



障害発生年齢別でみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「中途障害」が40.5%、「出生時」が27.2%であった。【図表 41】

【図表 41】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(障害発生時の年齢別)

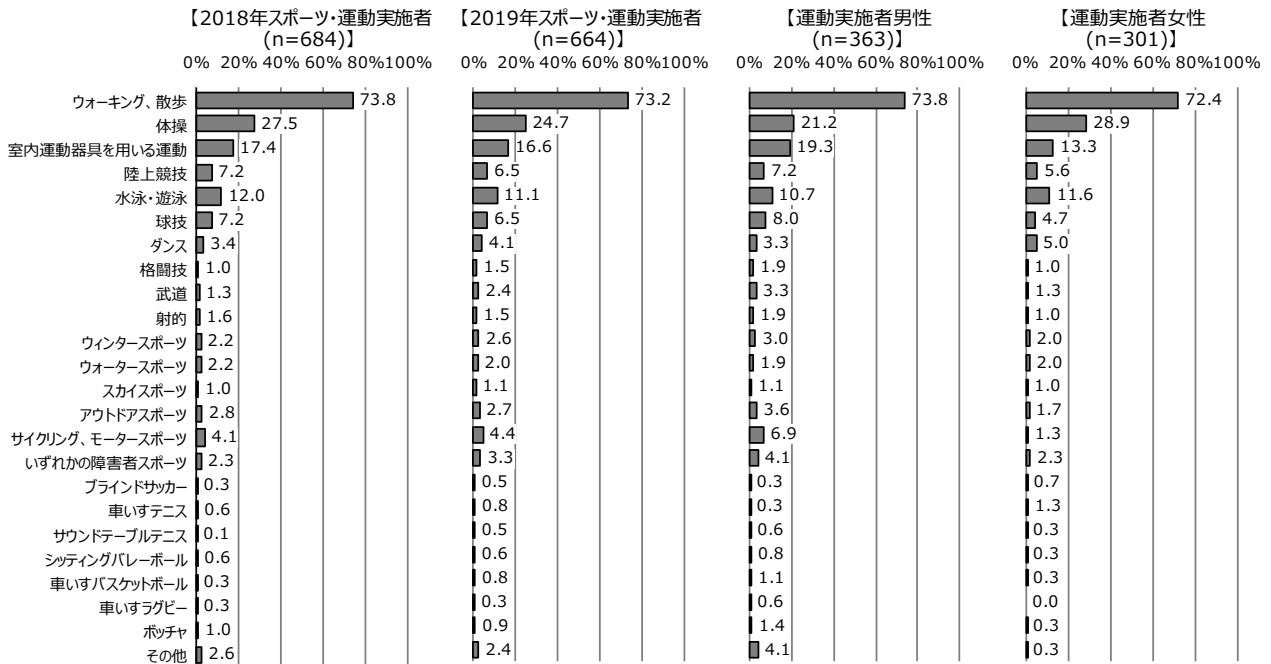


(3) 過去1年間に行ったスポーツ・運動

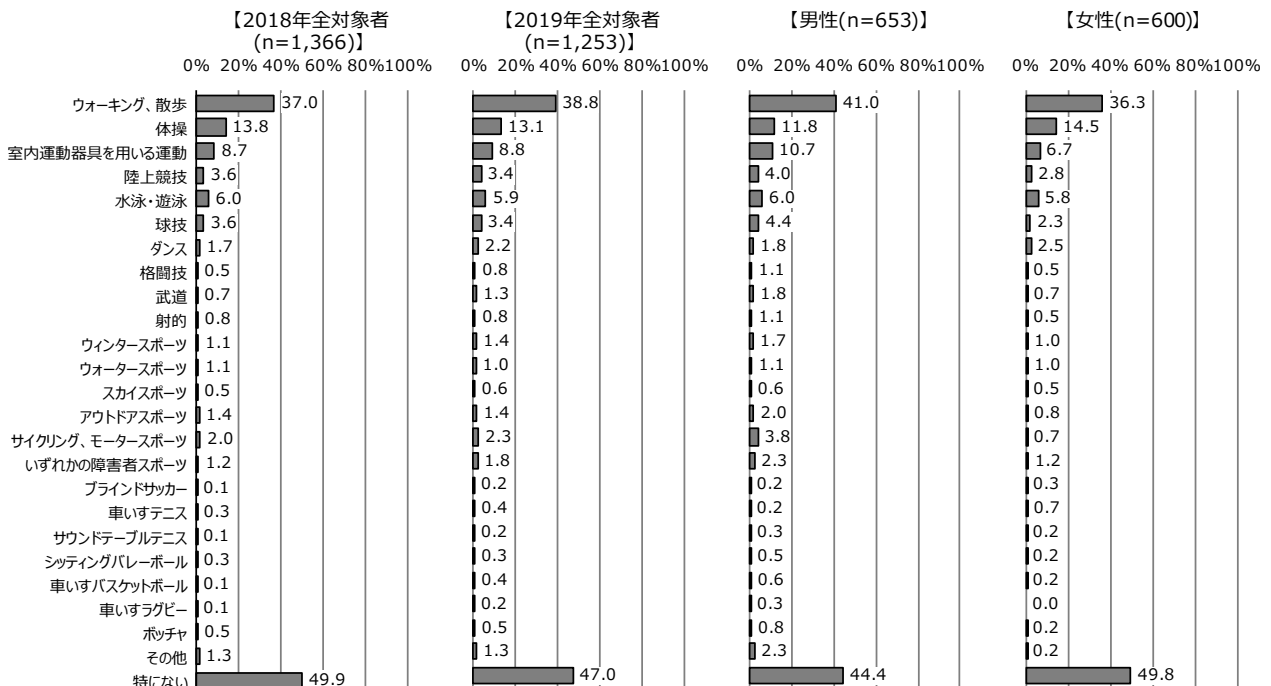
過去1年間にスポーツや運動を「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・運動を行ったかについてみると、実施率の高かったものから順に、「ウォーキング、散歩」(73.2%)、「体操」(24.7%)、「室内運動器具を用いる運動」(16.6%)、「水泳・遊泳」(11.1%)、「陸上競技」(6.5%)、「球技」(6.5%)であった。これら上位種目の順位は昨年度と変わらず、また、それぞれの実施率も昨年度とほぼ同様であった。

【図表 42】

【図表 42】過去1年間に行ったスポーツ・運動[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



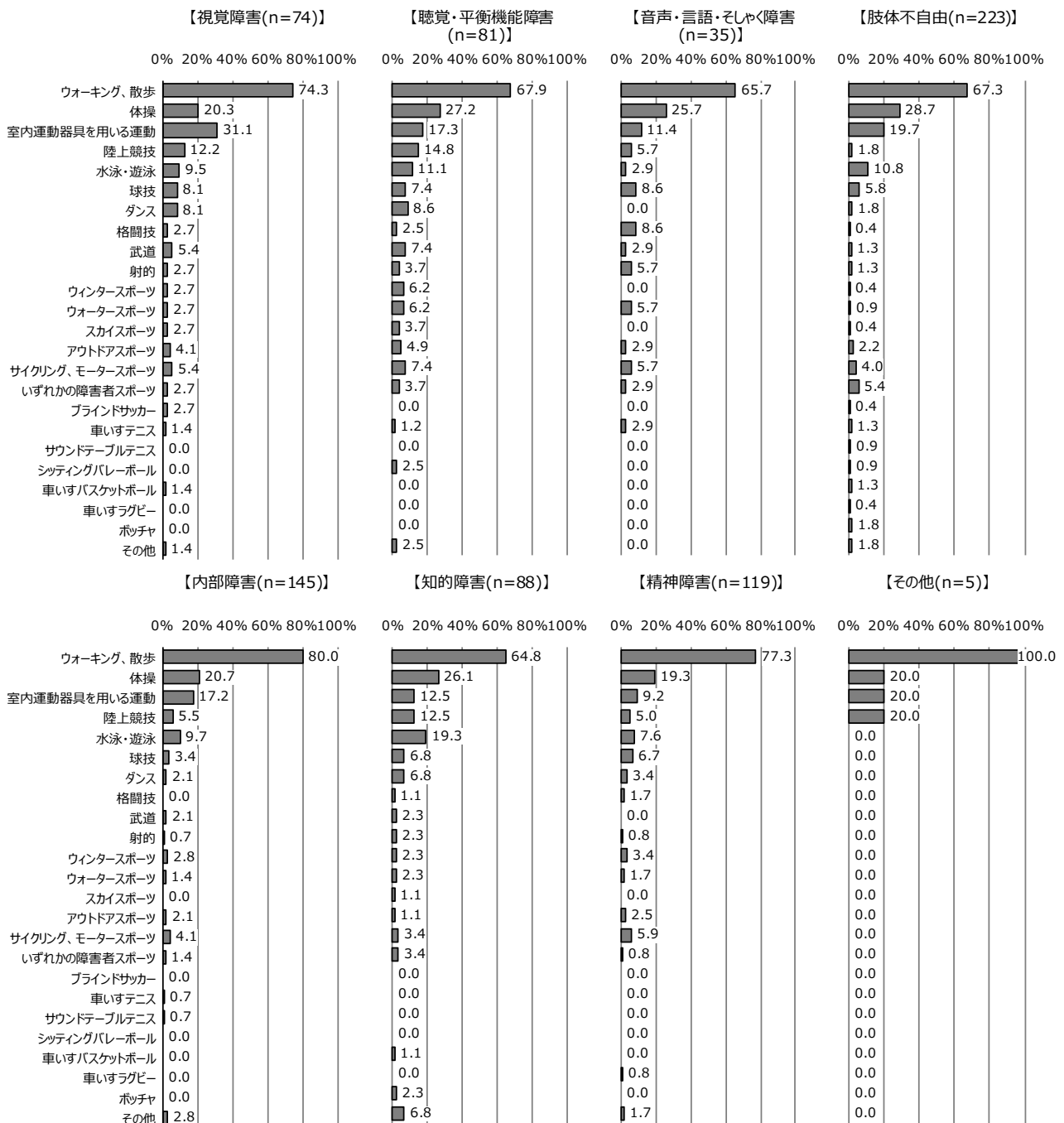
【図表 43】過去1年間に行ったスポーツ・運動[複数回答]<全対象者>



※ 実際の調査では、この設問に「障害者スポーツ」という単語での選択肢は設定されていない。以降、当報告書内における「障害者スポーツ」の分類は、「ブラインドサッカー」「車いすテニス」「サウンドテーブルテニス」「シッティングバレーボール」「車いすバスケットボール」「車いすラグビー」「ボッチャ」の選択肢の回答を合計した数値である。

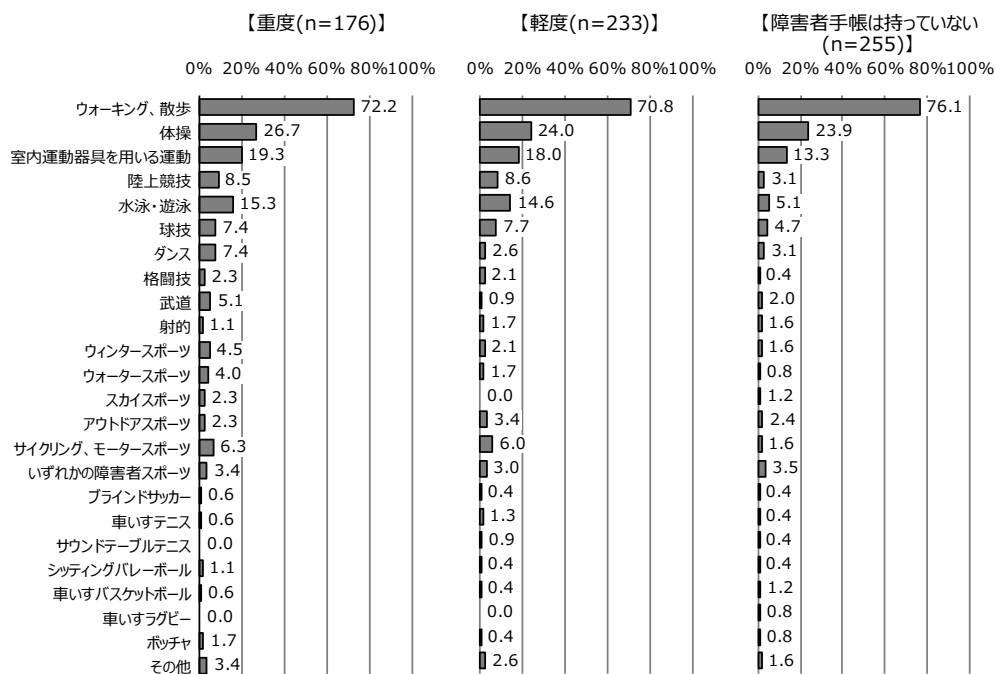
障害種別にみると、どの障害種別でも「ウォーキング、散歩」が最も高く、「体操」、「室内運動器具を用いる運動」も4位までに入った。「聴覚・平衡機能障害」「知的障害」「視覚障害」は、他の障害と比べて「陸上競技」(それぞれ14.8%、12.5%、12.2%)の割合が高かった。また、「知的障害」は、他の障害と比べて「水泳・遊泳」(19.3%)の割合が高かった。【図表 44】

【図表 44】過去1年間に行ったスポーツ・運動(障害種別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



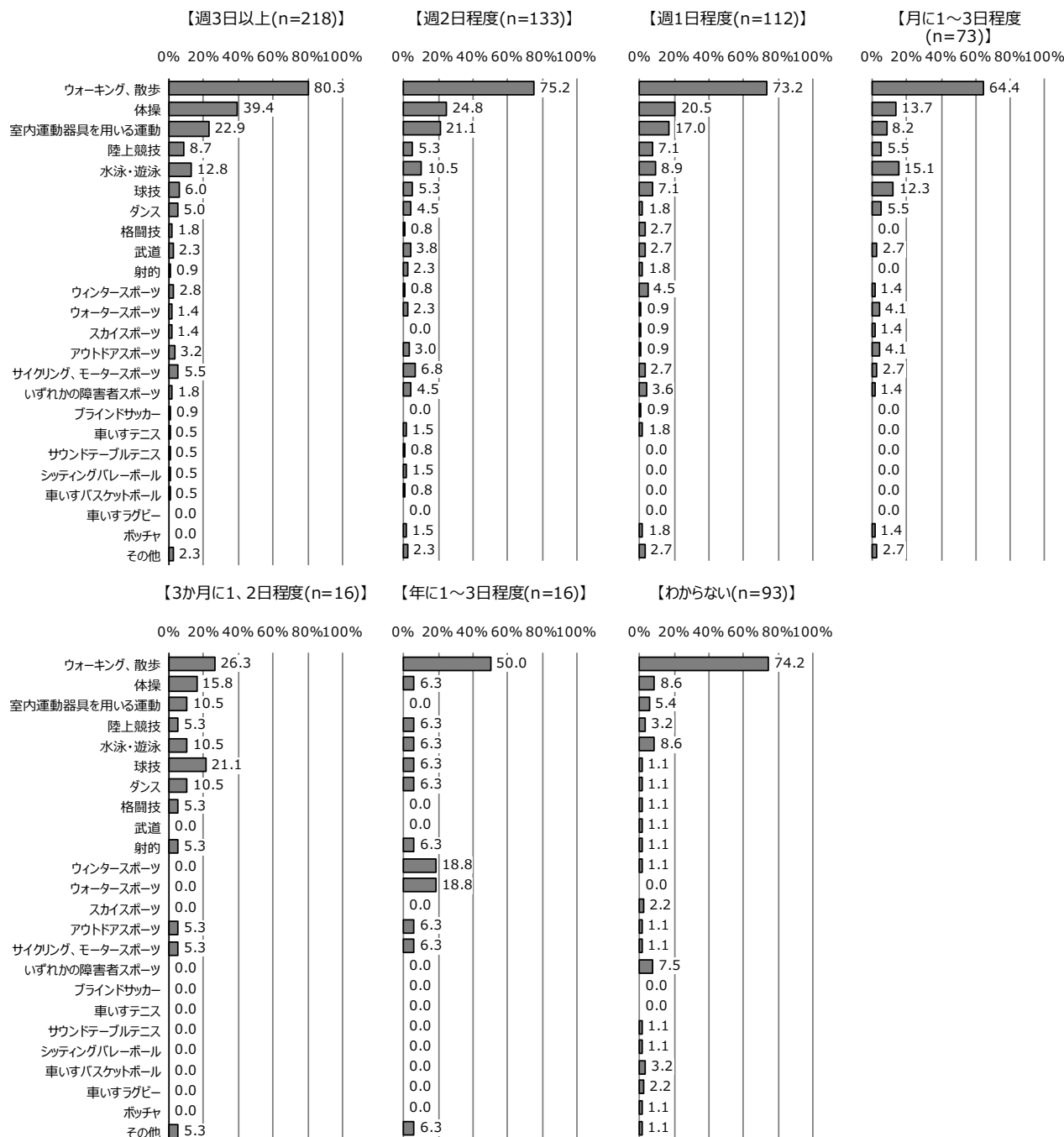
障害の程度別にみると、いずれも実施率が高いものから順に「ウォーキング、散歩」「体操」「室内運動器具を用いる運動」「水泳・遊泳」であった。このうち「水泳・遊泳」については、「障害者手帳の非保持者」では5.1%であったのに対して、「重度」と「軽度」では、それぞれ15.3%、14.6%と、障害者手帳の保有状況による違いが大きかった。【図表 45】

【図表 45】過去1年間に行ったスポーツ・運動(障害の程度別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



過去1年間のスポーツ・運動の実施日数別にみると、特に「ウォーキング、散歩」「体操」「室内運動器具を用いる運動」については、実施日数が多いほど、実施率が高くなる傾向であった。【図表 46】

【図表 46】過去1年間に行ったスポーツ・運動(スポーツ・運動実施頻度別)[複数回答]
 <スポーツ・運動実施者>

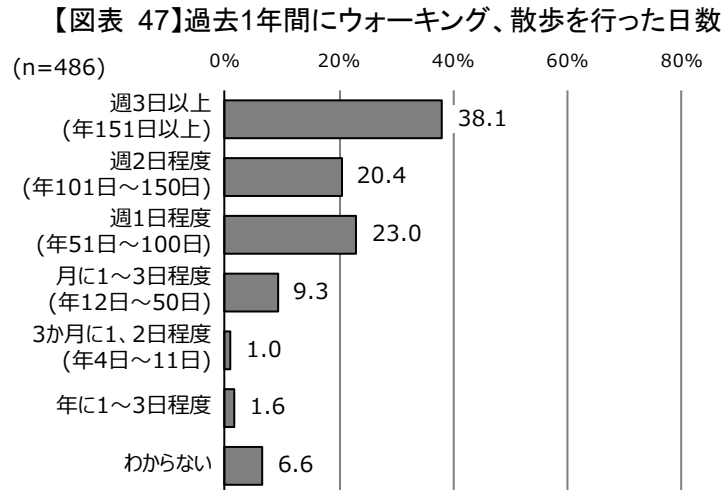


(4) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(種目別)

過去1年間の実施率が高かった(実施者数がn=50人以上の)主なスポーツ・運動別に、それぞれのスポーツや運動を行った日数についてまとめた。

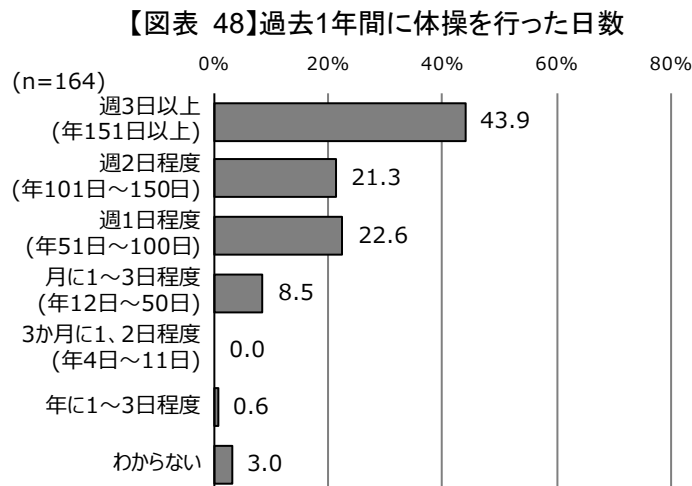
(ア) ウォーキング、散歩

過去1年間にウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)を行った人の38.1%が「週3日以上(年151日以上)」行っており、「週2日程度」が20.4%、「週1日程度」が23.0%で、合わせて81.5%が週1日以上実施していた。【図表 47】



(イ) 体操

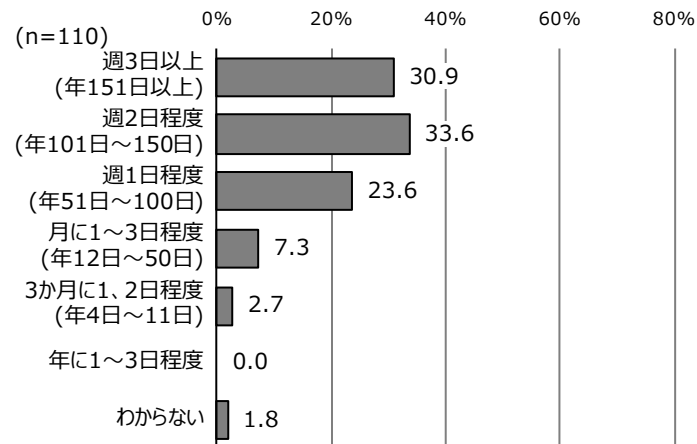
過去1年間に体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)を行った人の43.9%が「週3日以上(年151日以上)」行っており、「週2日程度」が21.3%、「週1日程度」が22.6%で、合わせて87.8%が週1日以上実施していた。【図表 48】



(ウ) 室内運動器具を用いる運動

過去1年間に室内運動器具(ウェイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動を行った人の30.9%が「週3日以上(年151日以上)」行っており、「週2日程度」が33.6%、「週1日程度」が23.6%で、合わせて88.2%が週1日以上実施していた。【図表 49】

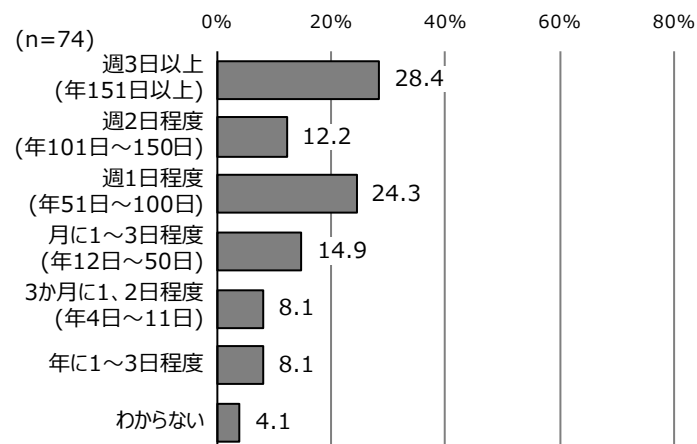
【図表 49】過去1年間に室内運動器具を用いる運動を行った日数



(エ) 水泳・遊泳

過去1年間に水泳・遊泳(水中歩行・水中運動)を行った人の28.4%が「週3日以上(年151日以上)」行っており、「週2日程度」が12.2%、「週1日程度」が24.3%で、合わせて64.9%が週1日以上実施していた。【図表 50】

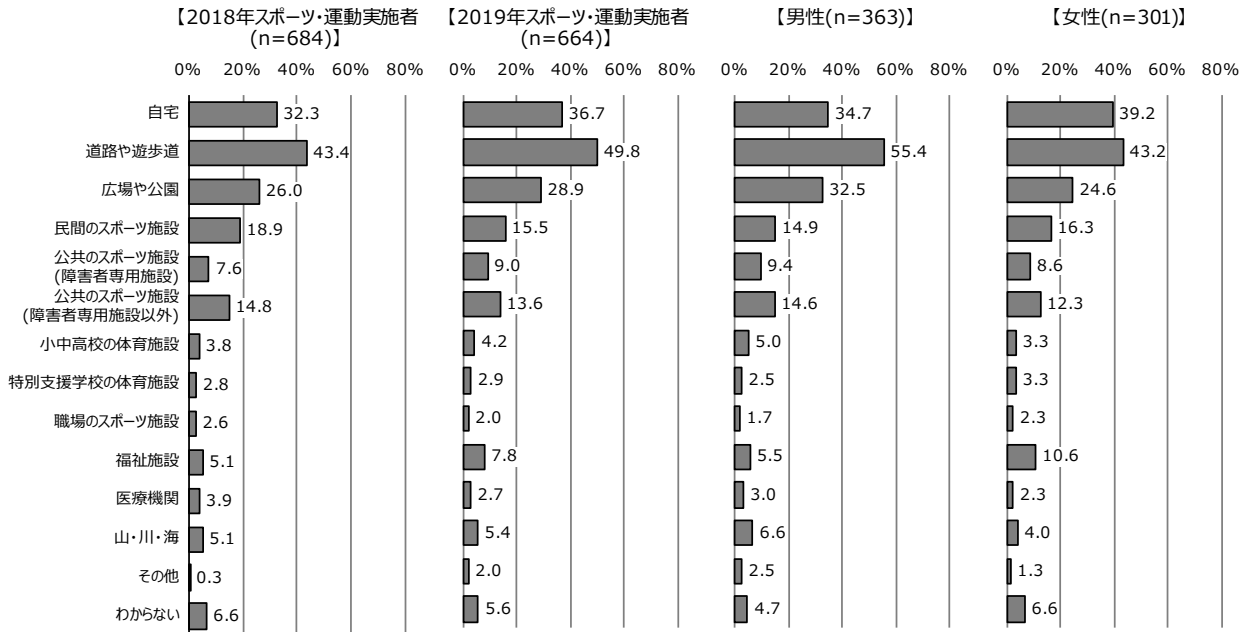
【図表 50】過去1年間に水泳・遊泳を行った日数



(5) スポーツ・運動を実施する場所

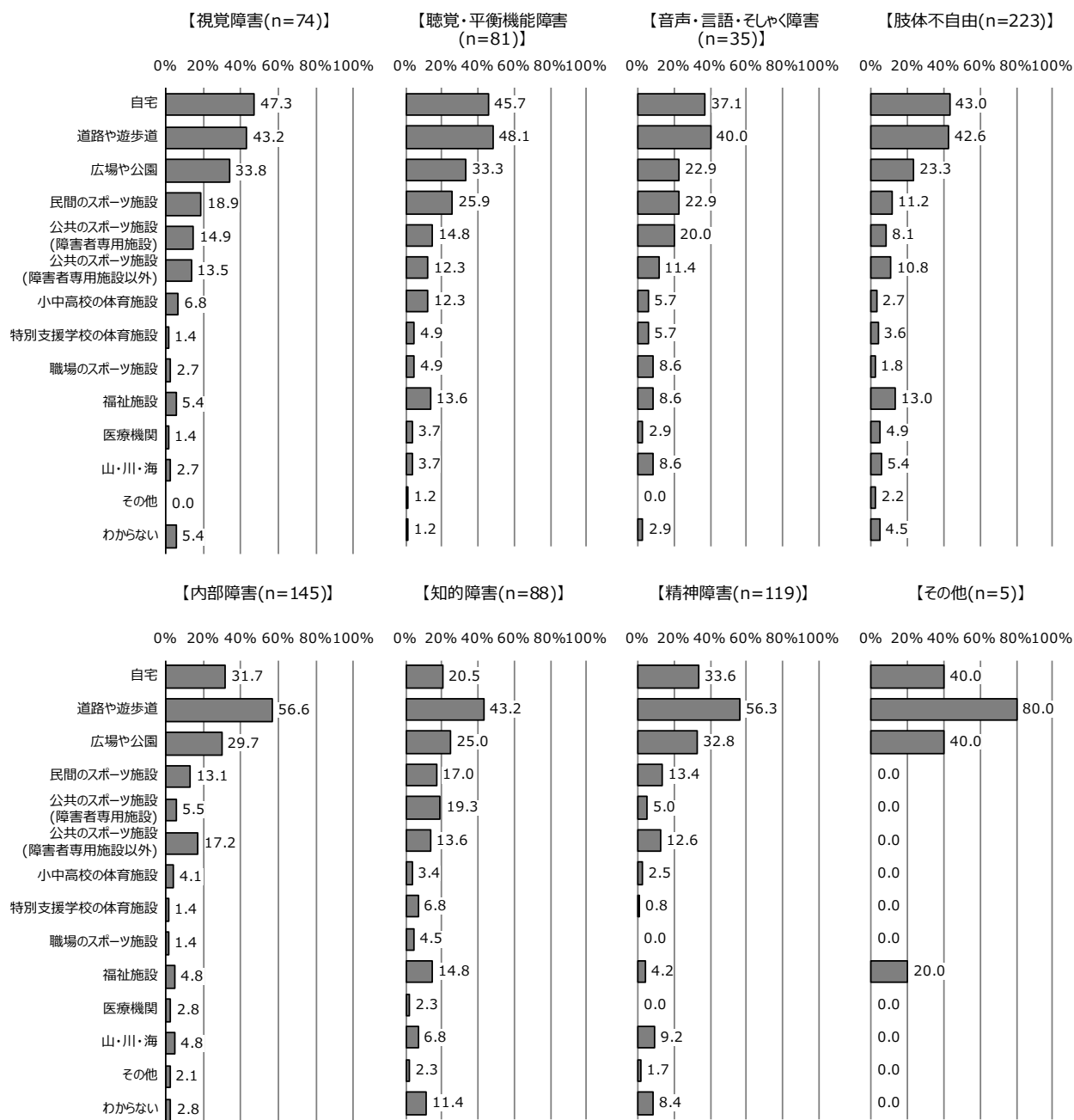
スポーツや運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」が49.8%と最も高く、次いで「自宅」(36.7%)、「広場や公園」(28.9%)、「民間のスポーツ施設」(15.5%)、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)」(13.6%)の順であった。これら上位実施場所の順位は昨年度と同様であった。なお、昨年度に比べ、「道路や遊歩道」は6.4ポイント、「自宅」は4.4ポイント高かった。【図表 51】

【図表 51】スポーツ・運動を実施する場所[複数回答]



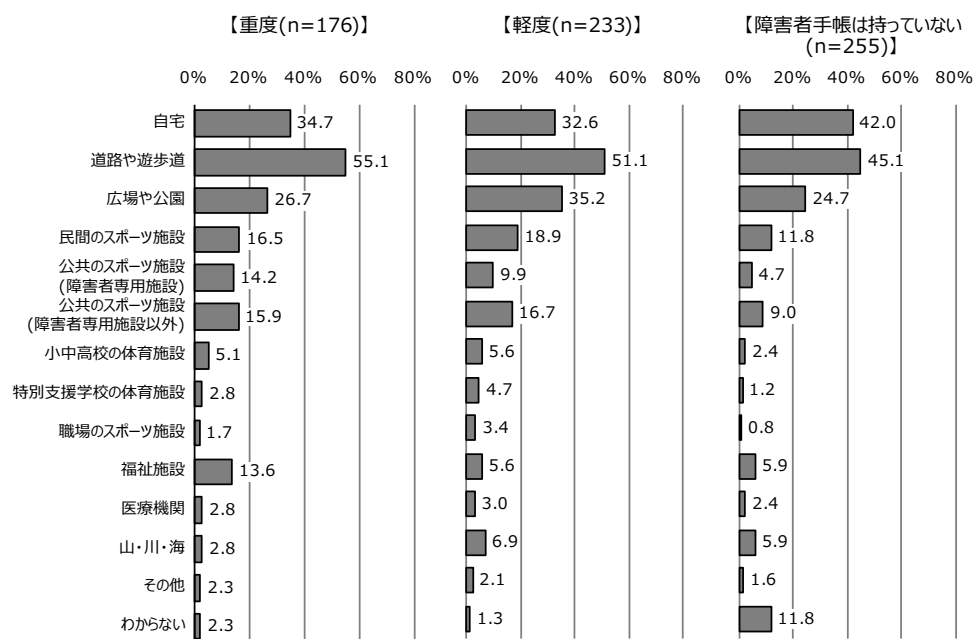
障害種別にみると、「聴覚・平衡機能障害」と「音声・言語・そしゃく障害」で「民間のスポーツ施設」が2割を超えており、「視覚障害」と「知的障害」でも2割近くであった。また、「音声・言語・そしゃく障害」と「知的障害」で、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設)」の割合が2割程度であった。【図表 52】

【図表 52】スポーツ・運動を実施する場所(障害種別)[複数回答]



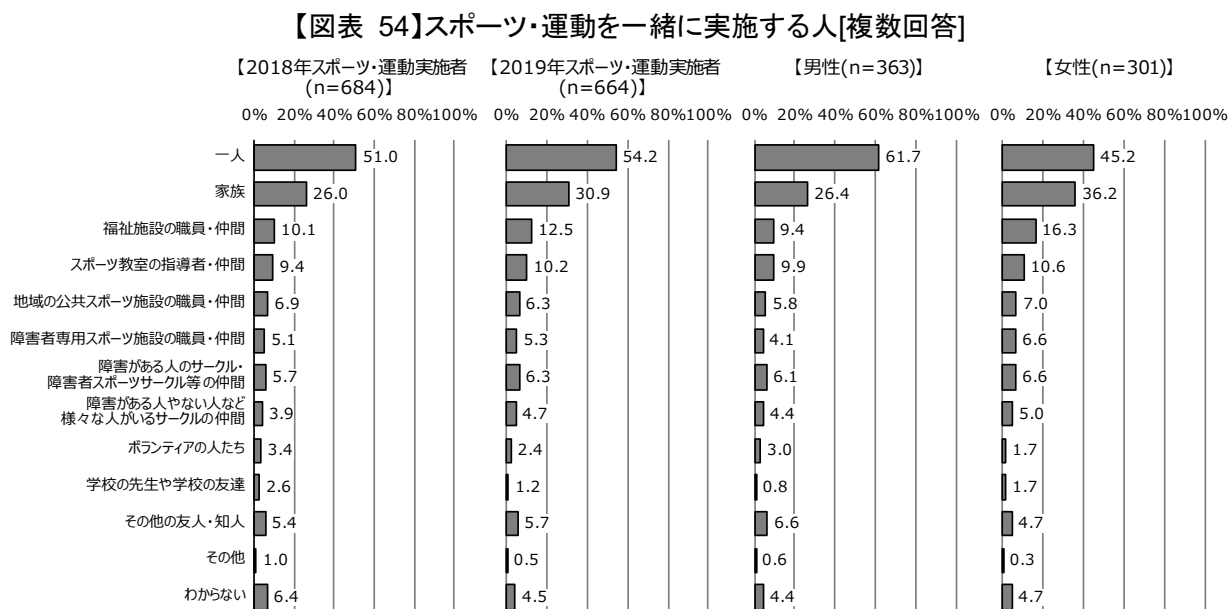
障害の程度別にみると、「軽度」では、「重度」と「障害者手帳の非保持者」に比べて、「広場や公園」の割合が高かった。【図表 53】

【図表 53】スポーツ・運動を実施する場所(障害の程度別)[複数回答]



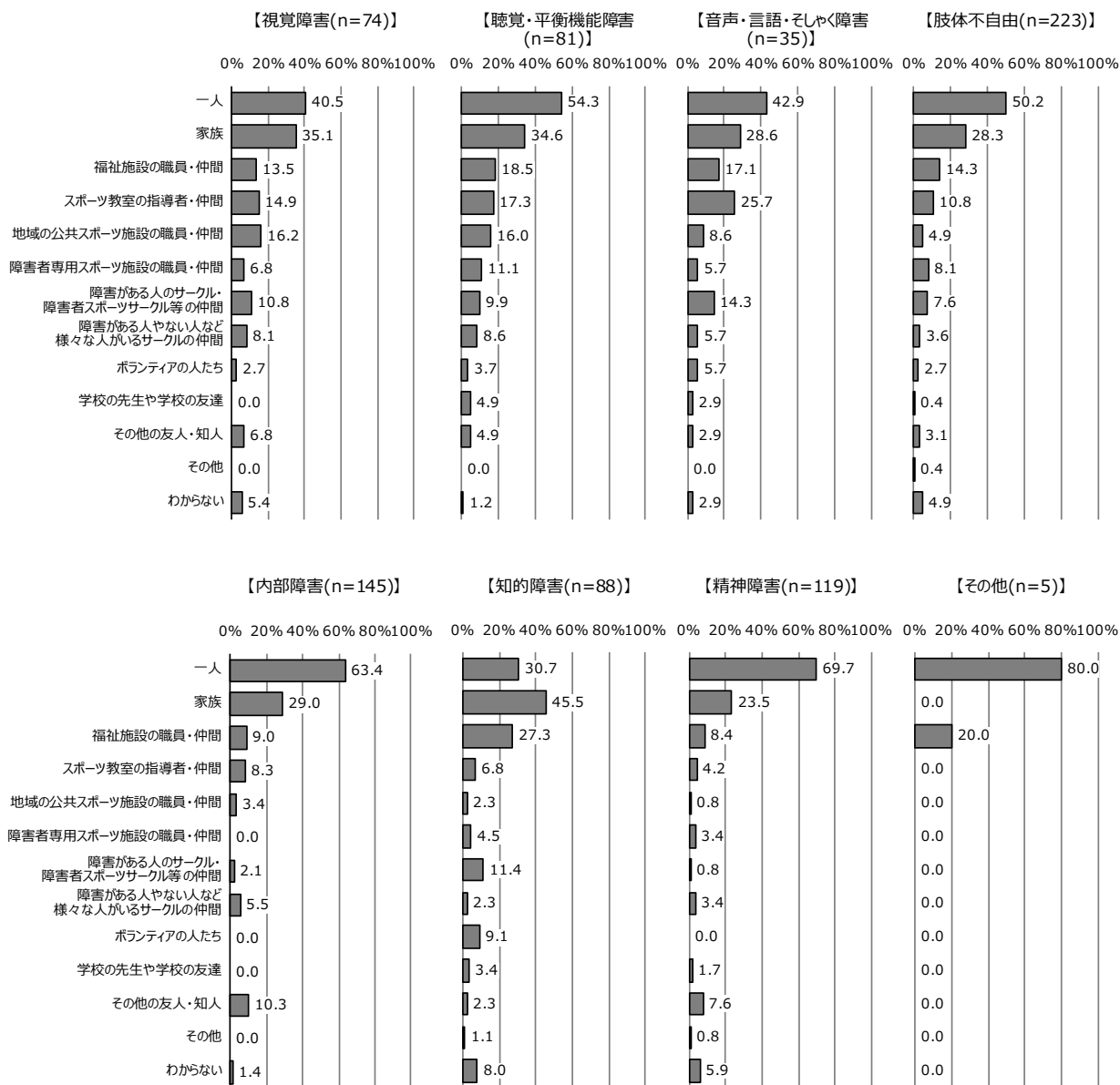
(6) スポーツ・運動を一緒に実施する人

スポーツや運動を一緒に実施する人は、「一人」の割合が54.2%で最も高く、次いで「家族」(30.9%)、「福祉施設の職員・仲間」(12.5%)、「スポーツ教室の指導者・仲間」(10.2%)、「地域の公共スポーツ施設の職員・仲間」(6.3%)、「障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間」(6.3%)の順であった。これら上位項目の順位は昨年度と同様であった。なお、昨年度に比べ、「家族」が4.9ポイント高かった。【図表 54】



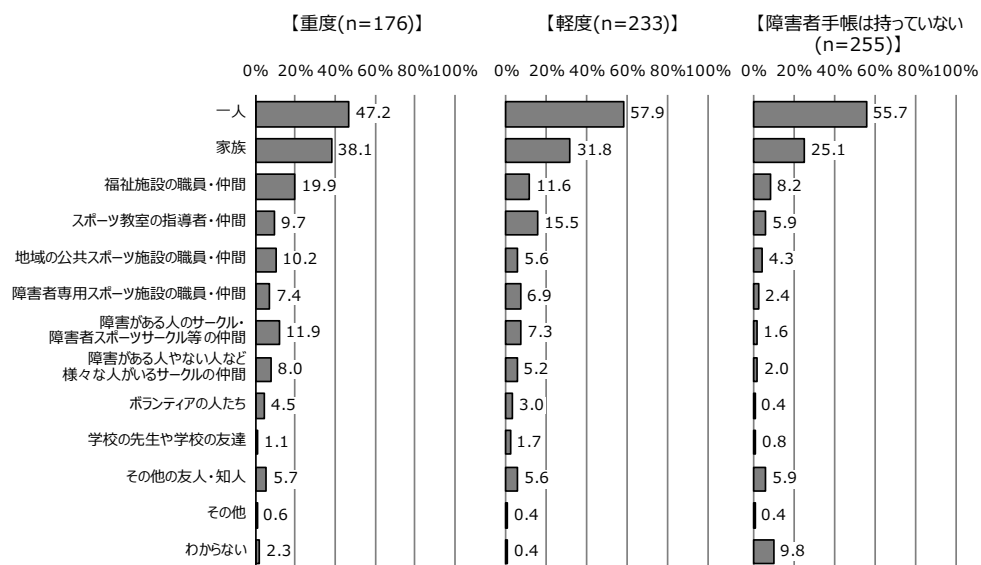
障害種別にみると、他の障害に比べて、「精神障害」と「内部障害」では「一人」(それぞれ69.7%、63.4%)、「知的障害」では「家族」(45.5%)と「福祉施設の職員・仲間」(27.3%)、「音声・言語・そしゃく障害」では「スポーツ教室の指導者・仲間」(25.7%)、「視覚障害」と「聴覚・平衡機能障害」では「地域の公共スポーツ施設の職員・仲間」(それぞれ16.2%、16.0%)の割合が高かった。【図表 55】

【図表 55】スポーツ・運動を一緒に実施する人(障害種別)[複数回答]



障害の程度別にみると、「重度」では、他の区分に比べて、「一人」(47.2%)の割合が低く、「家族」(38.1%)の割合が高かった。【図表 56】

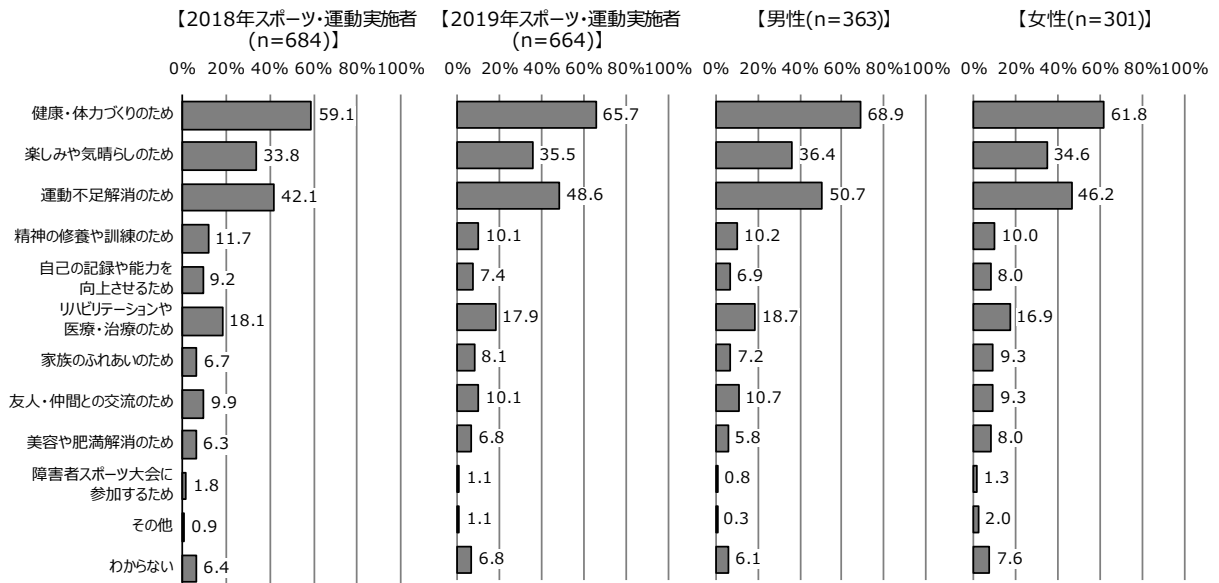
【図表 56】スポーツ・運動と一緒に実施する人(障害の程度別)[複数回答]



(7) スポーツ・運動を実施する理由

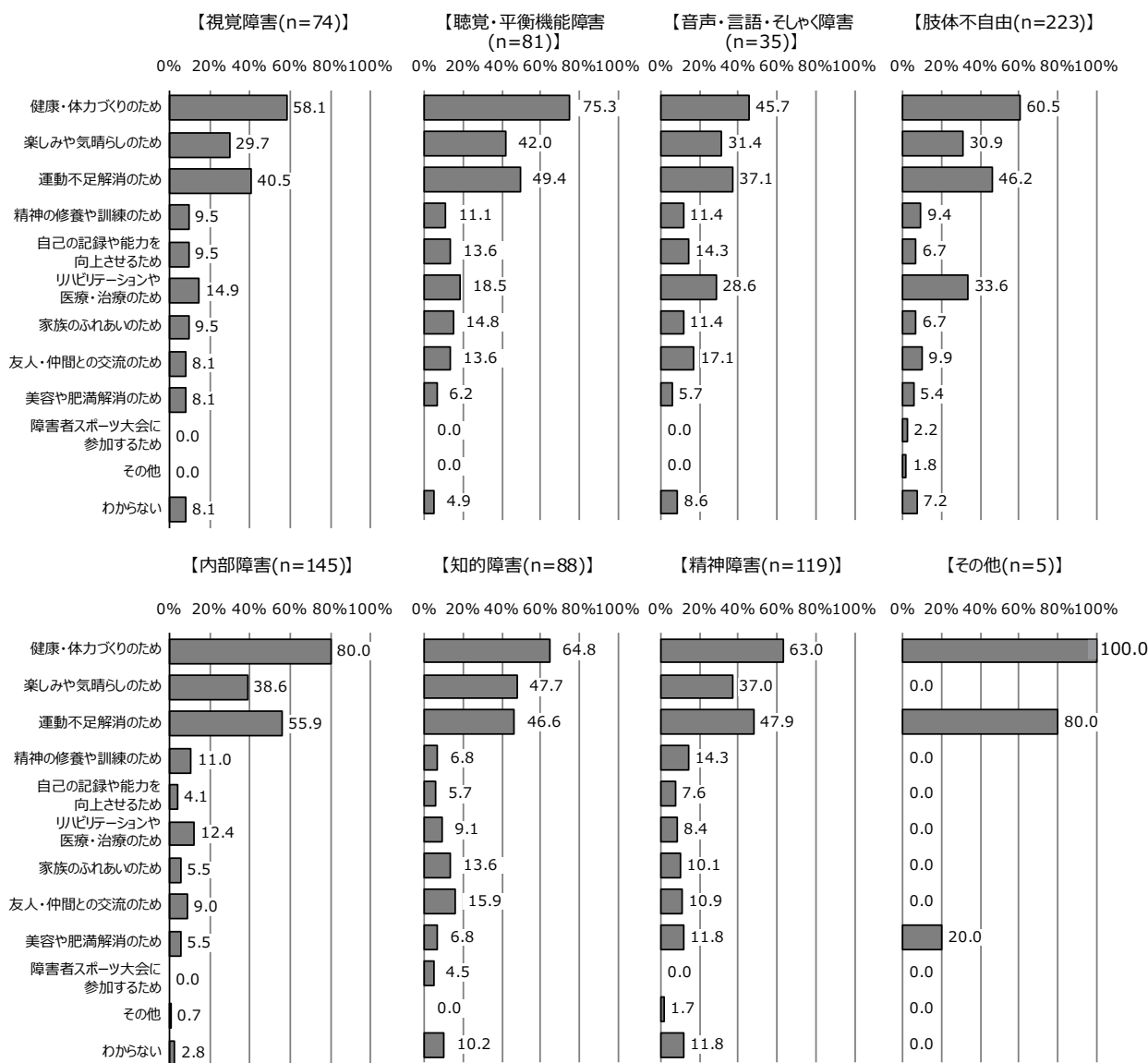
スポーツや運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」(65.7%)が最も高く、次いで「運動不足解消のため」(48.6%)、「楽しみや気晴らしのため」(35.5%)、「リハビリテーションや医療・治療のため」(17.9%)、「精神の修養や訓練のため」「友人・仲間との交流のため」(いずれも10.1%)の順であった。なお、「健康・体力づくりのため」は6.6ポイント、「運動不足解消のため」は6.5ポイント、昨年度に比べて高かった。【図表 57】

【図表 57】スポーツ・運動を実施する理由[複数回答]



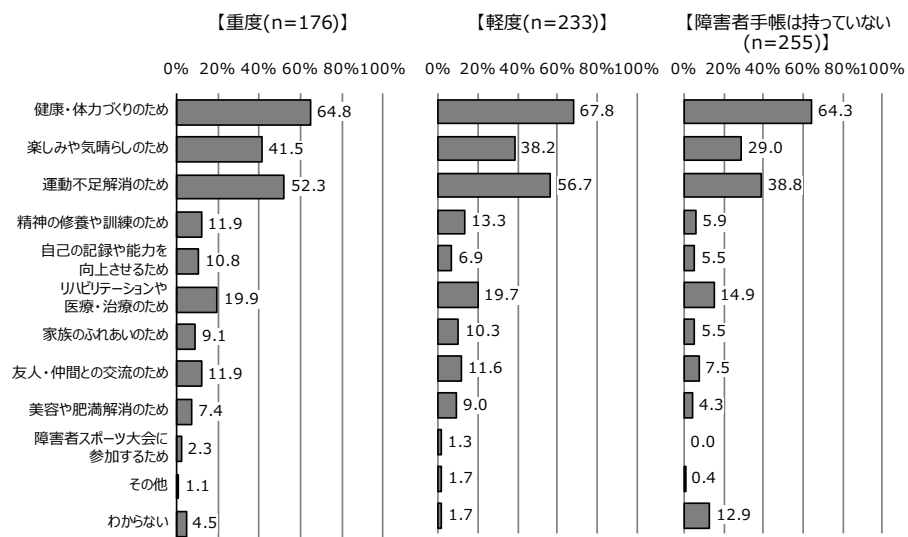
障害種別にみると、他の障害に比べて、「内部障害」と「聴覚・平衡機能障害」では「健康・体力づくりのため」(それぞれ80.0%、75.3%)、「知的障害」では「楽しみや気晴らしのため」(47.7%)、「肢体不自由」と「音声・言語・そしゃく障害」では「リハビリテーションや医療・治療のため」(それぞれ33.6%、28.6%)の割合が高かった。【図表 58】

【図表 58】スポーツ・運動を実施する理由(障害種別)[複数回答]



障害の程度別にみると、いずれの区分においても、「健康・体力づくりのため」が最も高く、次いで「運動不足解消のため」「楽しみや気晴らしのため」の順であった。【図表 59】

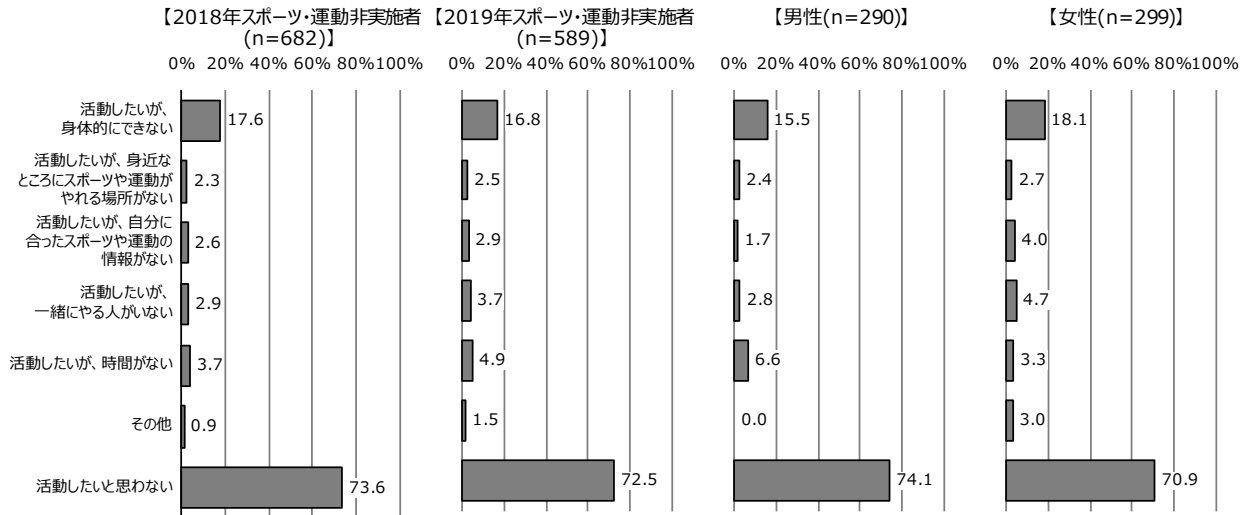
【図表 59】スポーツ・運動を実施する理由(障害の程度別)[複数回答]



(8) スポーツ・運動を実施しない理由

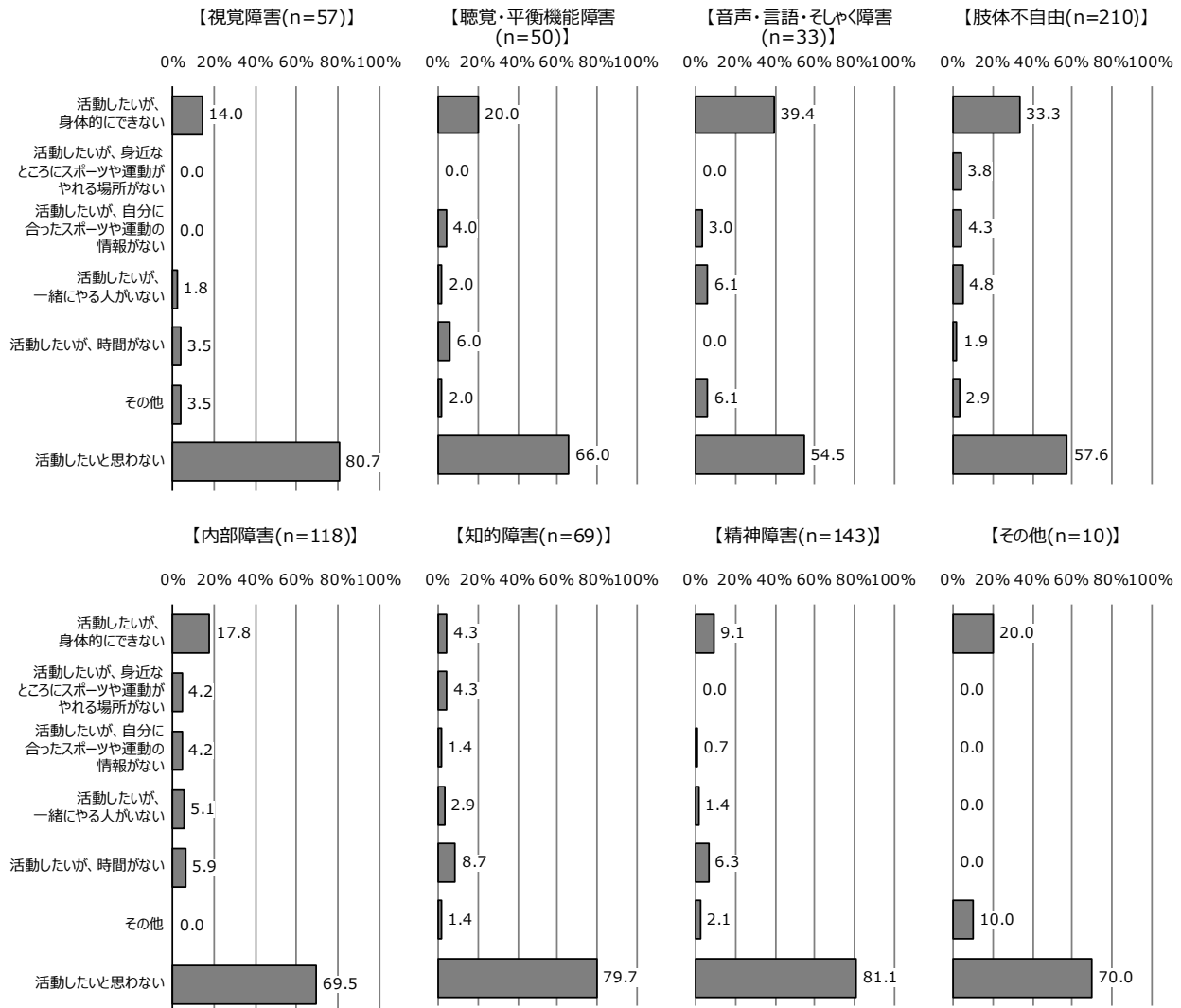
スポーツや運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」が72.5%と最も高く、次いで「活動したいが、身体的にできない」が16.8%であった。他には「活動したいが、時間がない」(4.9%)、「活動したいが、一緒にやる人がいない」(3.7%)、「活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない」(2.9%)、「活動したいが、身近なところにスポーツや運動がやれる場所がない」(2.5%)の順であった。これらの理由の順位は昨年度と同様であった。【図表 60】

【図表 60】スポーツ・運動を実施しない理由[複数回答]



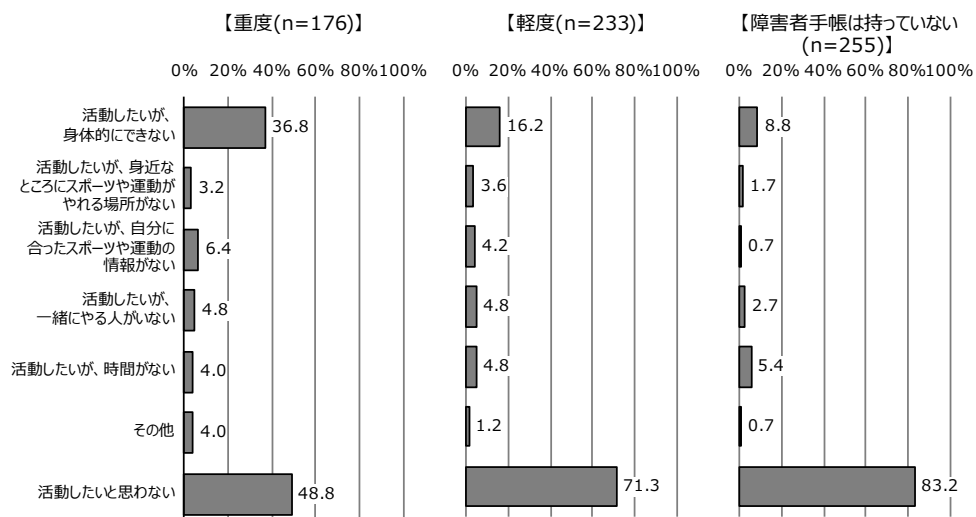
障害種別にみると、他の障害に比べて、「音声・言語・そしゃく障害」と「肢体不自由」では「活動したいが、身体的にできない」(それぞれ39.4%、33.3%)が高かった一方で、「活動したいとは思わない」(それぞれ54.5%、57.6%)が低かった。【図表 61】

【図表 61】スポーツ・運動を実施しない理由(障害種別)[複数回答]



障害の程度別にみると、他の区分に比べて、「重度」では「活動したいが、身体的にできない」(36.8%)の割合が高かった。【図表 62】

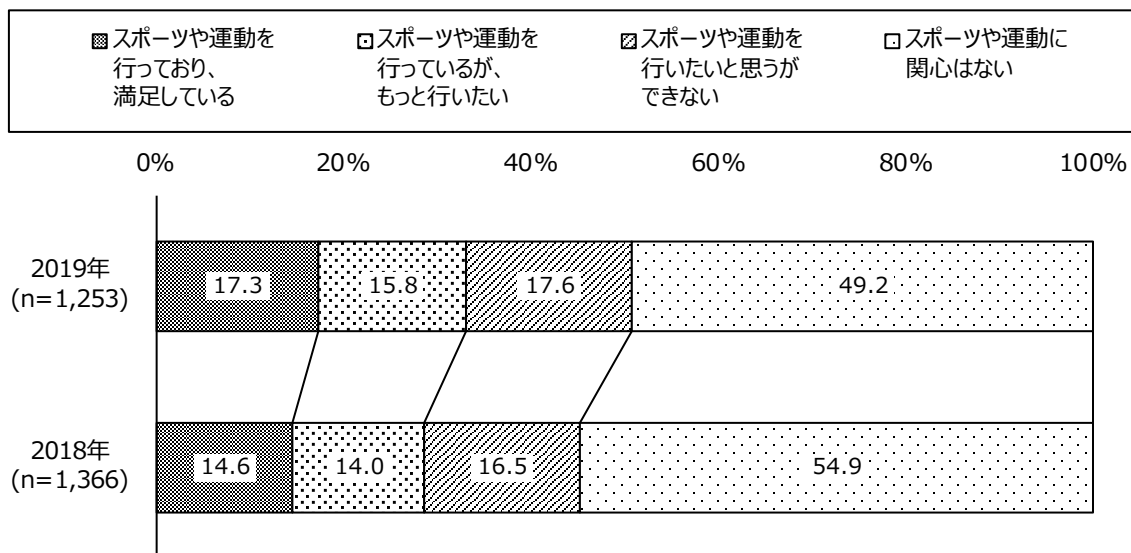
【図表 62】スポーツ・運動を実施しない理由(障害の程度別)[複数回答]



(9) 現在のスポーツ・運動への取組

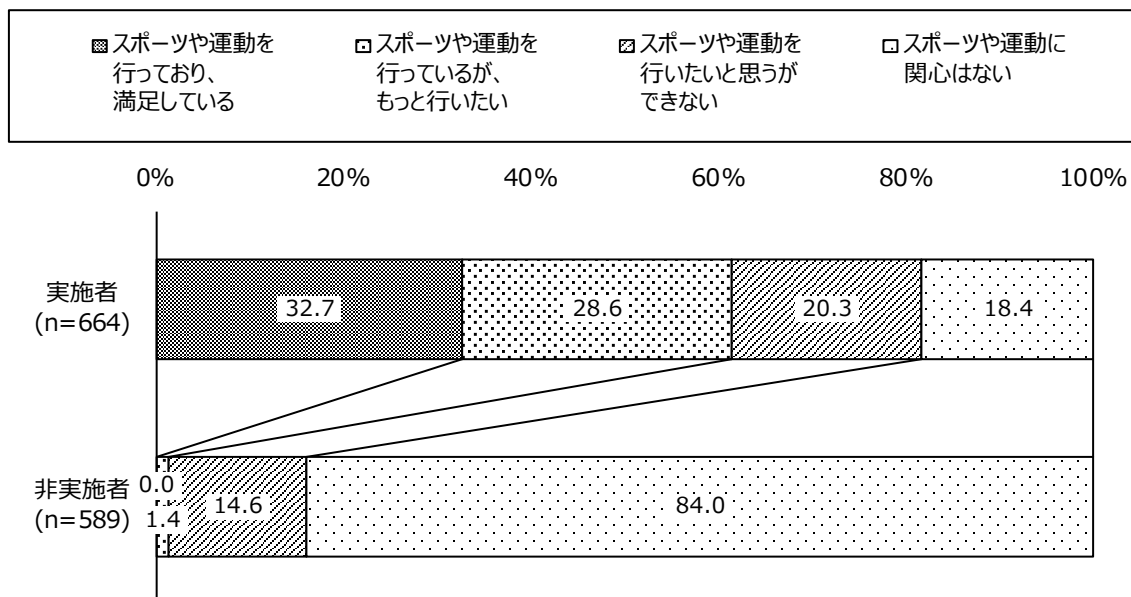
現在のスポーツや運動への取組については、「スポーツや運動に関心はない」(49.2%)が最も高かった。次いで「スポーツや運動を行いたいと思うができない」(17.6%)、「スポーツや運動を行っており、満足している」(17.3%)、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(15.8%)の順であった。昨年度に比べると、「スポーツや運動に関心がない」が5.7ポイント低下した一方で、「スポーツや運動を行っており、満足している」が2.7ポイント上昇した。【図表 63】

【図表 63】現在のスポーツ・運動への取組



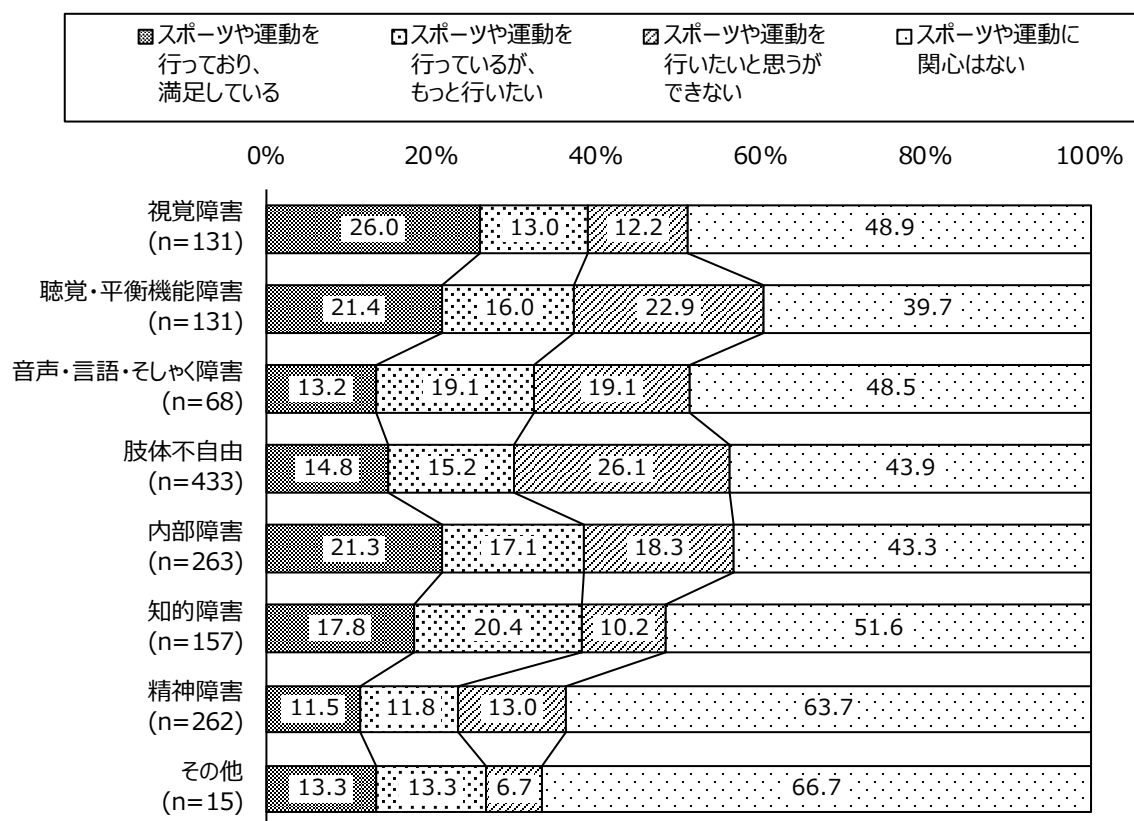
過去1年間のスポーツ・運動の実施有無別にみると、非実施者においては、「スポーツや運動に関心はない」が84.0%で、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が14.6%であった。【図表 64】

【図表 64】現在のスポーツ・運動への取組(スポーツ・運動の実施の有無別)



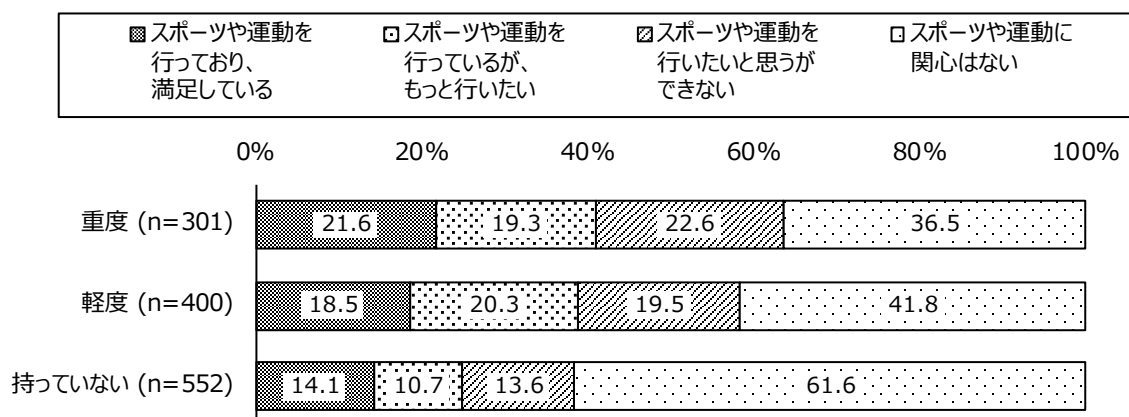
障害種別でみると、「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」「内部障害」では「スポーツや運動を行っており、満足している」(それぞれ26.0%、21.4%、21.3%)が2割を超えた。「知的障害」と「音声・言語・そしゃく障害」では「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(それぞれ20.4%、19.1%)が2割程度であった。「肢体不自由」と「聴覚・平衡機能障害」では「スポーツや運動を行いたいと思うができない」(それぞれ26.1%、22.9%)が2割を超えた。「精神障害」では「スポーツや運動に関心がない」(63.7%)が6割を超えた。【図表 65】

【図表 65】現在のスポーツ・運動への取組(障害種別)



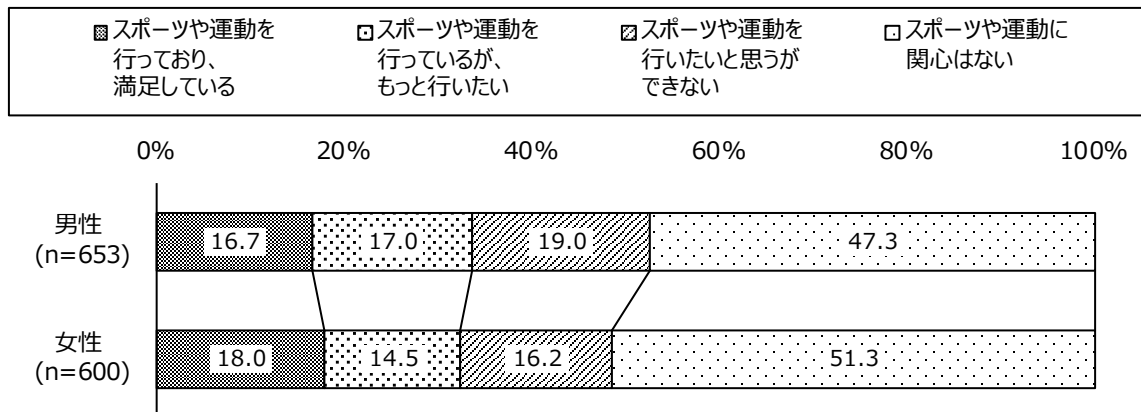
障害の程度別でみると、他の区分に比べて、「障害者手帳の非保持者」では「スポーツや運動に関心がない」(61.6%)が高かった。【図表 66】

【図表 66】現在のスポーツ・運動への取組(障害の程度別)



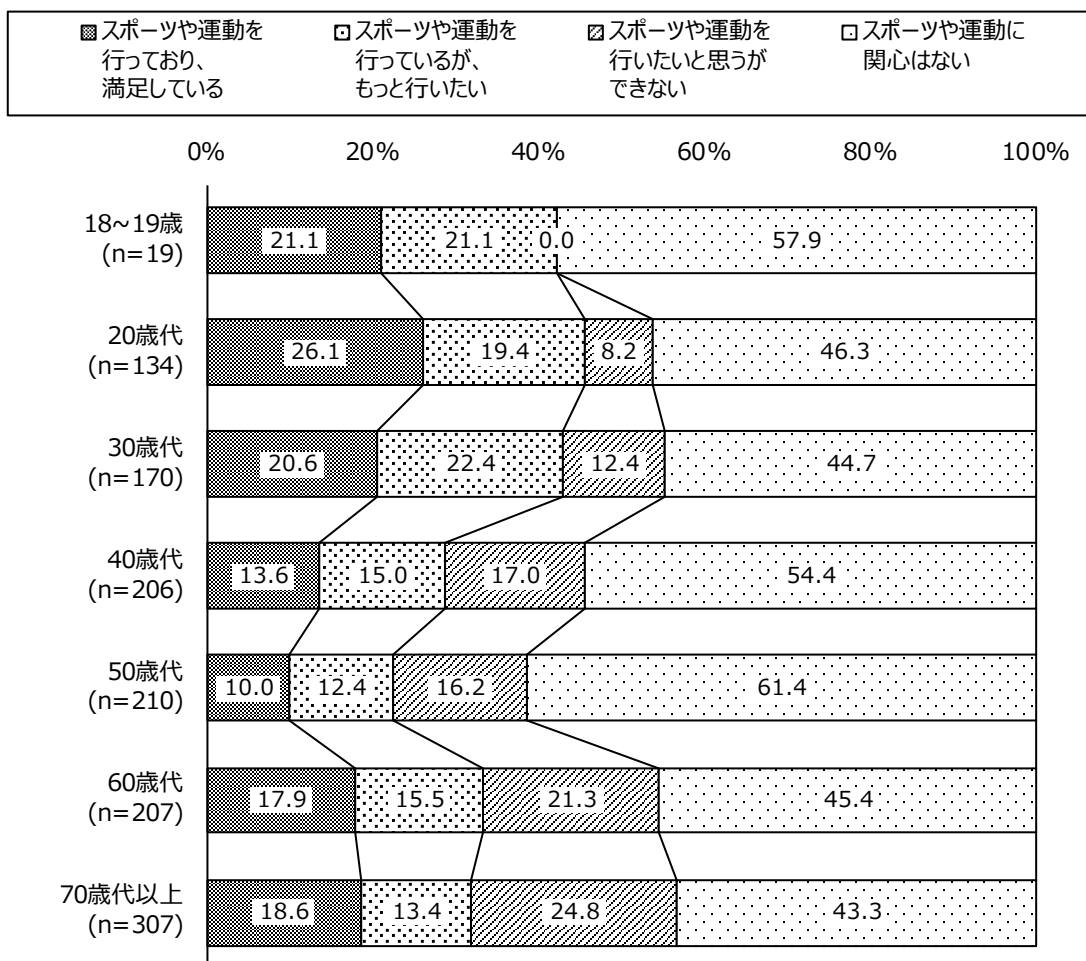
性別でみると、「スポーツや運動に関心はない」は、男性が47.3%、女性が51.3%であった。【図表 67】

【図表 67】現在のスポーツ・運動への取組(性別)



年齢別にみると、60歳代以上で「スポーツや運動を行いたいと思うができない」と回答する割合が2割を超えた。【図表 68】

【図表 68】現在のスポーツ・運動への取組(年齢別)

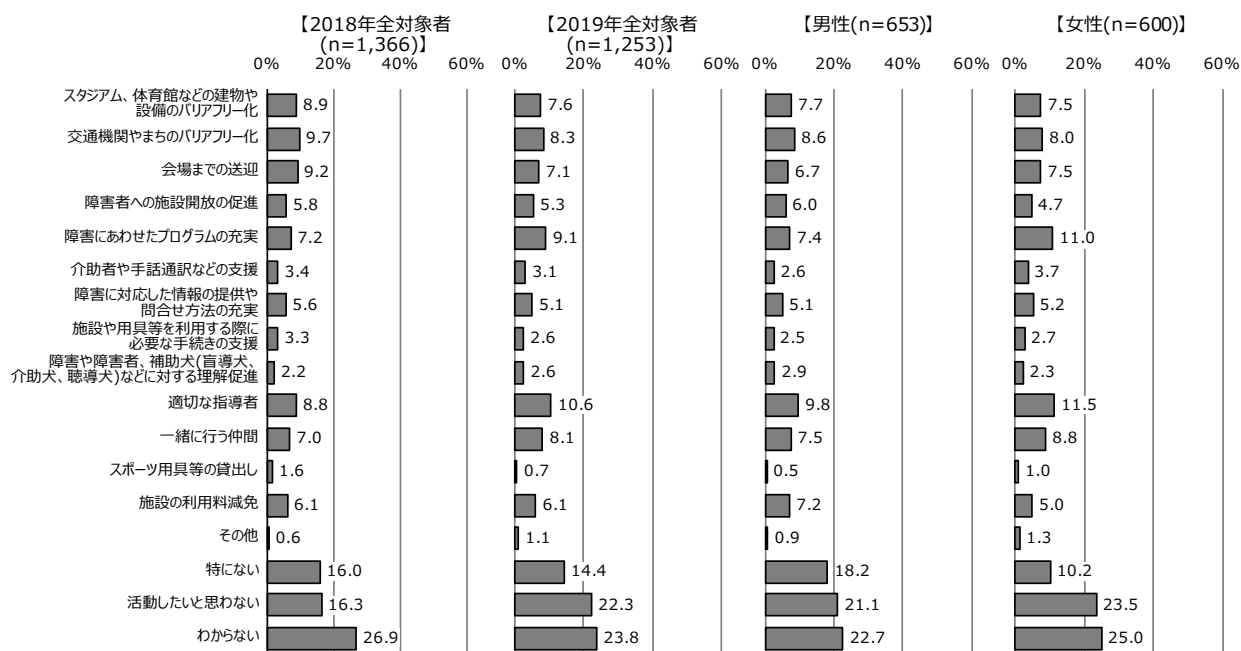


(10) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援

スポーツや運動を行う際に必要と考える支援は、「わからない」(23.8%)が最も高く、次いで「活動したいと思わない」(22.3%)、「特にない」(14.4%)であった。

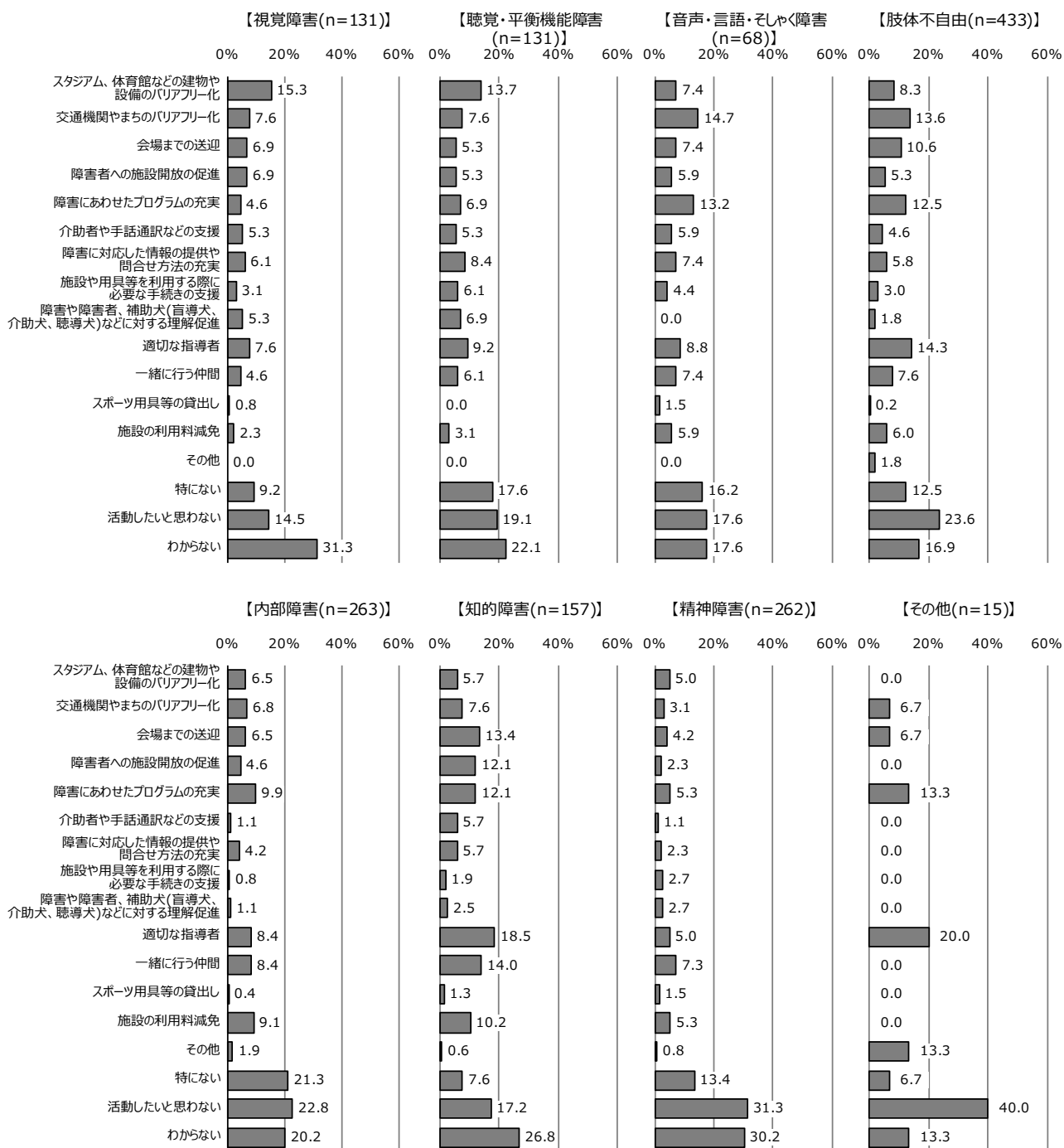
必要な支援があると回答した中では、「適切な指導者」(10.6%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(9.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(8.3%)、「一緒に行う仲間」(8.1%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(7.6%)の順であった。【図表 69】

【図表 69】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援[複数回答]



障害種別にみると、他の障害に比べて、「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」では「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(それぞれ15.3%、13.7%)、「音声・言語・そしゃく障害」では「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.7%)、「肢体不自由」では「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.6%)と「適切な指導者」(14.3%)、「知的障害」では「適切な指導者」(18.5%)、「一緒にいる仲間」(14.0%)、「会場までの送迎」(14.3%)、「障害者への施設開放の促進」(12.1%)の割合が高かった。なお、「内部障害」では「特にない」(21.3%)、「精神障害」では「活動したいと思わない」(31.3%)の割合が、他の障害に比べて高かった。【図表 70】

【図表 70】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(障害種別)[複数回答]



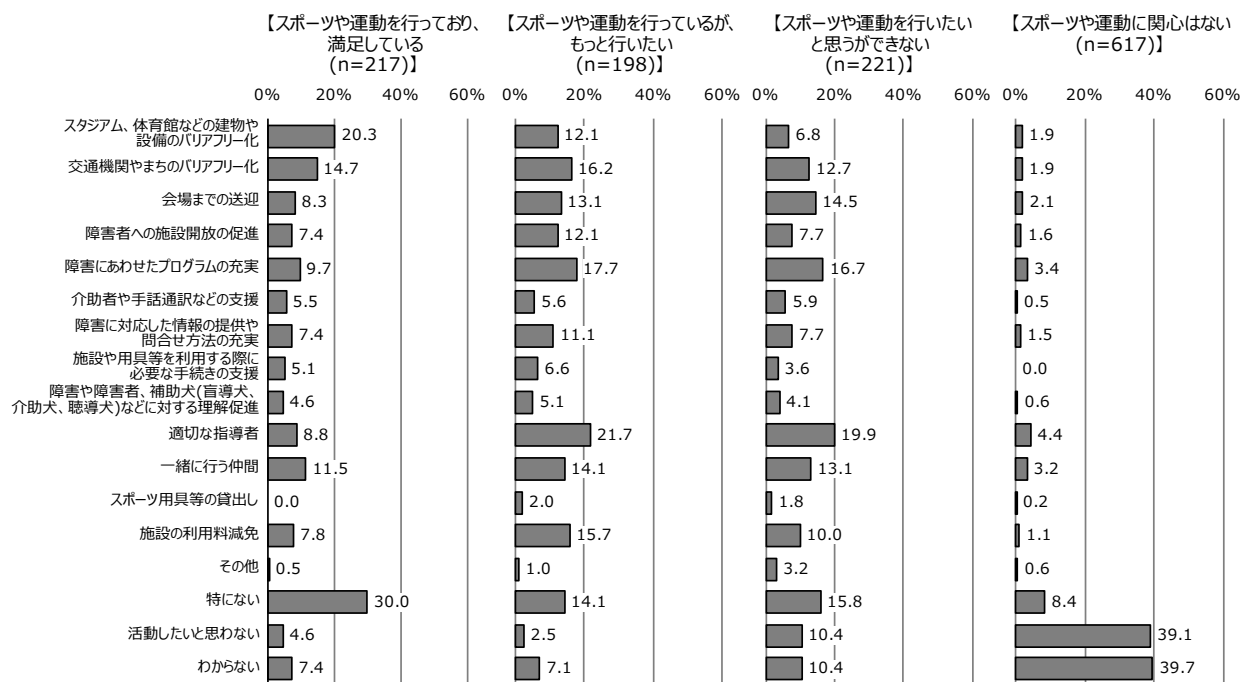
スポーツ・運動への取組別にみると、「スポーツや運動を行っており、満足している」人(全体の17.3%)が必要と考える支援の上位5つは、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(20.3%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.7%)、「一緒に行く仲間」(11.5%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(9.7%)、「適切な指導者」(8.8%)であった。

「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」人(全体の15.8%)が必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(21.7%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(17.7%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(16.2%)、「施設の利用料減免」(15.7%)、「一緒に行く仲間」(14.1%)であった。

「スポーツや運動を行いたいと思うができない」人(全体の17.6%)が必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(19.9%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(16.7%)、「会場までの送迎」(14.5%)、「一緒に行く仲間」(13.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(12.7%)であった。

なお、「スポーツや運動に関心はない」人(全体の49.2%)では、「わからない」が39.7%で、「活動したいと思わない」が39.1%であった。【図表 71】

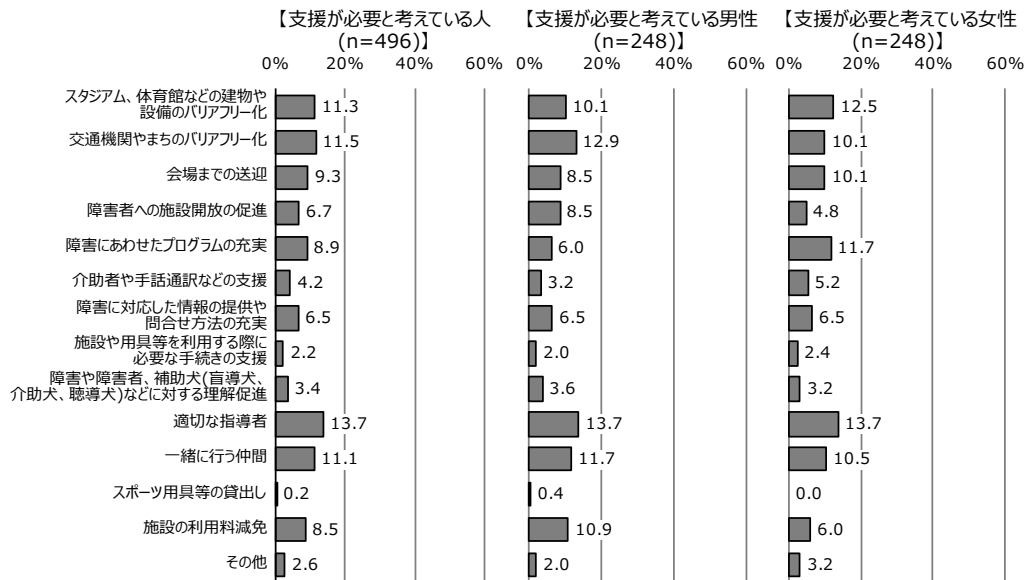
【図表 71】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(スポーツ・運動への取組別)[複数回答]



(11) スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援

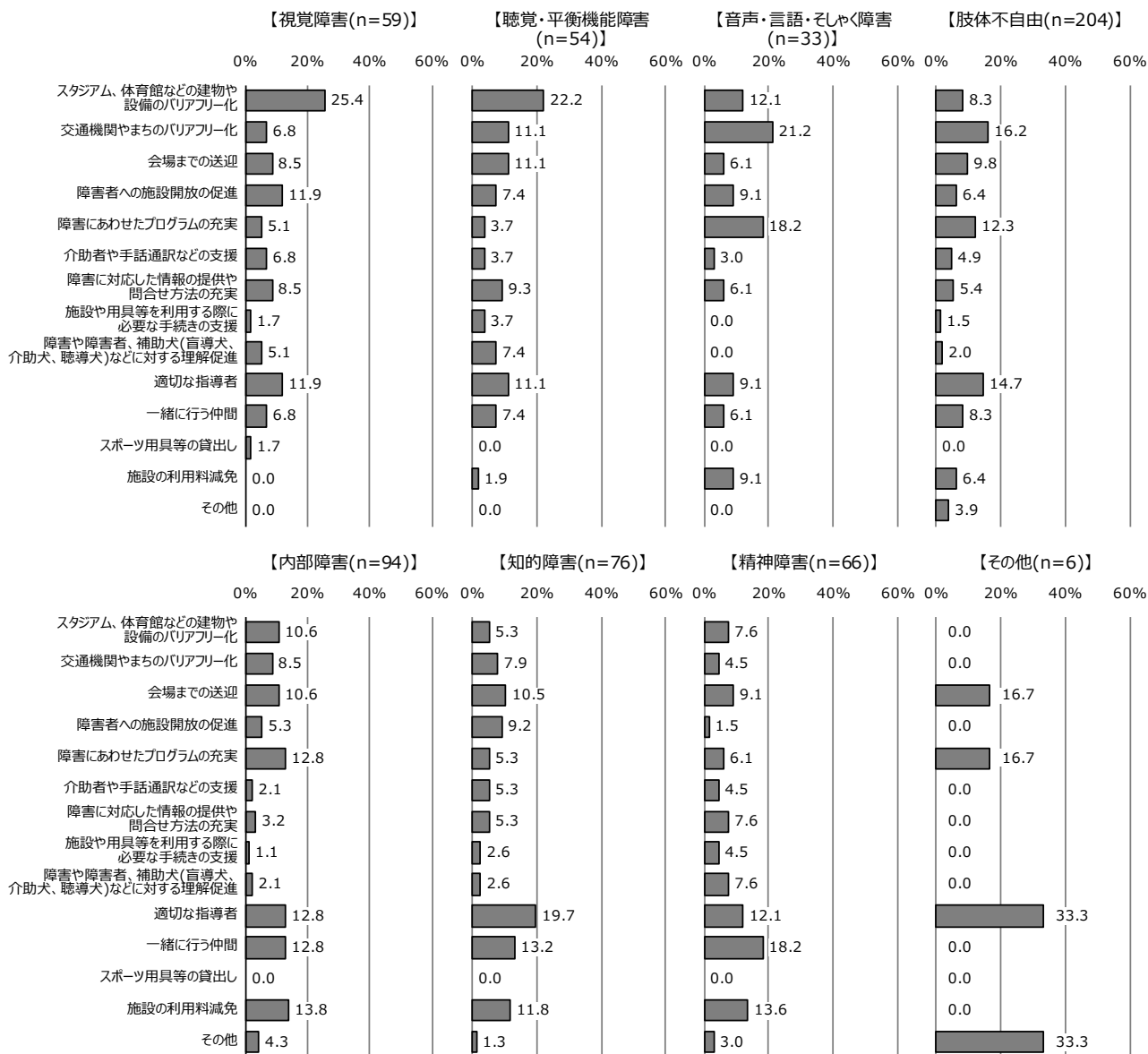
スポーツや運動を行う際に最も必要と考える支援は、「適切な指導者」(13.7%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(11.5%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(11.3%)、「一緒に進む仲間」(11.1%)、「会場までの送迎」(9.3%)であった。【図表 72】

【図表 72】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援



障害種別にみると、他の障害に比べて、「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」では「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(それぞれ25.4%、22.2%)、「音声・言語・そしゃく障害」では「交通機関やまちのバリアフリー化」(21.2%)と、「障害にあわせたプログラムの充実」(18.2%)、「肢体不自由」では「交通機関やまちのバリアフリー化」(16.2%)と「適切な指導者」(14.7%)、「知的障害」では「適切な指導者」(19.7%)、「精神障害」では「一緒に行く仲間」(18.2%)の割合が高かった。【図表 73】

【図表 73】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(障害種別)



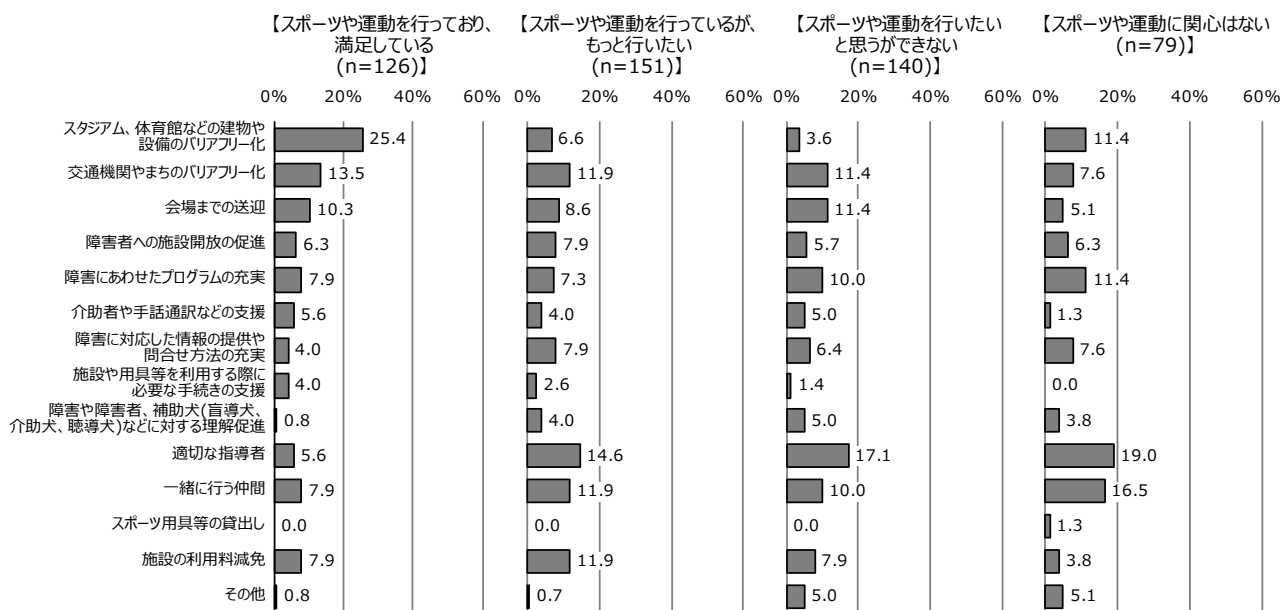
スポーツ・運動への取組別にみると、「スポーツや運動を行っており、満足している」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(25.4%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.5%)、「会場までの送迎」(10.3%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(7.9%)、「一緒に行く仲間」(7.9%)であった。

「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(14.6%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(11.9%)、「一緒に行く仲間」(11.9%)、「施設の利用料減免」(11.9%)、「会場までの送迎」(8.6%)であった。

「スポーツや運動を行いたいと思うができない」人が必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(17.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(11.4%)、「会場までの送迎」(11.4%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(10.0%)、「一緒に行く仲間」(10.0%)であった。

「スポーツや運動に関心はない」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(19.0%)、「一緒に行く仲間」(16.5%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(11.4%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(11.4%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(7.6%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(7.6%)であった。【図表 74】

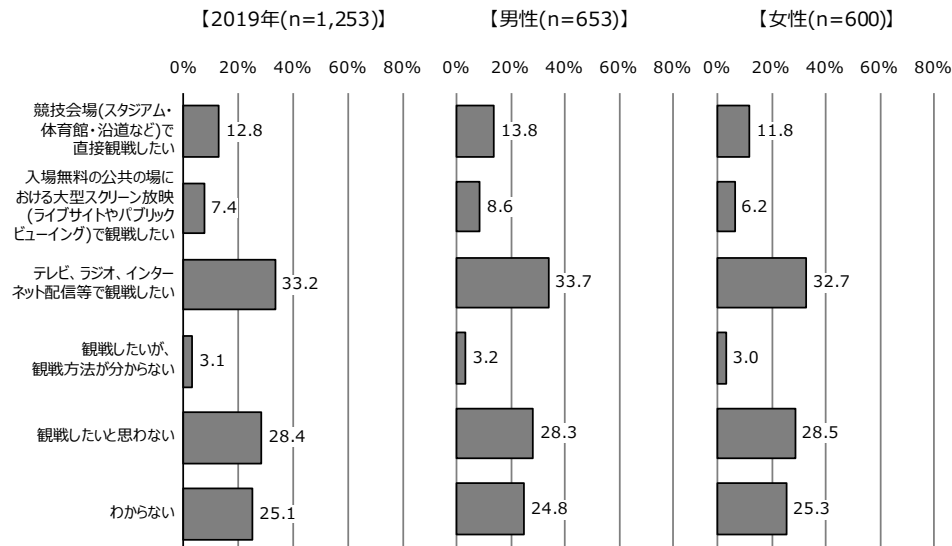
【図表 74】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(スポーツ・運動への取組別)



(12) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望

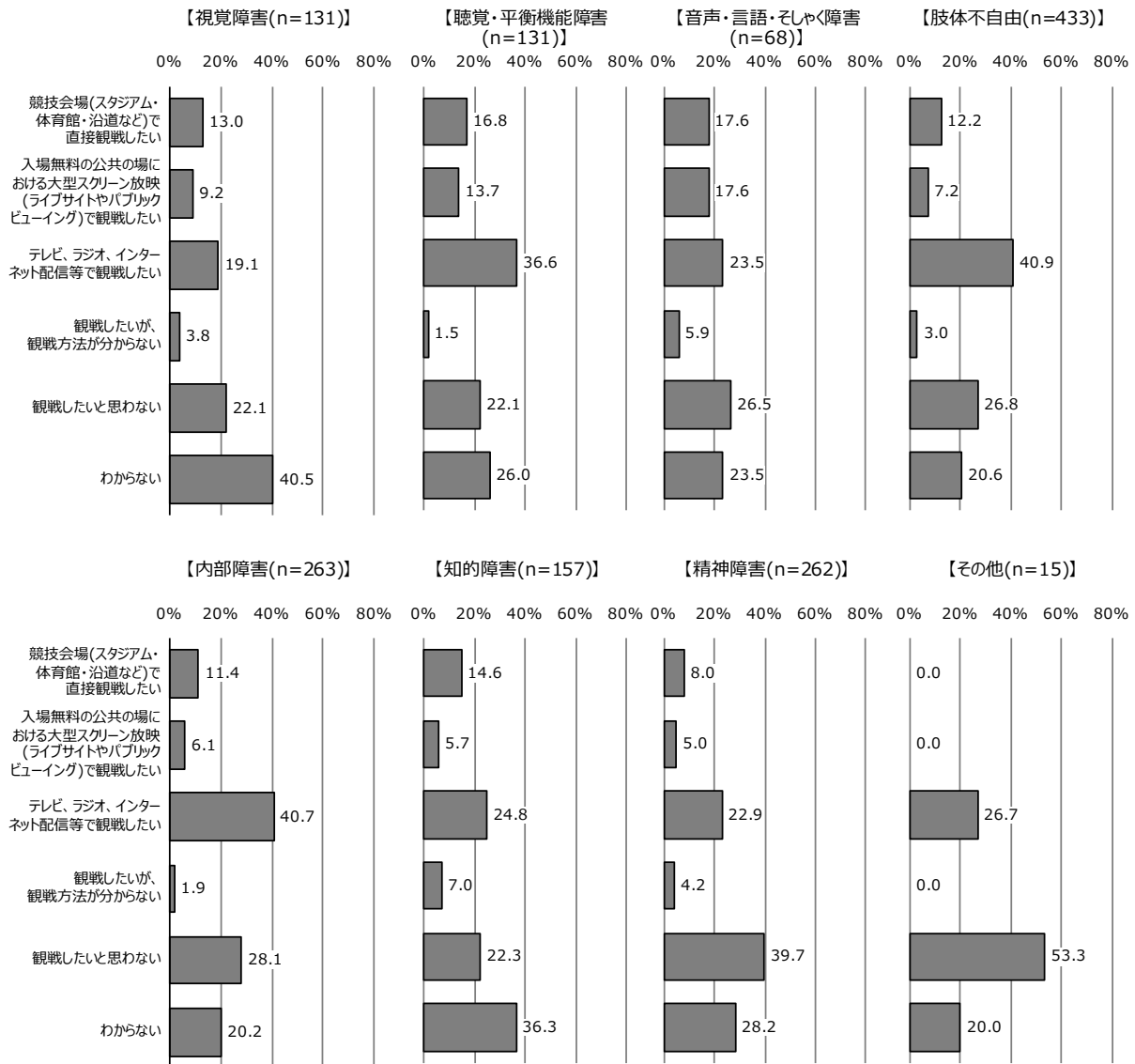
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦方法については、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」(33.2%)が最も高く、次いで「競技会場(スタジアム・体育館・浴道など)で直接観戦したい」(12.8%)、「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映(ライブサイトやパブリックビューイング)で観戦したい」(7.4%)、「観戦したいが、観戦方法が分からない」(3.1%)の順であった。その一方で、「観戦したいと思わない」が28.4%で、「わからない」が25.1%であった。【図表 75】

【図表 75】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望[複数回答]



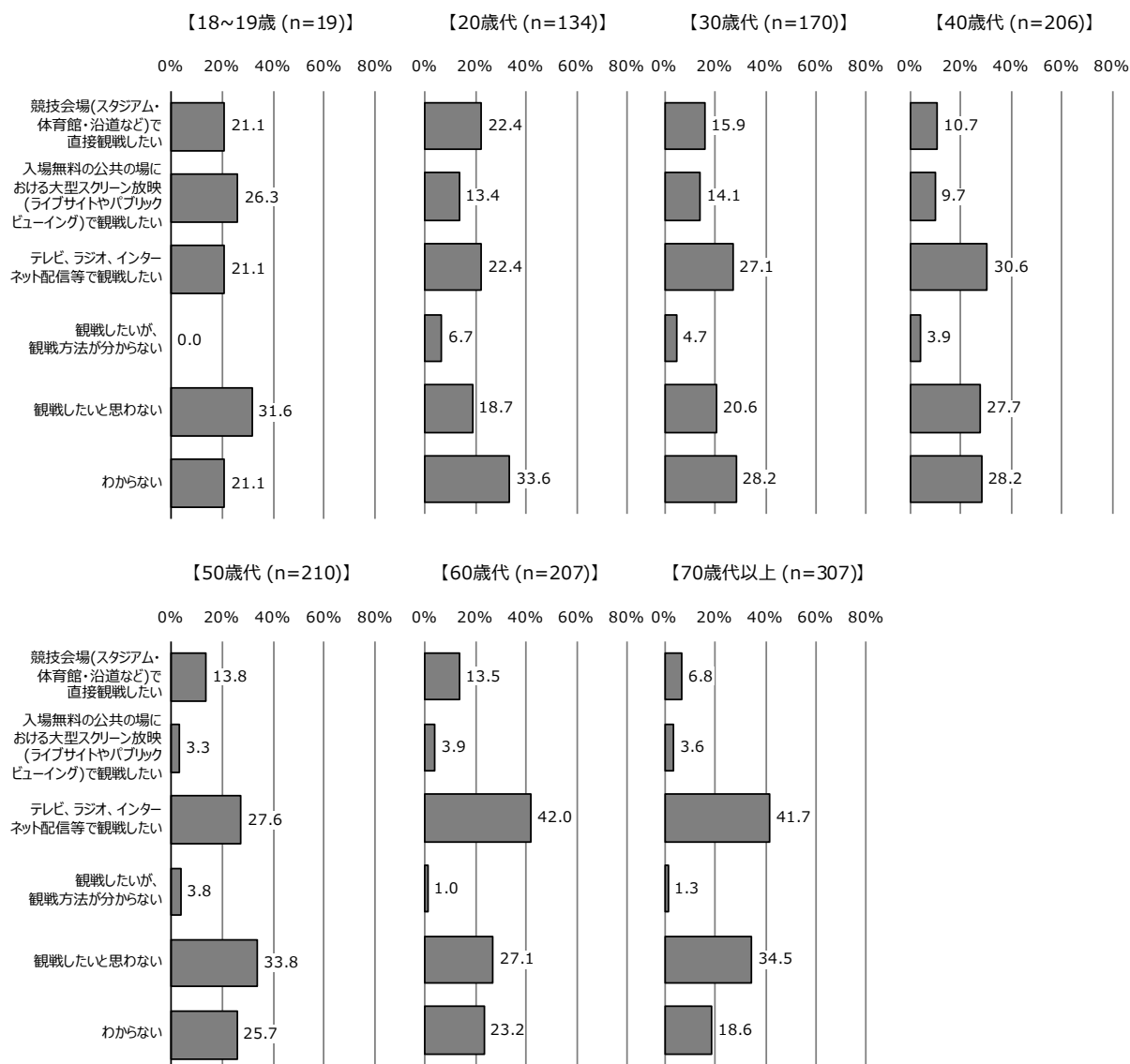
障害種別にみると、他の障害に比べて、「肢体不自由」「内部障害」「聴覚・平衡機能障害」では「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」(それぞれ40.9%、40.7%、36.6%)が高かった。【図表 76】

【図表 76】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望(障害種別)[複数回答]



年齢別にみると、20歳代以下では「競技会場(スタジアム・体育館・沿道など)で直接観戦したい」が2割を超え、60歳代以上では「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が4割を超えた。【図表 77】

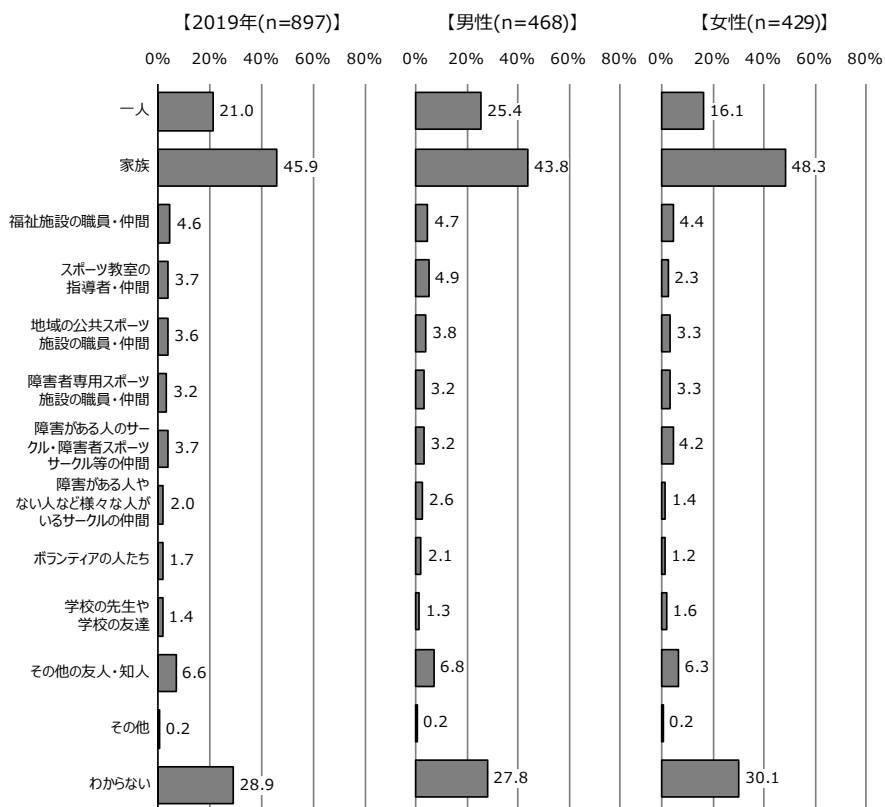
【図表 77】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望(年齢別)[複数回答]



(13) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人

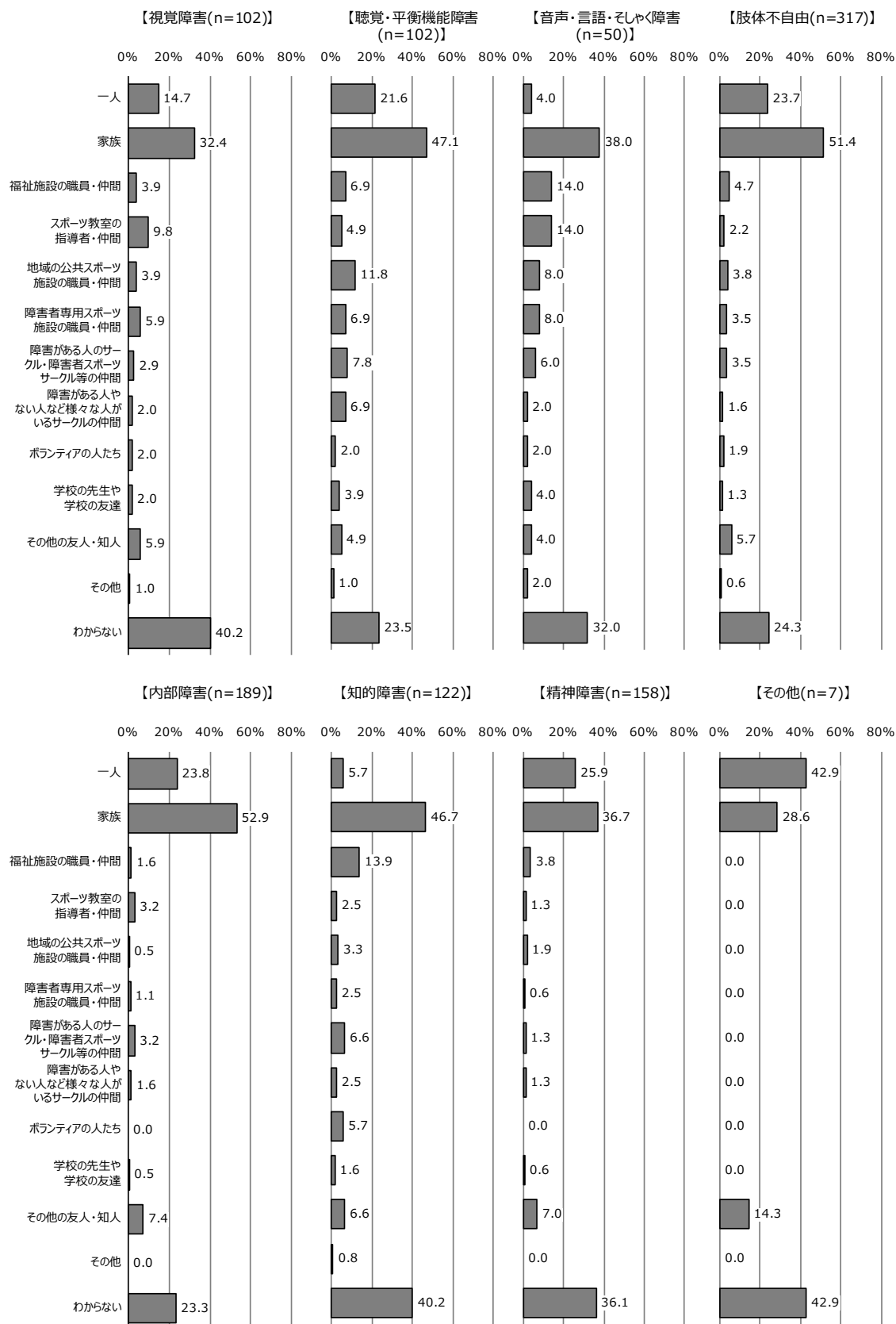
「観戦したいと思わない」と回答した方以外に対して、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人について聞いたところ、「家族」(45.9%)が最も高く、次いで「その他の友人・知人」(6.6%)、「福祉施設の職員・仲間」(4.6%)、「スポーツ教室の指導者・仲間」(3.7%)、「障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間」(3.7%)であった。一方で、「一人」で観戦したいが21.0%、「わからない」が28.9%であった。【図表 78】

【図表 78】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人[複数回答]



障害種別にみると、「内部障害」「肢体不自由」で「家族」が5割を超えた。他の障害に比べて、「音声・言語・そしゃく障害」では、「福祉施設の職員・仲間」「スポーツ教室の指導者・仲間」(いずれも14.0%)、「知的障害」では、「福祉施設の職員・仲間」(13.9%)が高かった。【図表 79】

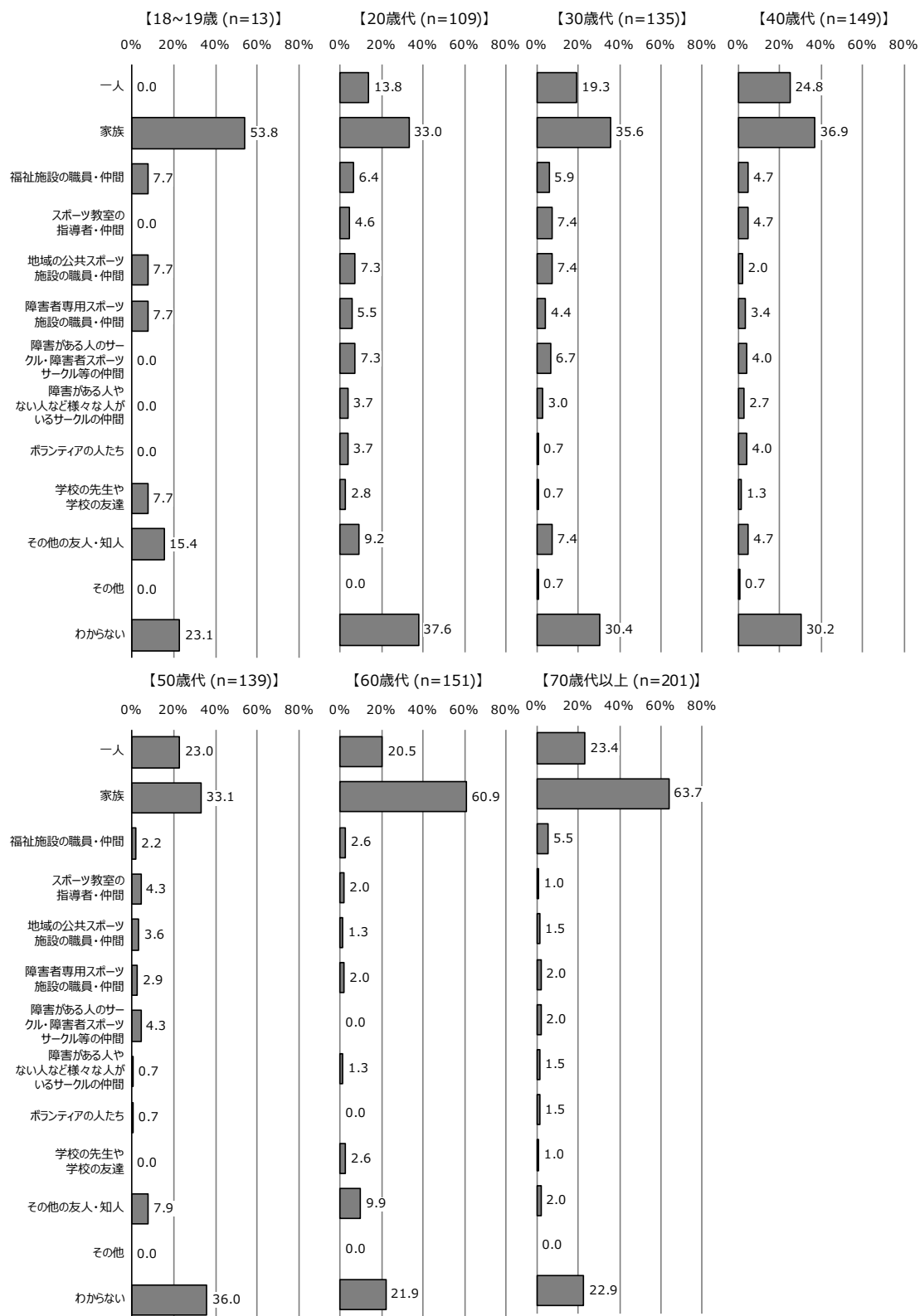
【図表 79】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人(障害種別)[複数回答]



年齢別にみると、60歳代以上では「家族」が6割を超えた。また、40歳以上で「一人」が2割を超えた。

【図表 80】

【図表 80】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人(年齢別)[複数回答]



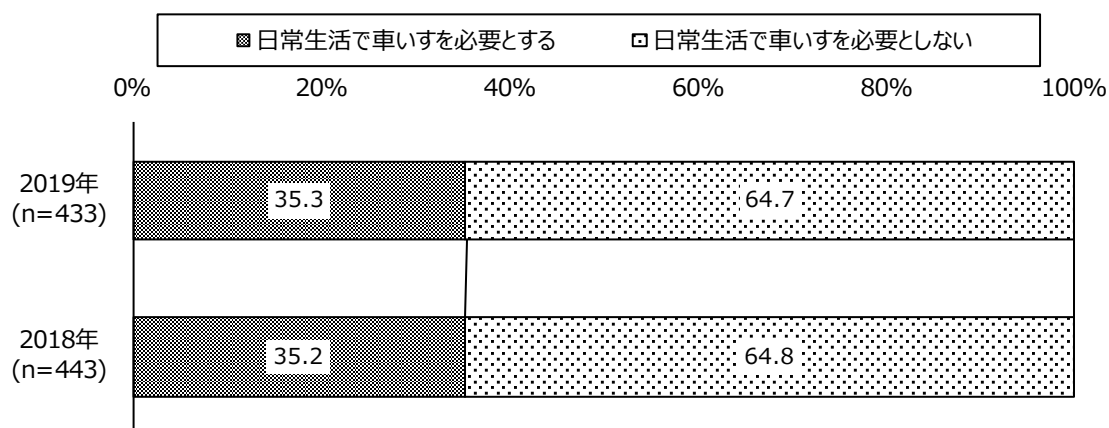
3 日常生活における車いす利用の有無によるスポーツ・運動の実施状況

該当する障害の種類において、肢体不自由と回答した方のうち、日常生活で車いすを必要とするか、必要としないかによって、区分を行い、回答結果の分析を行った。

(1) 車いすの必要性

肢体不自由と回答のあった方のうち、「日常生活で車いすを必要とする」が35.3%、「日常生活で車いすを必要としない」が64.7%で、昨年度とほぼ同様であった。【図表 81】

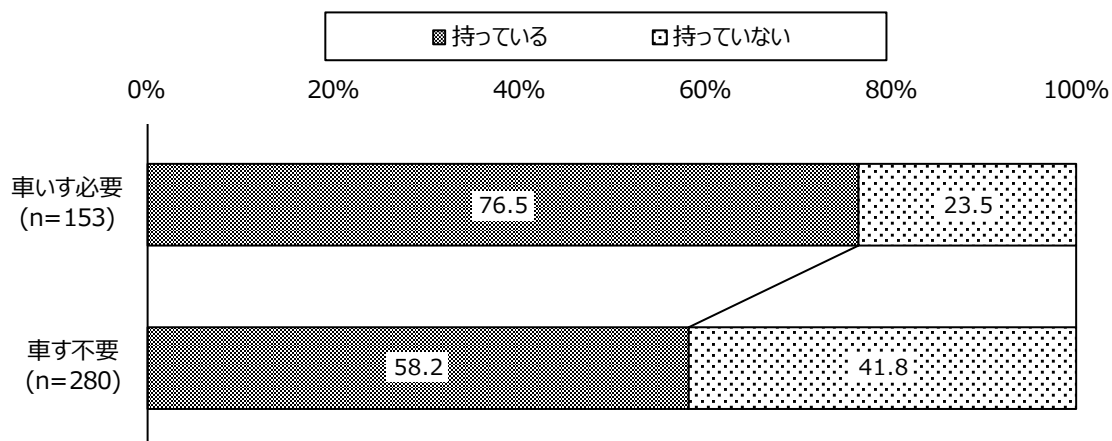
【図表 81】日常生活での車いすの必要性の有無



(2) 障害者手帳の保有状況

障害者手帳の保有状況を見ると、「日常生活で車いすを必要とする」の保有率が76.5%であったのに対し、「日常生活で車いすを必要としない」の保有率は58.2%であった。【図表 82】

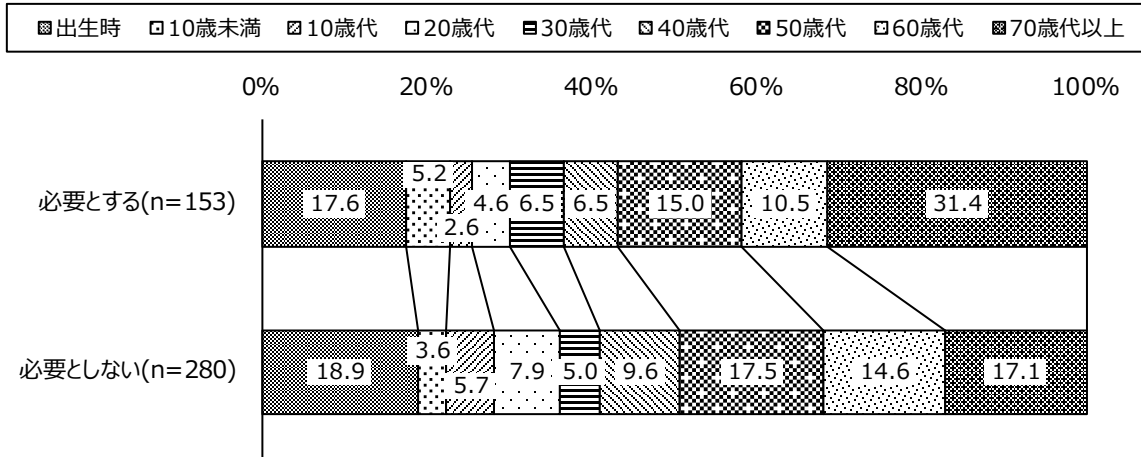
【図表 82】障害者手帳の保有状況(日常生活で車いす必要/不要)



(3) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢をみると、「日常生活で車いすを必要とする」では「70歳代以上」(31.4%)が最も高く、次いで「出生時」(17.6%)であった。【図表 83】

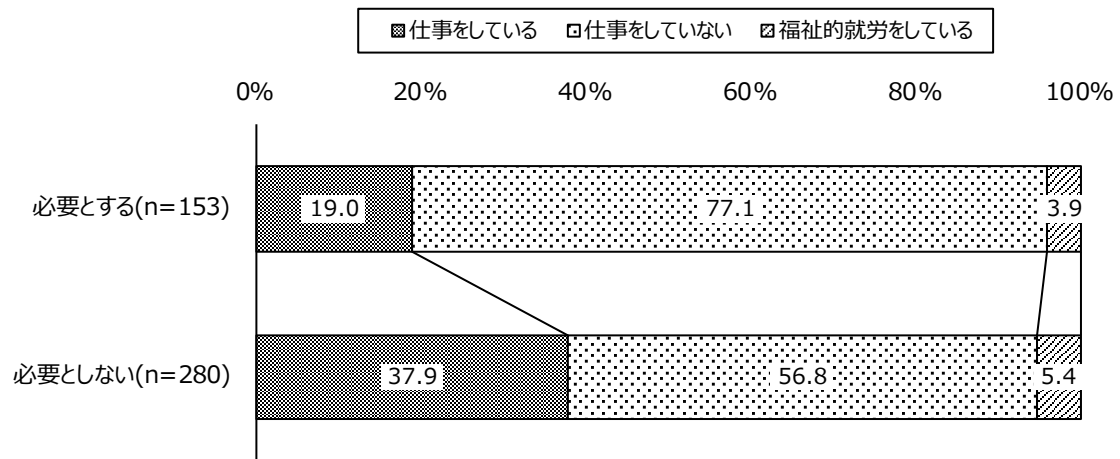
【図表 83】障害が発生した年齢(日常生活で車いす必要／不要)



(4) 過去1年間の就業状況

過去1年間の就業状況をみると、「仕事をしている」割合は、「日常生活で車いすを必要とする」が19.0%で、「日常生活で車いすを必要しない」では37.9%であった。【図表 84】

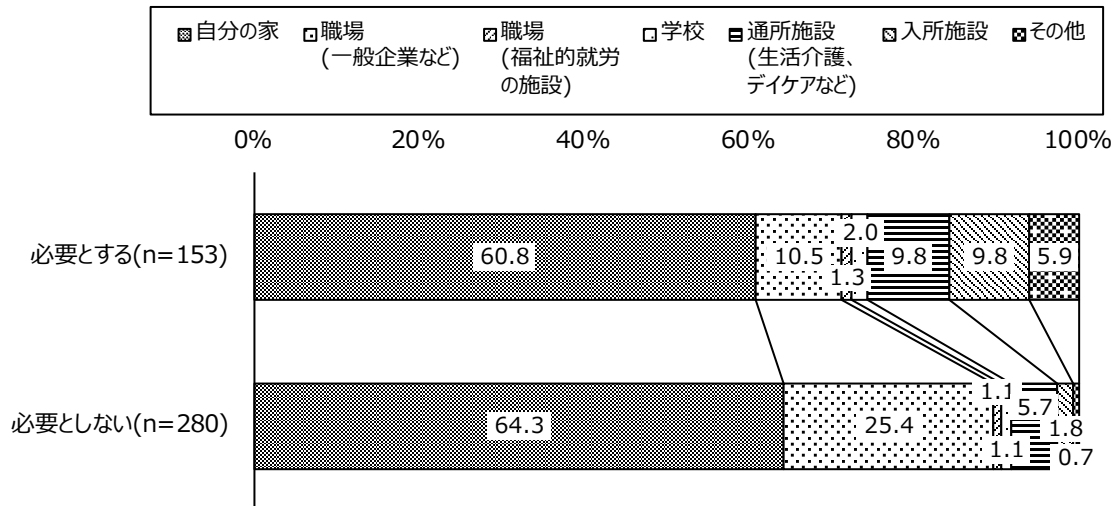
【図表 84】過去1年間の就業状況(日常生活で車いす必要／不要)



(5) 過去1年間の平日・日中の居場所

過去1年間の平日・日中の居場所については、いずれも「自分の家」が最も高かった。また、「日常生活で車いすを必要しない」では「職場(一般企業など)」も25.4%であった。【図表 85】

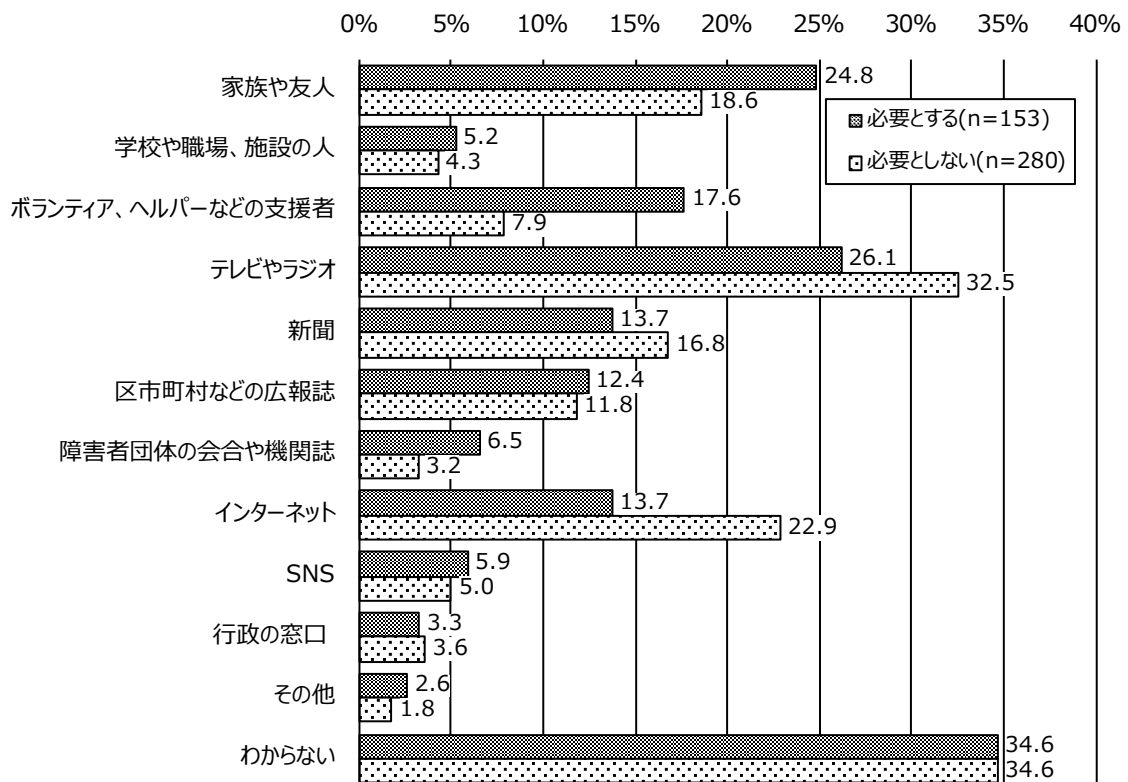
【図表 85】過去1年間の平日・日中の居場所(日常生活で車いす必要／不要)



(6) スポーツ・運動に関する情報源

スポーツや運動に関する情報源としては、「日常生活で車いすを必要とする」では「テレビやラジオ」(26.1%)が最も高く、次いで「家族や友人」(24.8%)の順であったのに対して、「日常生活で車いすを必要としない」では、「テレビやラジオ」(32.5%)に次いで「インターネット」(22.9%)の順であった。【図表 86】

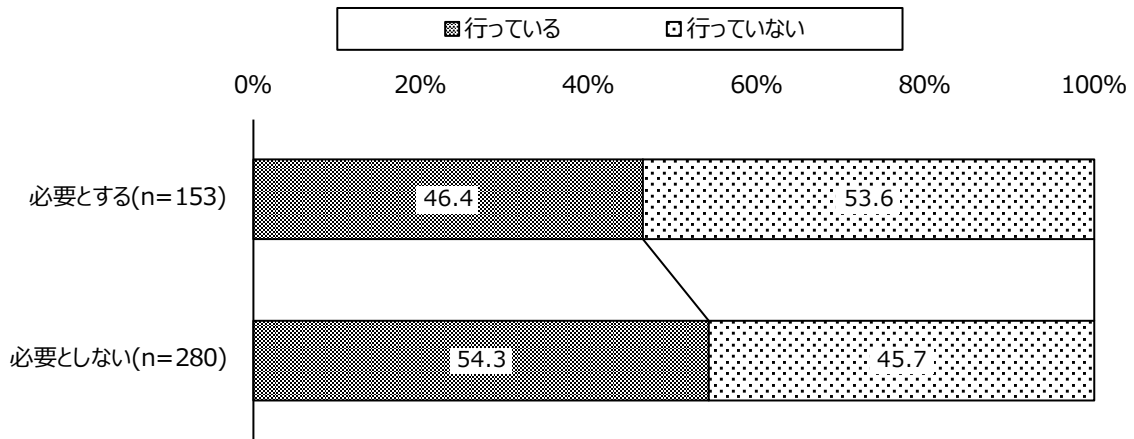
【図表 86】スポーツ・運動に関する情報源(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(7) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無をみると、スポーツ・運動の実施者は、「日常生活で車いすを必要とする」では46.4%、「日常生活で車いすを必要としない」では54.3%であった。【図表 87】

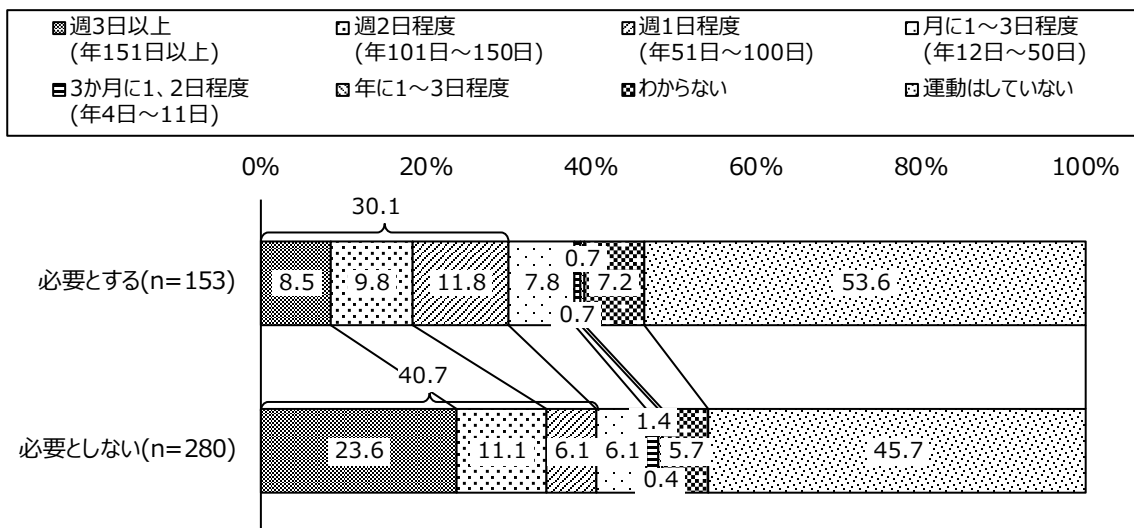
【図表 87】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(日常生活で車いす必要／不要)



(8) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

過去1年間のスポーツ・運動を行った日数について、週1日以上の実施者は、「日常生活で車いすを必要とする」では30.1%、「日常生活で車いすを必要としない」では40.7%であった。【図表 88】

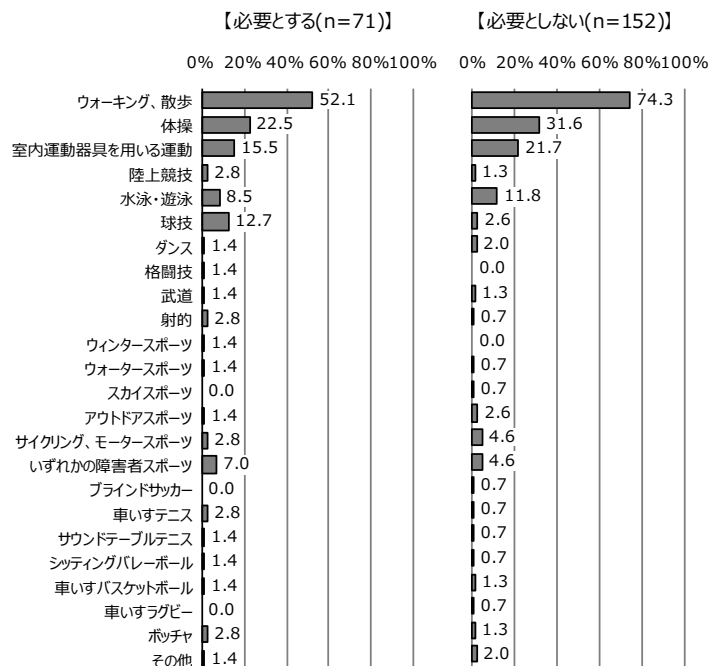
【図表 88】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(日常生活で車いす必要／不要)



(9) 過去1年間に行ったスポーツ・運動

過去1年間にスポーツ・運動を「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・運動を行ったかについて、上位種目をまとめたところ、いずれも「ウォーキング、散歩」が最も高く、次いで「体操」、「室内運動器具を用いる運動」の順であった。「ウォーキング、散歩」については、「日常生活で車いすを必要としない」の実施率の方が22.2ポイント高かった。【図表 89】

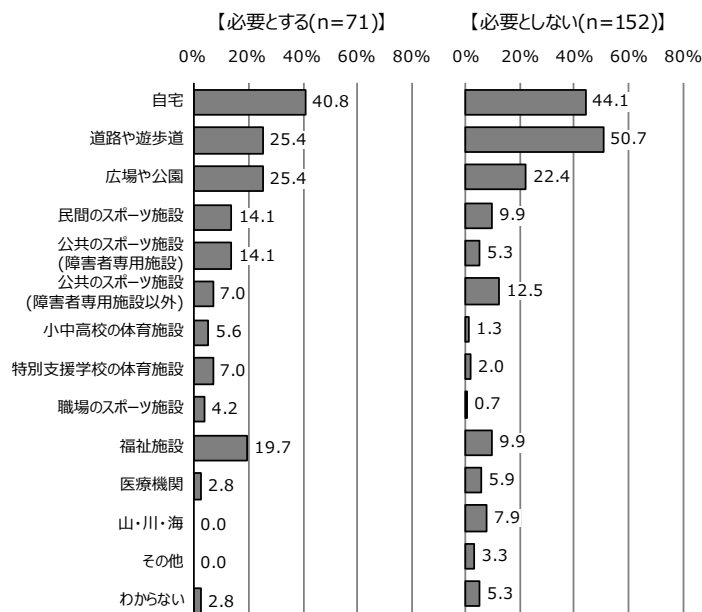
【図表 89】過去1年間に行ったスポーツ・運動(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(10) スポーツ・運動を実施する場所

スポーツ・運動を実施する場所は、「日常生活で車いすを必要とする」では「自宅」(40.8%)が最も高く、「日常生活で車いすを必要としない」では「道路や遊歩道」(50.7%)が最も高かった。【図表 90】

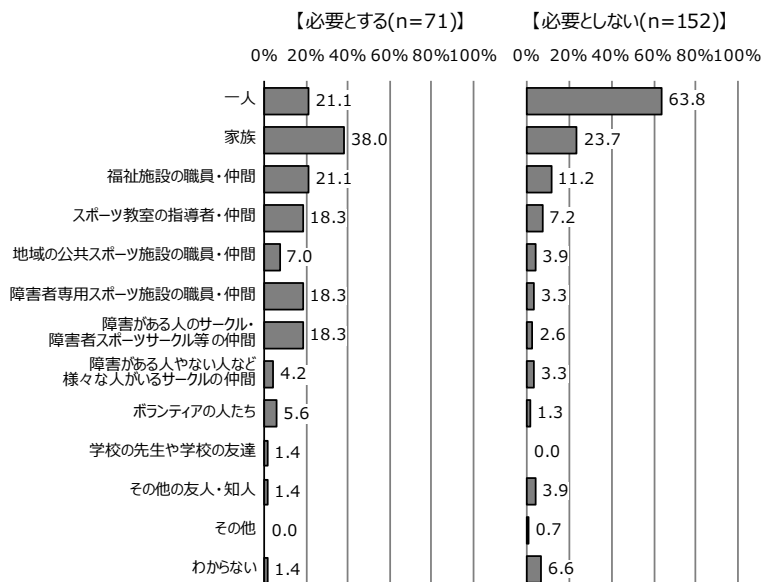
【図表 90】スポーツ・運動を実施する場所(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(11) スポーツ・運動を一緒に実施する人

スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「日常生活で車いすを必要とする」では「家族」(38.0%)が最も高く、「日常生活で車いすを必要としない」では「一人」(63.8%)が最も高かった。【図表 91】

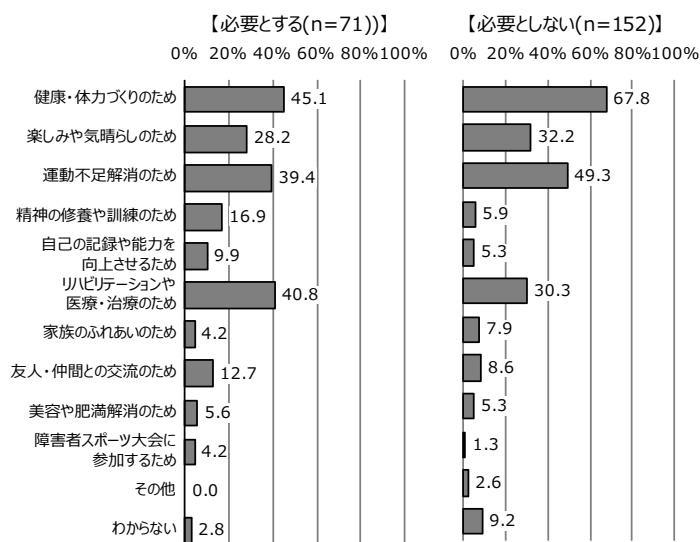
【図表 91】スポーツ・運動を一緒に実施する人(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(12) スポーツ・運動を実施する理由

スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」が最も高く、「日常生活で車いすを必要とする」では45.1%、「日常生活で車いすを必要としない」では67.8%であった。【図表 92】

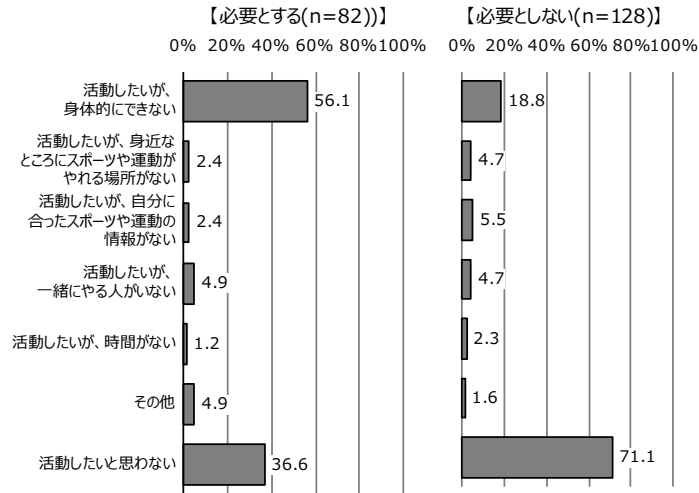
【図表 92】スポーツ・運動を実施する理由(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(13) スポーツ・運動を実施しない理由

スポーツ・運動を実施しない理由は、「日常生活で車いすを必要とする」では「活動したいが、身体的にできない」(56.1%)が最も高く、「日常生活で車いすを必要としない」では「活動したいと思わない」(71.1%)が最も高かった。【図表 93】

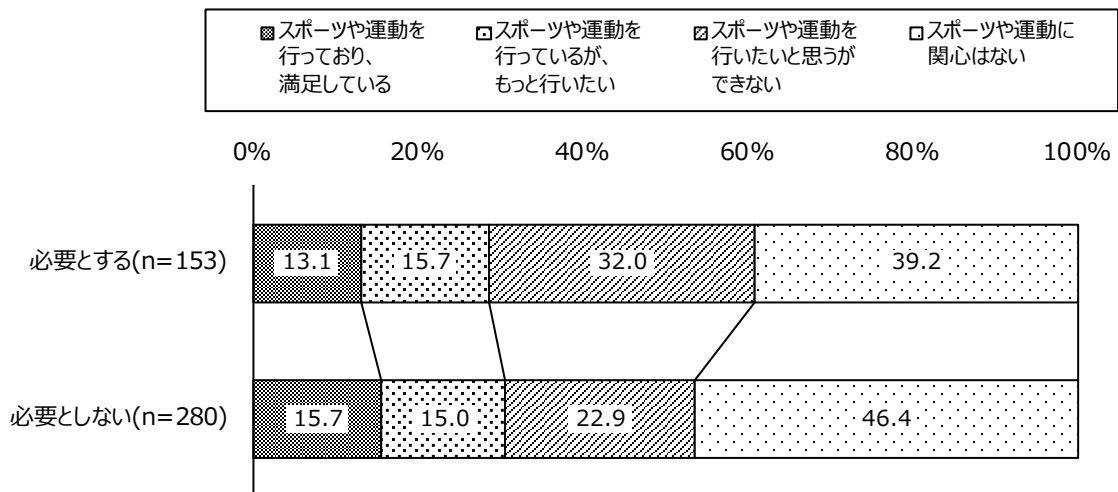
【図表 93】スポーツ・運動を実施しない理由(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(14) 現在のスポーツ・運動への取組

現在のスポーツ・運動への取組については、いずれも「スポーツや運動に関心はない」が最も高く、次いで「スポーツや運動を行いたいと思うができない」の順であった。このうち、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」は、「日常生活で車いすを必要とする」の回答割合の方が高かった。【図表 94】

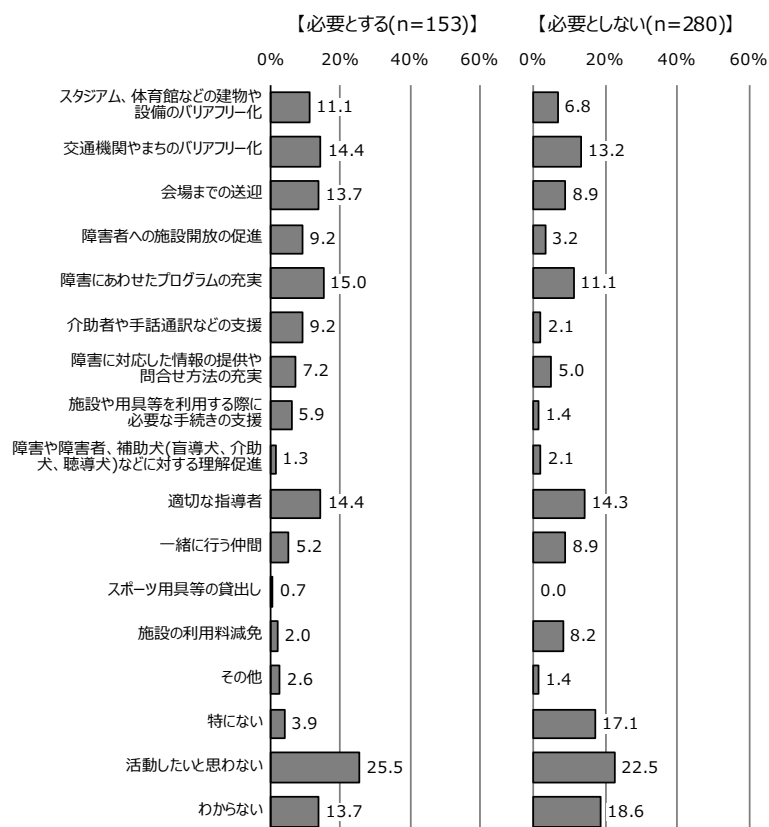
【図表 94】現在のスポーツ・運動への取組(日常生活で車いす必要／不要)



(14) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援

スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は、「日常生活で車いすを必要とする」では、「障害にあわせたプログラムの充実」(15.0%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.4%)、「適切な指導者」(14.4%)の順であった。「日常生活で車いすを必要としない」では、「適切な指導者」(14.3%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.2%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(11.1%)の順であった。【図表 95】

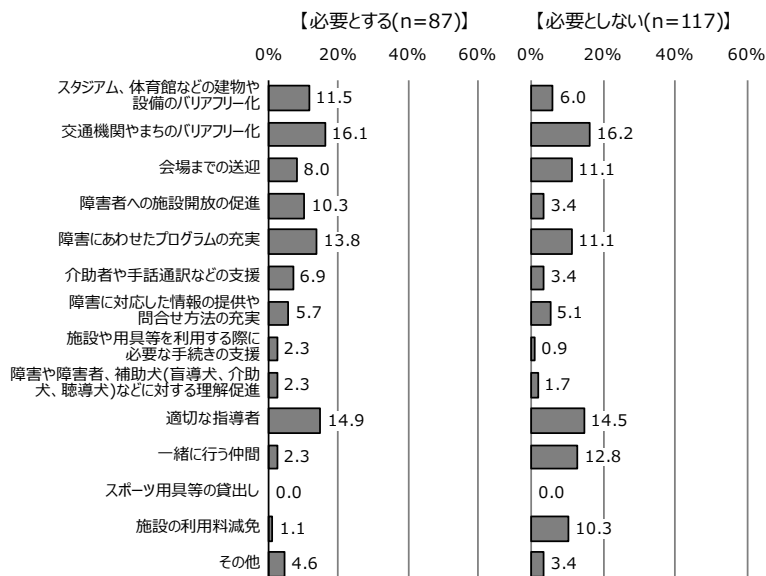
【図表 95】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(16) スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援

スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援は、「日常生活で車いすを必要とする」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」(16.1%)が最も高く、次いで「適切な指導者」(14.9%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(13.8%)の順であった。「日常生活で車いすを必要としない」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」(16.2%)が最も高く、次いで「適切な指導者」(14.5%)、「一緒に行く仲間」(12.8%)の順であった。【図表 96】

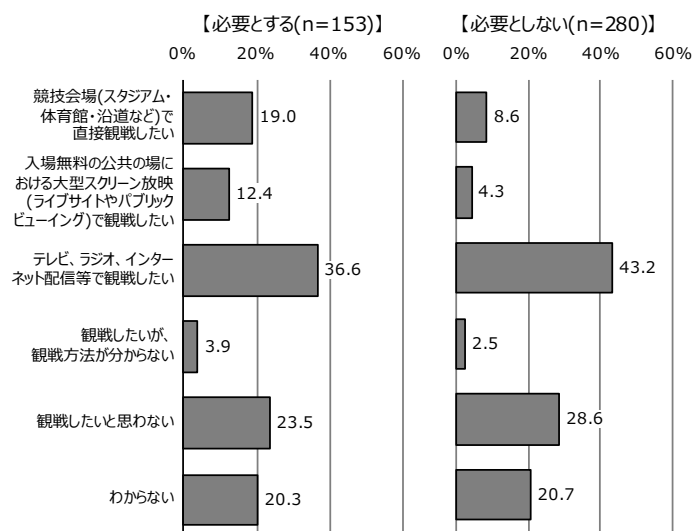
【図表 96】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援
(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(17) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦方法については、「日常生活で車いすを必要とする」と「日常生活で車いすを必要としない」のいずれにおいても「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」(それぞれ36.6%、43.2%)が最も高かった一方で、「観戦したいと思わない」「わからない」もそれぞれ2割を超えた。【図表 97】

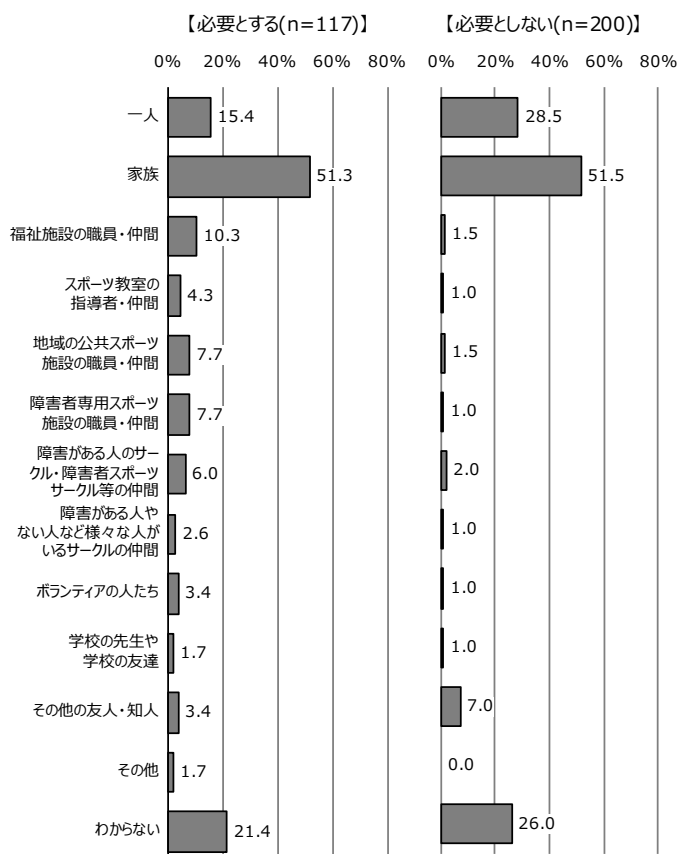
【図表 97】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望
(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



(18) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人

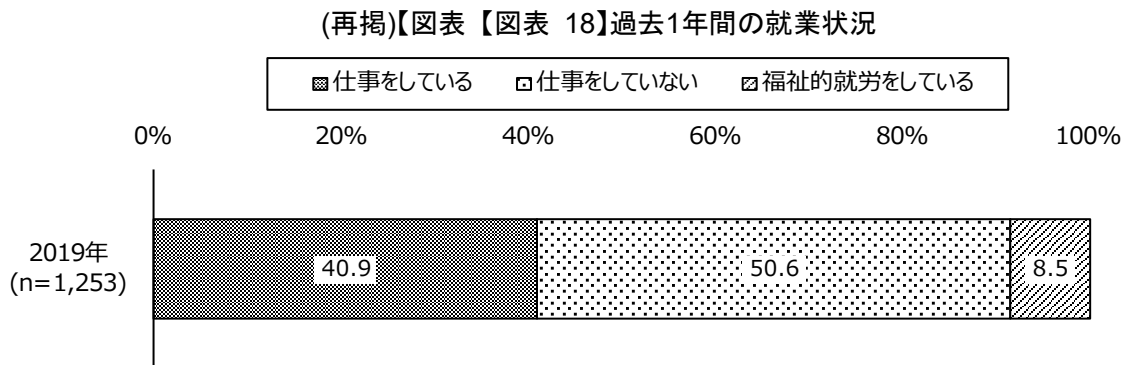
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人としては、「日常生活で車いすを必要とする」と「日常生活で車いすを必要としない」のいずれにおいても「家族」(それぞれ51.3%、51.5%)が最も高く、次いで「一人」(それぞれ15.4%、28.5%)で、「一人」の割合は、「日常生活で車いすを必要としない」の方が13.1ポイント高かった。【図表 98】

【図表 98】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人
(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



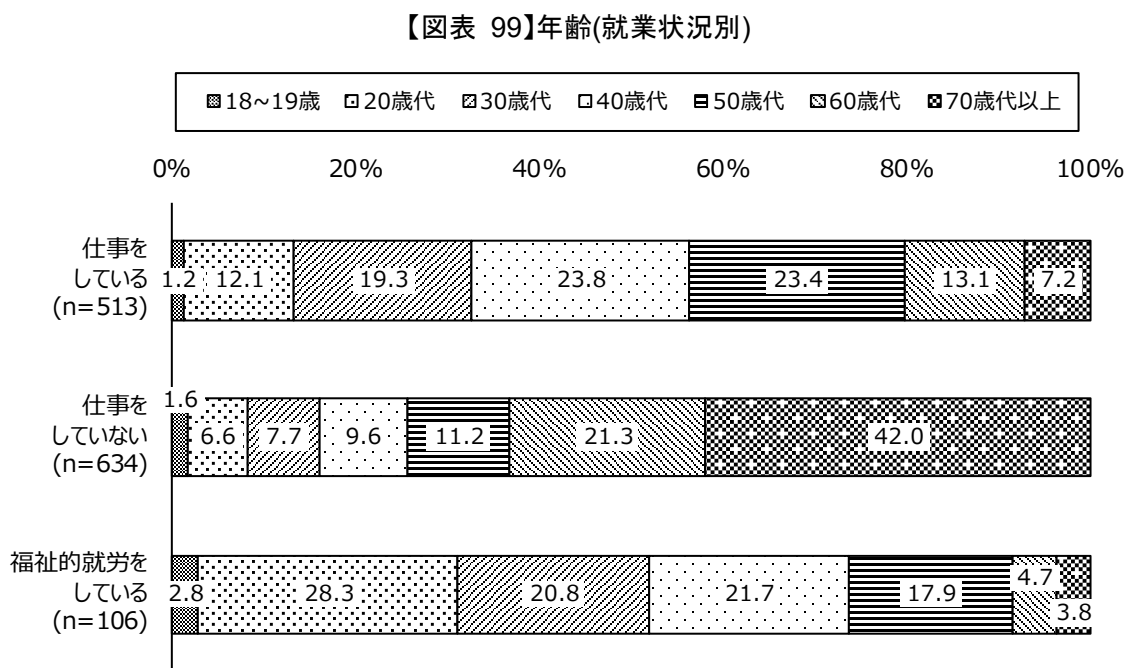
4 過去1年間における就業の有無によるスポーツ・運動の実施状況

過去1年間における就業の有無については、「仕事をしている」(40.9%)、「仕事をしていない」(50.6%)、「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)」(8.5%)となっており、この3区分によって、回答結果の分析を行った。【図表 18】



(1) 年齢

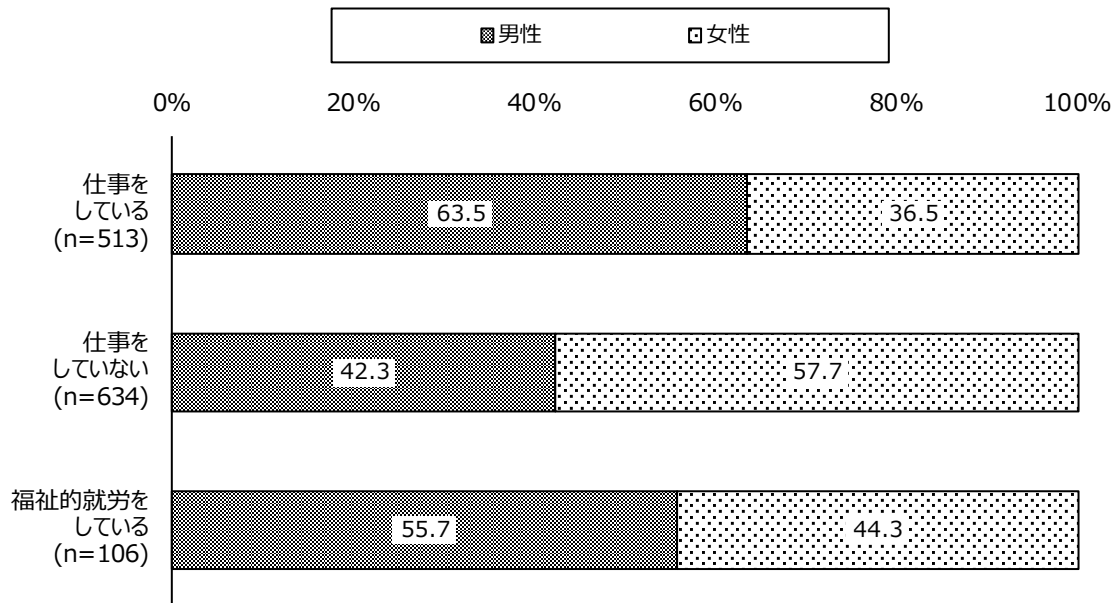
「仕事をしている」と「福祉的就労をしている」では20歳代～50歳代が約8～9割を占め、「仕事をしていない」では60歳代以上が約6割を占めた。【図表 99】



(2) 性別

「仕事をしている」と「福祉的就労をしている」では男性の割合(それぞれ63.5%、55.7%)の方が高く、「仕事をしていない」では女性の割合(57.5%)の方が高かった。【図表 100】

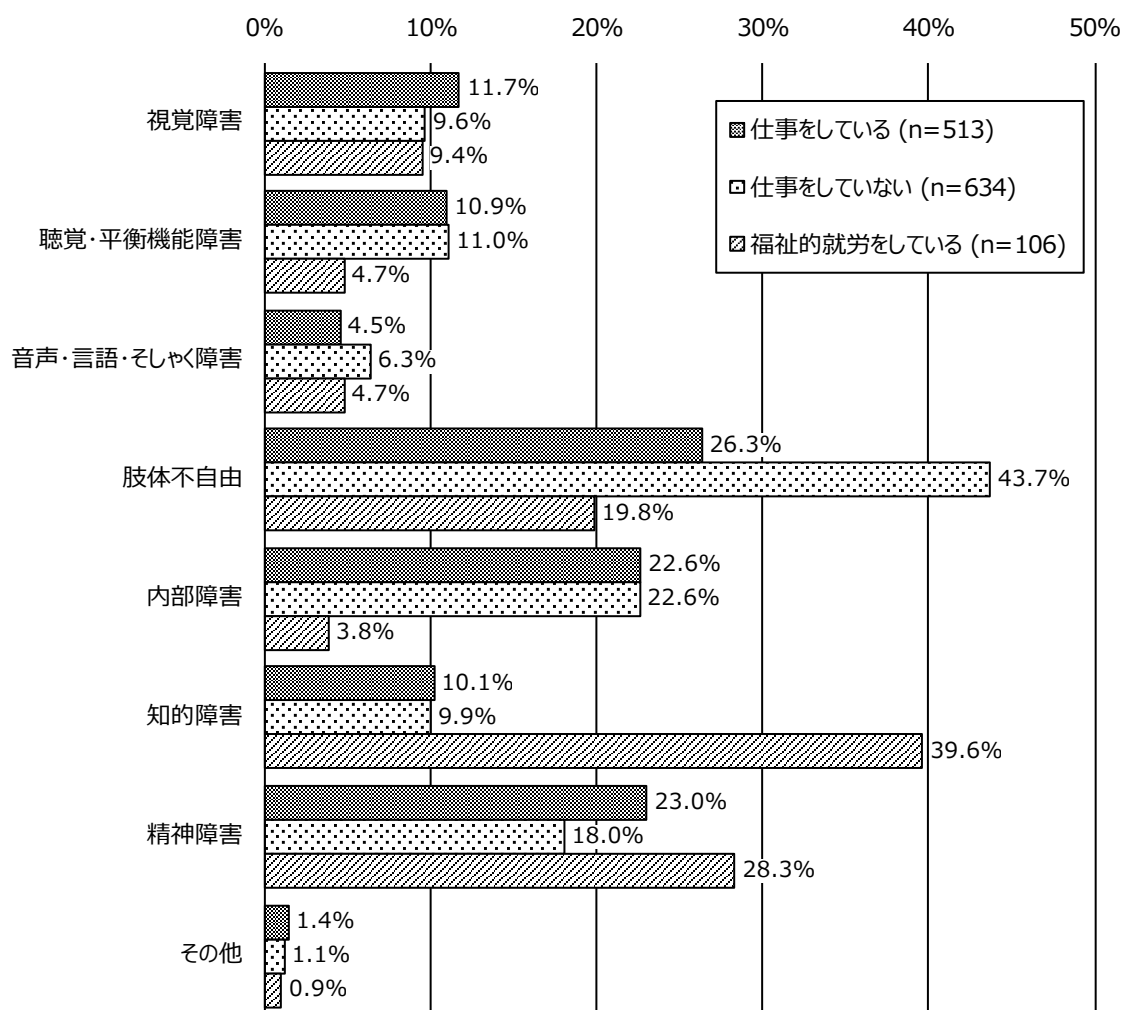
【図表 100】性別(就業状況別)



(3) 障害の種類

「福祉的就労をしている」では「知的障害」(39.6%)と「精神障害」(28.3%)の割合が高かった。【図表 101】

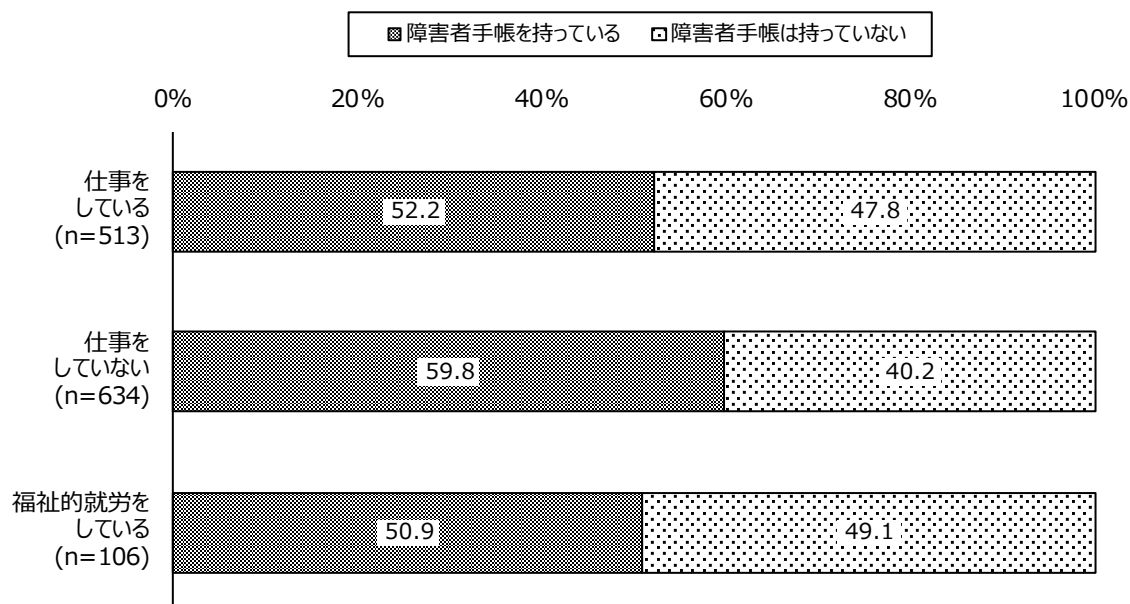
【図表 101】障害の種類(就業状況別)[複数回答]



(4) 障害者手帳の保有状況

障害者手帳の保有状況を見ると、「仕事をしている」の保有率が52.2%、「福祉的就労をしている」の保有率が50.9%であったのに対し、「仕事をしていない」の保有率は59.8%であった。【図表 102】

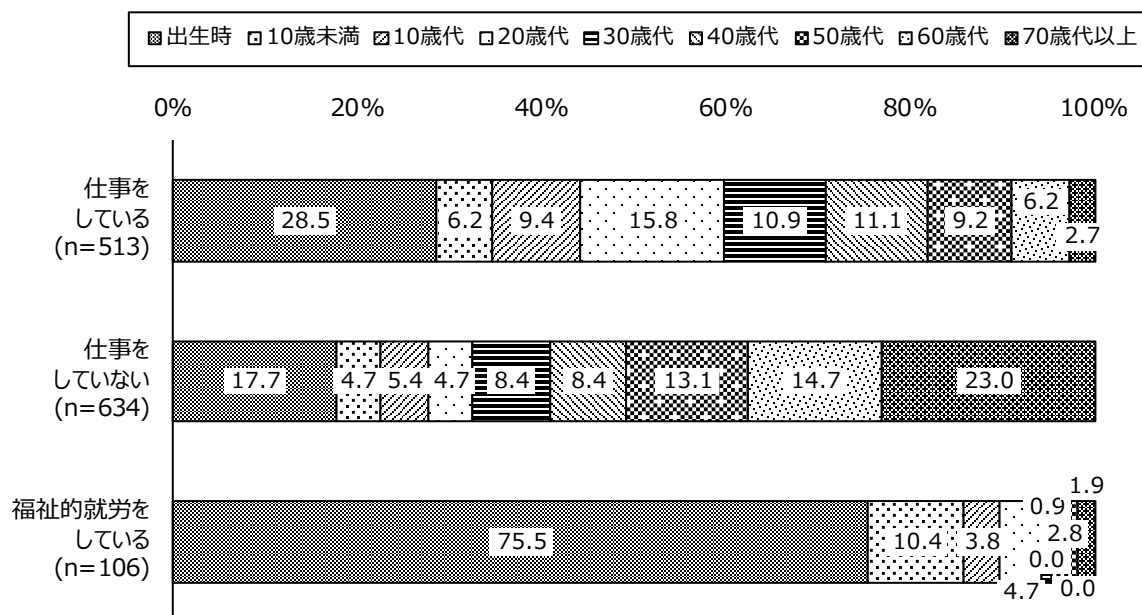
【図表 102】障害者手帳の保有状況(就業状況別)



(5) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢を見ると、「仕事をしている」では「出生時」(28.5%)が最も高かったのに対して、「仕事をしていない」では「70歳代以上」(23.0%)が最も高く、「60歳代」(14.7%)と合わせて、60歳代以上が1/3以上を占めた。「福祉的就労をしている」では「出生時」が75.5%であった。【図表 103】

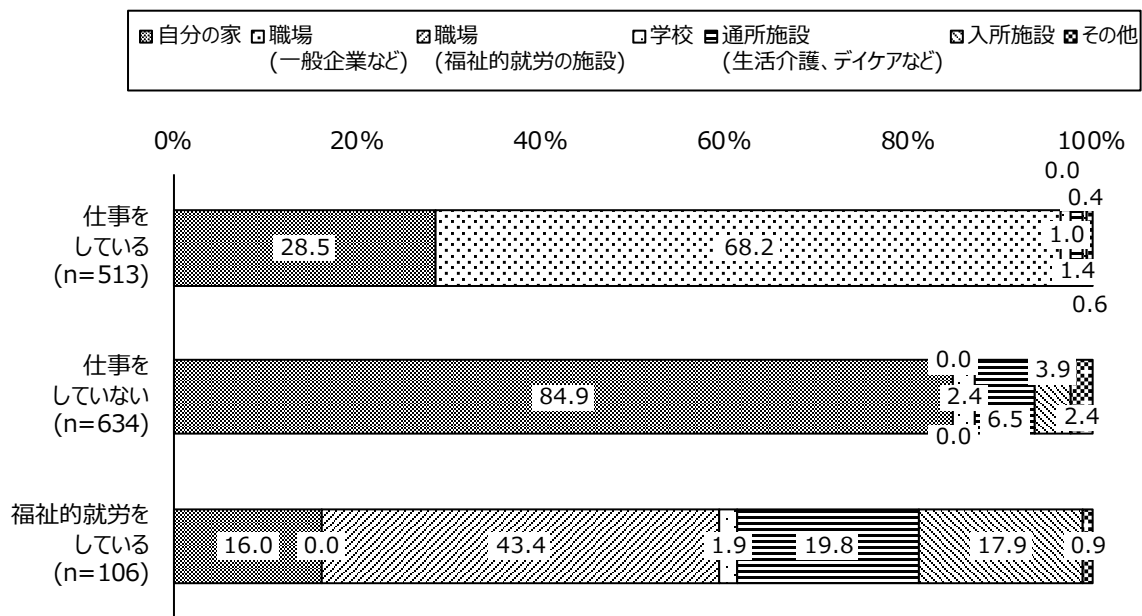
【図表 103】障害が発生した年齢(就業状況別)



(6) 過去1年間の平日・日中の居場所

「仕事をしている」では「職場」が68.2%で、「自分の家」も28.5%であった。「仕事をしていない」では「自分の家」が84.9%に上り、「学校」や「通所施設」などの自宅以外の場所は15.1%であった。「福祉的就労をしている」では「職場」が43.4%、「通所施設」と「入所施設」がそれぞれ19.8%、17.9%で、「自宅」が16.0%であった。【図表 104】

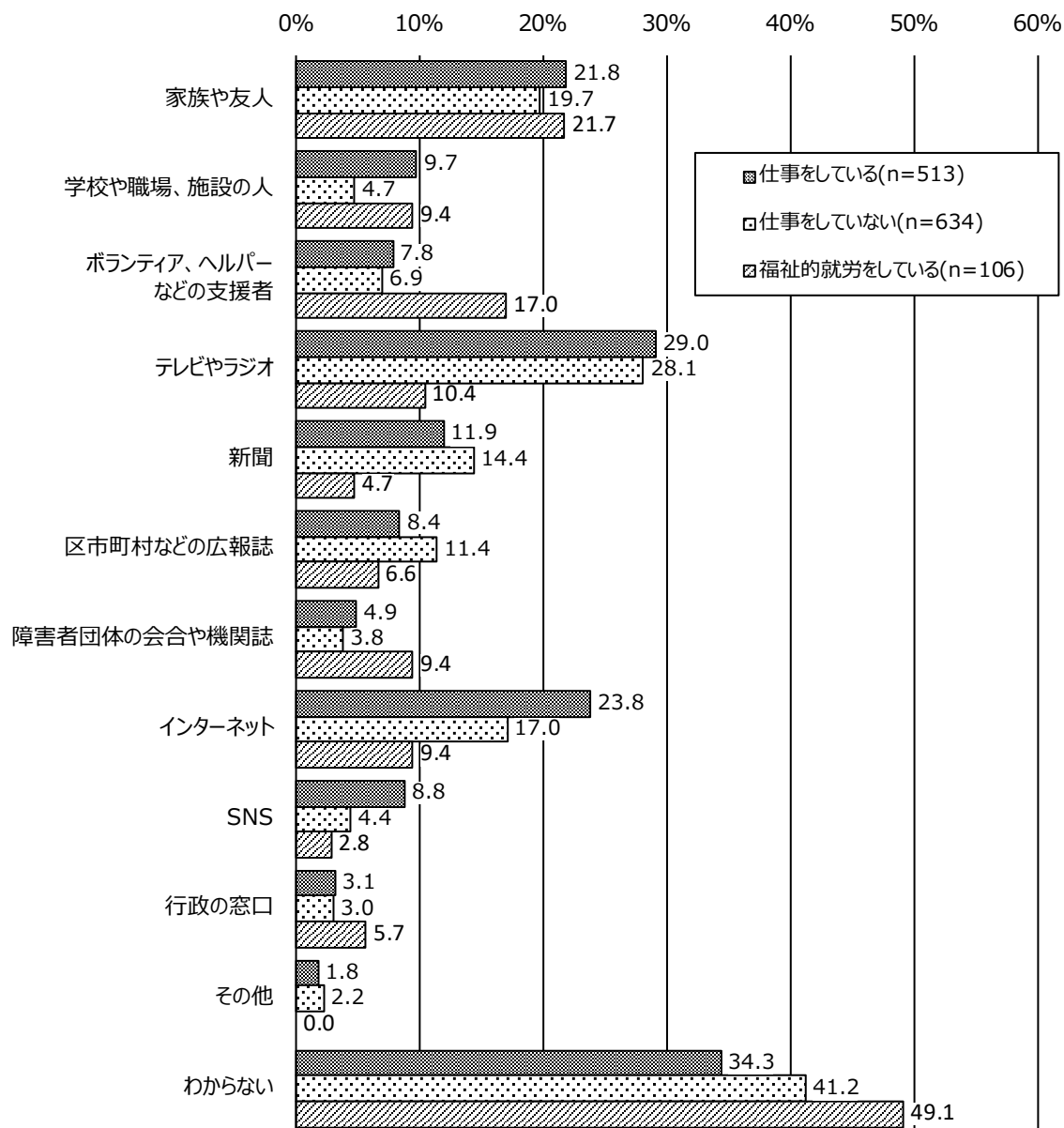
【図表 104】過去1年間の平日・日中の居場所(就業状況別)



(7) スポーツ・運動に関する情報源

スポーツや運動に関する情報源としては、「仕事をしている」「仕事をしていない」では「テレビやラジオ」(それぞれ29.0%、28.1%)、「インターネット」(それぞれ23.8%、17.0%)、「家族や友人」(それぞれ21.8%、19.7%)が高かった。「福祉的就労をしている」では「家族や友人」(21.7%)が最も高く、「ボランティア、ヘルパーなどの支援者」(17.0%)が続き、「テレビやラジオ」(10.4%)が3番目であった。【図表 105】

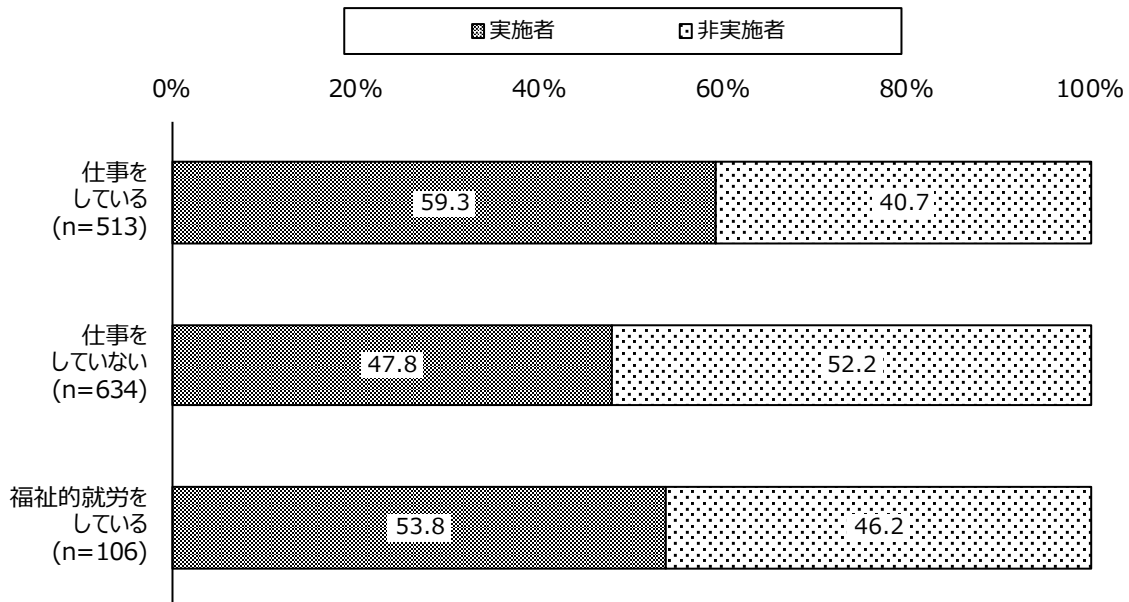
【図表 105】スポーツ・運動に関する情報源(就業状況別)[複数回答]



(8) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無をみると、スポーツ・運動の実施者は、「仕事をしている」では59.3%、「仕事をしていない」では47.8%、「福祉的就労をしている」では53.8%であった。【図表 106】

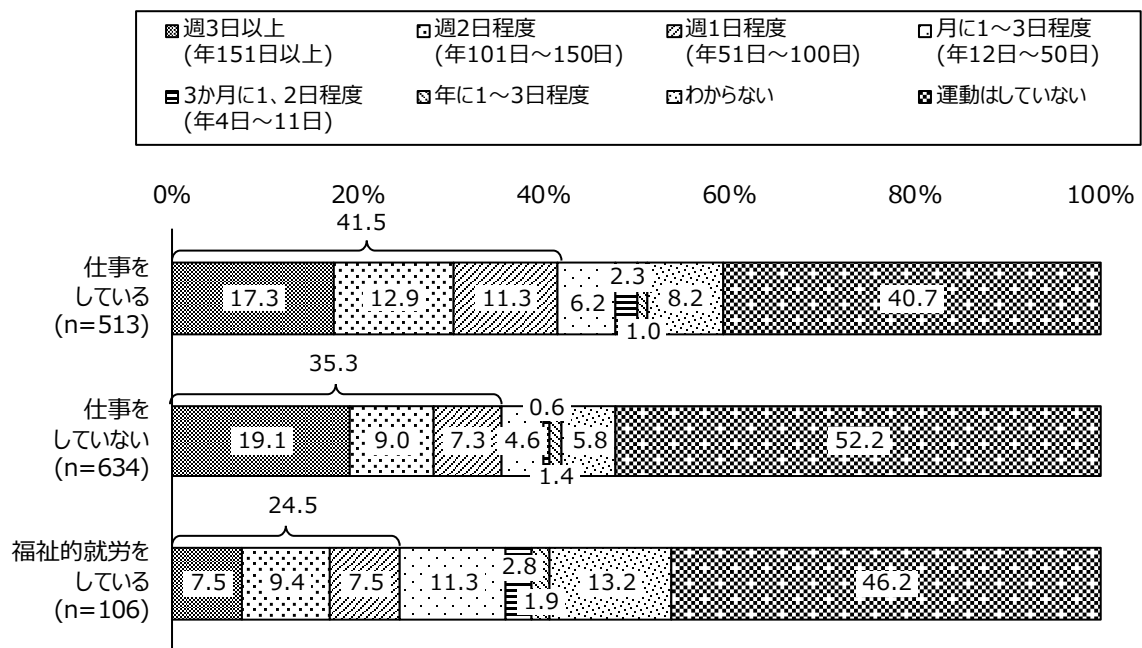
【図表 106】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(就業状況別)



(9) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

過去1年間のスポーツ・運動を行った日数について、週1日以上の実施者は、「仕事をしている」では41.5%、「仕事をしていない」では35.3%、「福祉的就労をしている」では24.5%であった。【図表 107】

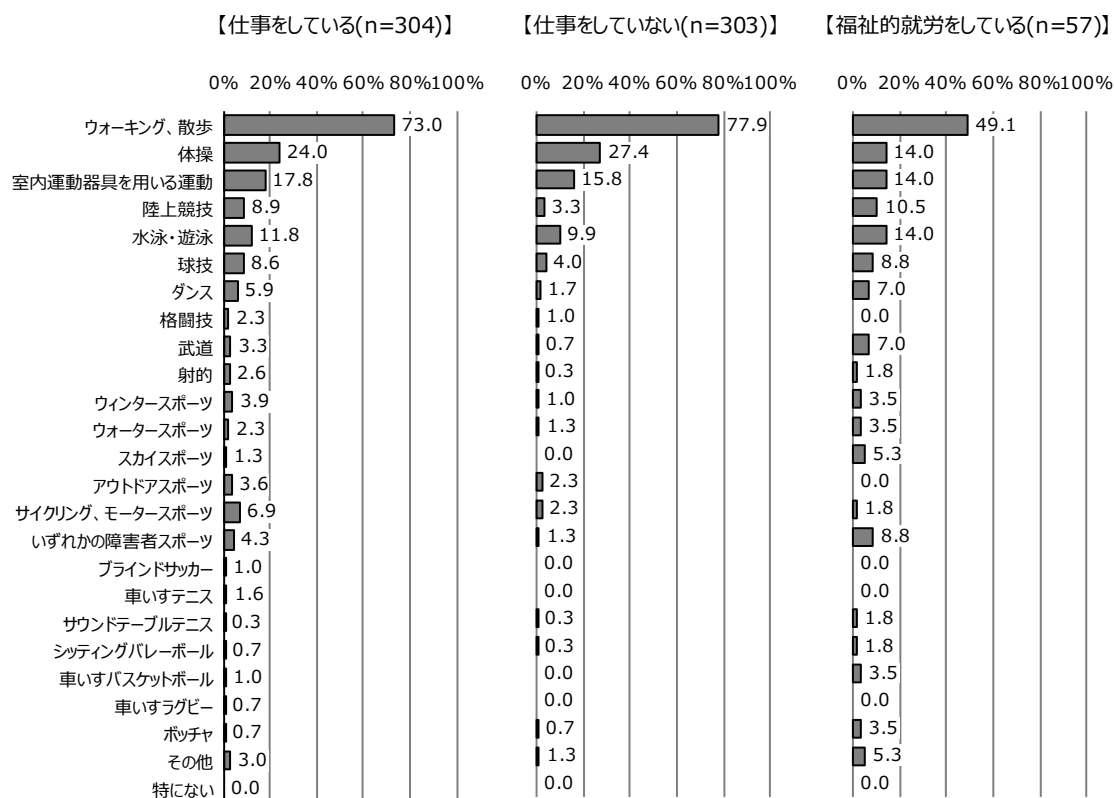
【図表 107】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(就業状況別)



(10) 過去1年間に行ったスポーツ・運動

過去1年間にスポーツ・運動を「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・運動を行ったかについて、上位種目をまとめたところ、「仕事をしている」と「仕事をしていない」では「ウォーキング、散歩」(それぞれ73.0%、77.9%)が最も高く、次いで「体操」(それぞれ24.0%、27.4%)、「室内運動器具を用いる運動」(それぞれ17.8%、15.8%)の順であった。「福祉的就労をしている」でも「ウォーキング、散歩」が最も高かったが、その割合は49.1%であった。2番目に高かったのは「体操」「室内運動器具を用いる運動」「水泳・遊泳」で、いずれも14.0%であった。【図表 108】

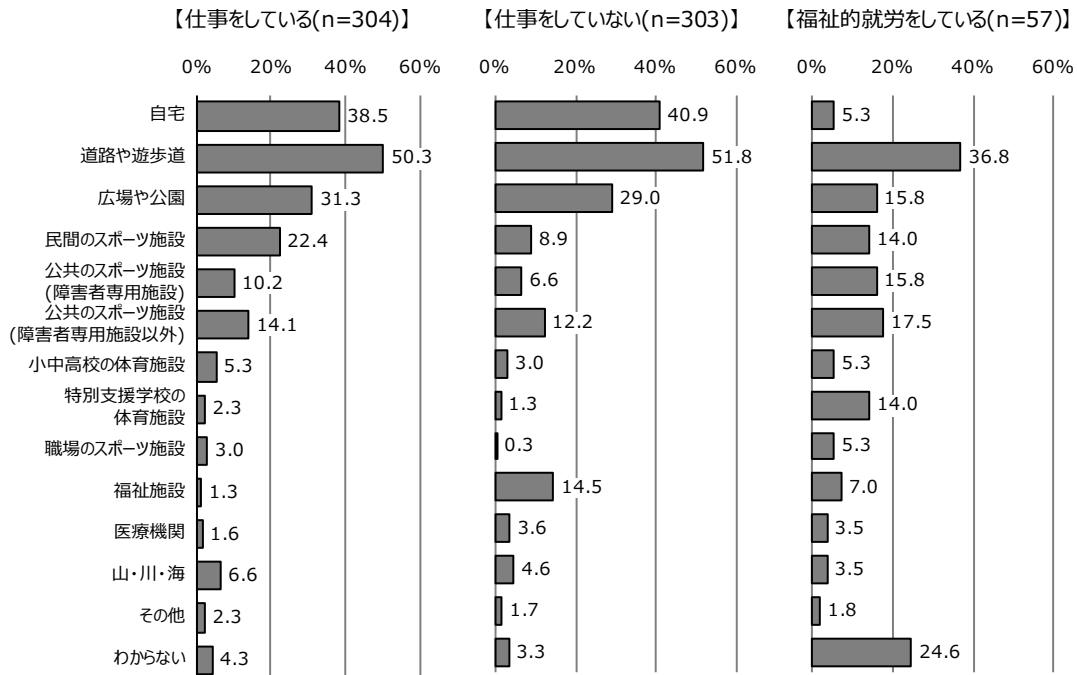
【図表 108】過去1年間に行ったスポーツ・運動(就業状況別)[複数回答]



(11) スポーツ・運動を実施する場所

スポーツ・運動を実施する場所は、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれにおいても「道路や遊歩道」(それぞれ50.3%、51.8%、36.8%)が最も高かった。その次は、「仕事をしている」と「仕事をしていない」では「自宅」(それぞれ38.5%、40.9%)、「広場や公園」(それぞれ31.3%、29.0%)の順となった。「福祉的就労をしている」では「わからない」が24.6%であったが、他には「公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)」(17.5%)、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設)」(15.8%)、「広場や公園」(15.8%)などであった。【図表 109】

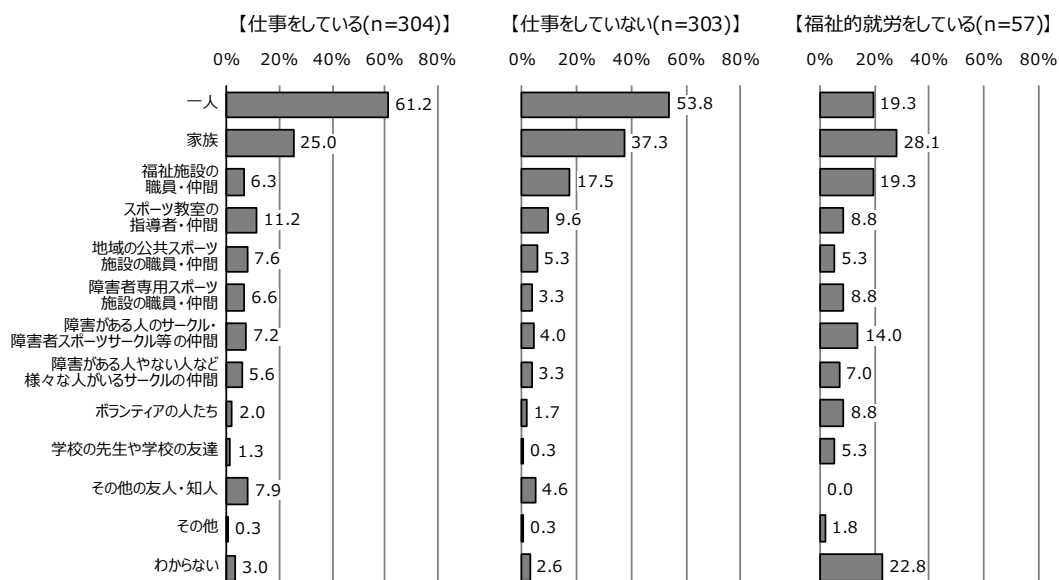
【図表 109】スポーツ・運動を実施する場所(就業状況別)[複数回答]



(12) スポーツ・運動を一緒に実施する人

スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「仕事をしている」と「仕事をしていない」では「一人」(それぞれ61.2%、53.8%)が最も高く、次いで「家族」(それぞれ25.0%、37.3%)であった。「家族」については「仕事をしていない」の方が12.3ポイント高かった。「福祉的就労をしている」では「家族」(28.1%)が最も多く、「わからない」が22.8%で、「一人」と「福祉施設の職員・仲間」がいずれも19.3%であった。【図表 110】

【図表 110】スポーツ・運動を一緒に実施する人(就業状況別)[複数回答]

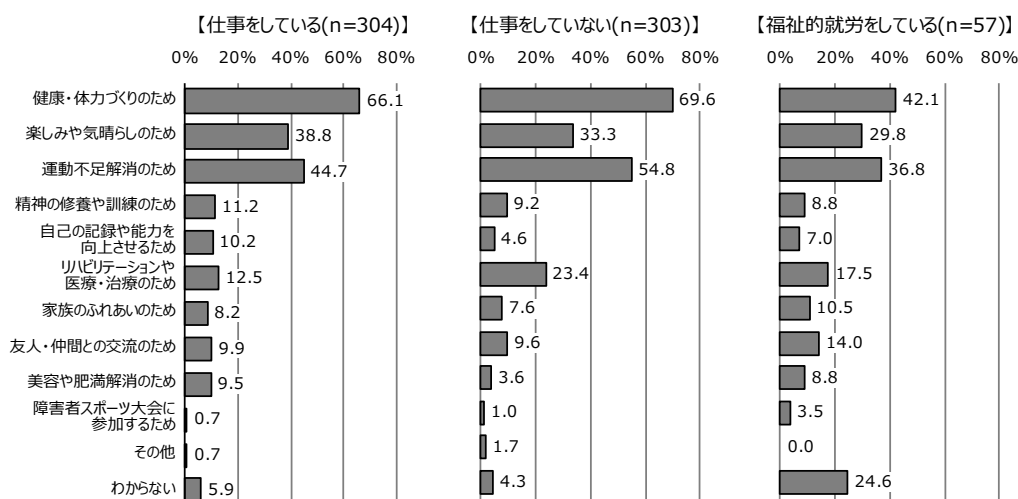


(13) スポーツ・運動を実施する理由

スポーツ・運動を実施する理由は、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれにおいても「健康・体力づくりのため」(それぞれ66.1%、69.6%、42.1%)が最も高く、次いで「運動不足解消のため」(それぞれ44.7%、54.8%、36.8%)、「楽しみや気晴らしのため」(それぞれ38.8%、33.3%、29.8%)であった。「仕事をしていない」では、「仕事をしている」と「福祉的就労をしている」に比べて、「運動不足解消のため」と「リハビリテーションや医療・治療のため」(23.4%)を理由とする割合が高かった。

【図表 111】

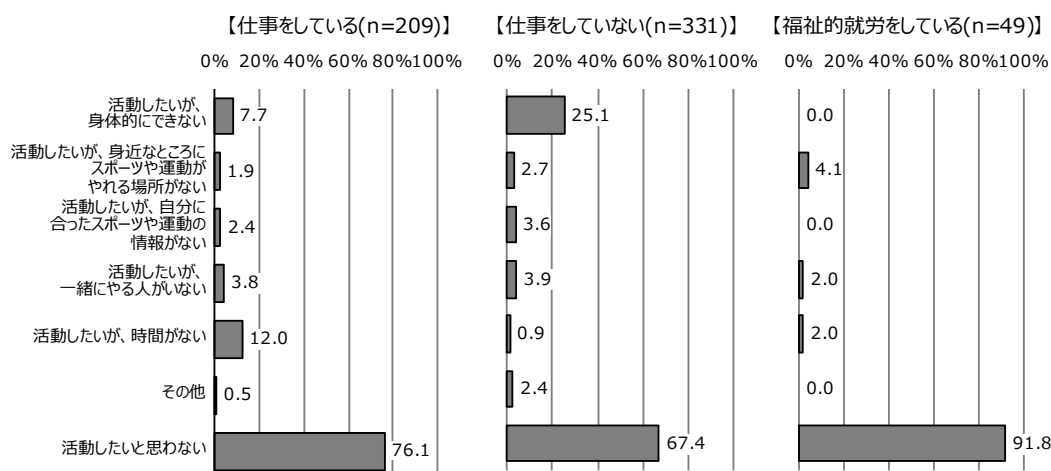
【図表 111】スポーツ・運動を実施する理由(就業状況別)[複数回答]



(14) スポーツ・運動を実施しない理由

スポーツ・運動を実施しない理由は、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれにおいても「活動したいとは思わない」(それぞれ76.1%、67.4%、91.8%)が最も高かったが、他に1割を超えたのは、「仕事をしていない」では「活動したいが、身体的にできない」が25.1%、「仕事をしている」では「活動したいが、時間がない」が12.0%であった。【図表 112】

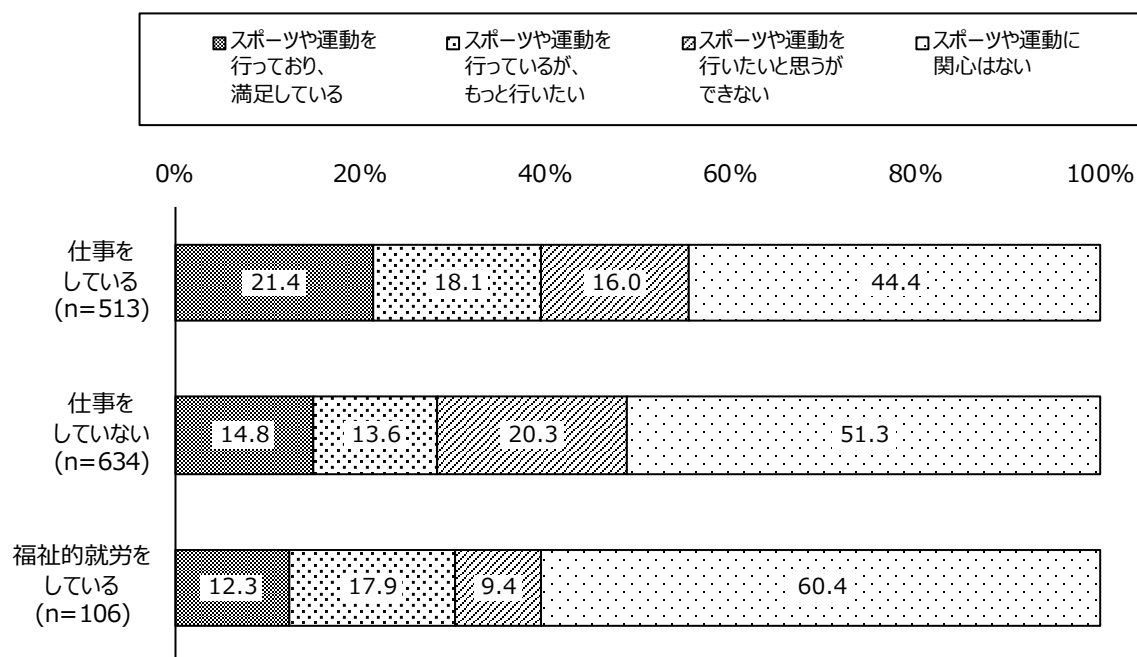
【図表 112】スポーツ・運動を実施しない理由(就業状況別)[複数回答]



(15) 現在のスポーツ・運動への取組

現在のスポーツ・運動への取組については、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれにおいても「スポーツや運動に関心はない」(それぞれ44.4%、51.3%、60.4%)が最も高かった。2番目に高かったのは、「仕事をしている」では「スポーツや運動を行っており、満足している」が21.4%、「仕事をしていない」では「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が20.3%、「福祉的就労をしている」では「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」が17.9%であった。【図表 113】

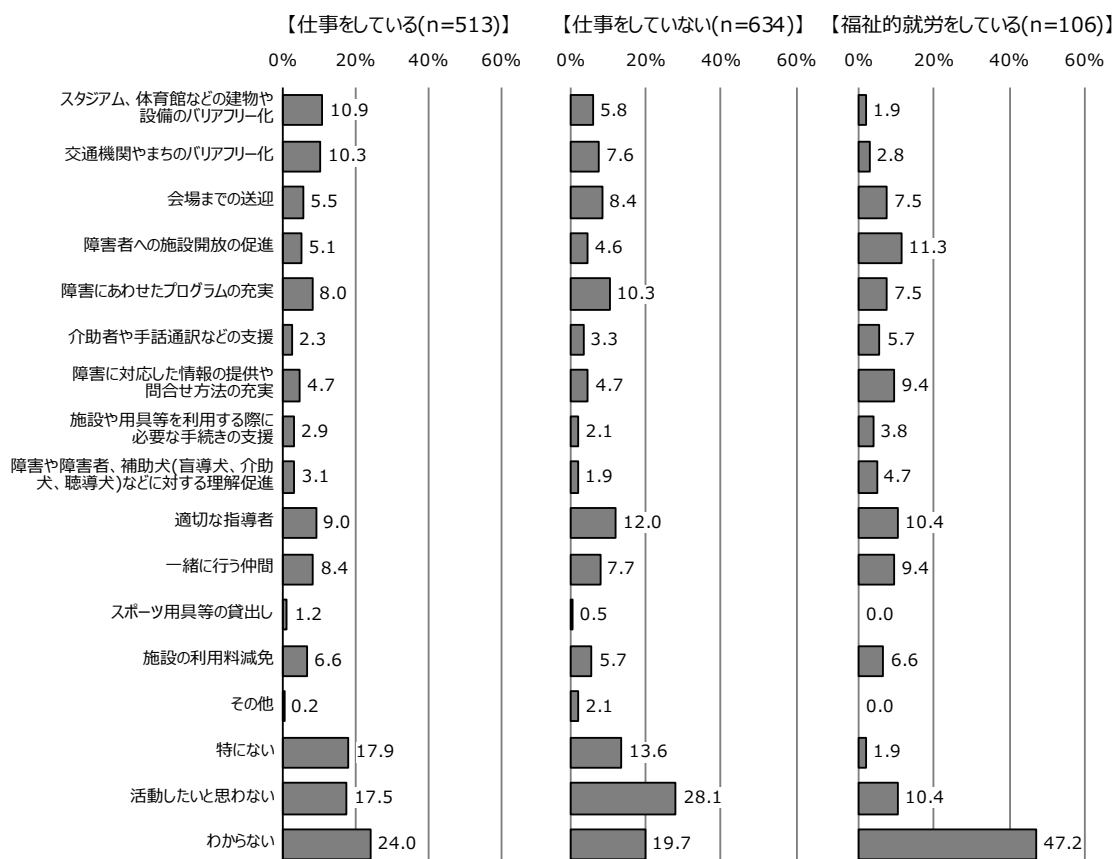
【図表 113】現在のスポーツ・運動への取組(就業状況別)



(16) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援

スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は、「仕事をしている」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(10.9%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(10.3%)であった。「仕事をしていない」では、「適切な指導者」(12.0%)が最も高く、次いで「障害にあわせたプログラムの充実」(10.3%)であった。「福祉的就労をしている」では「障害者への施設開放の促進」(11.3%)が最も高く、次いで「適切な指導者」(10.4%)であった。【図表 114】

【図表 114】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(就業状況別)[複数回答]

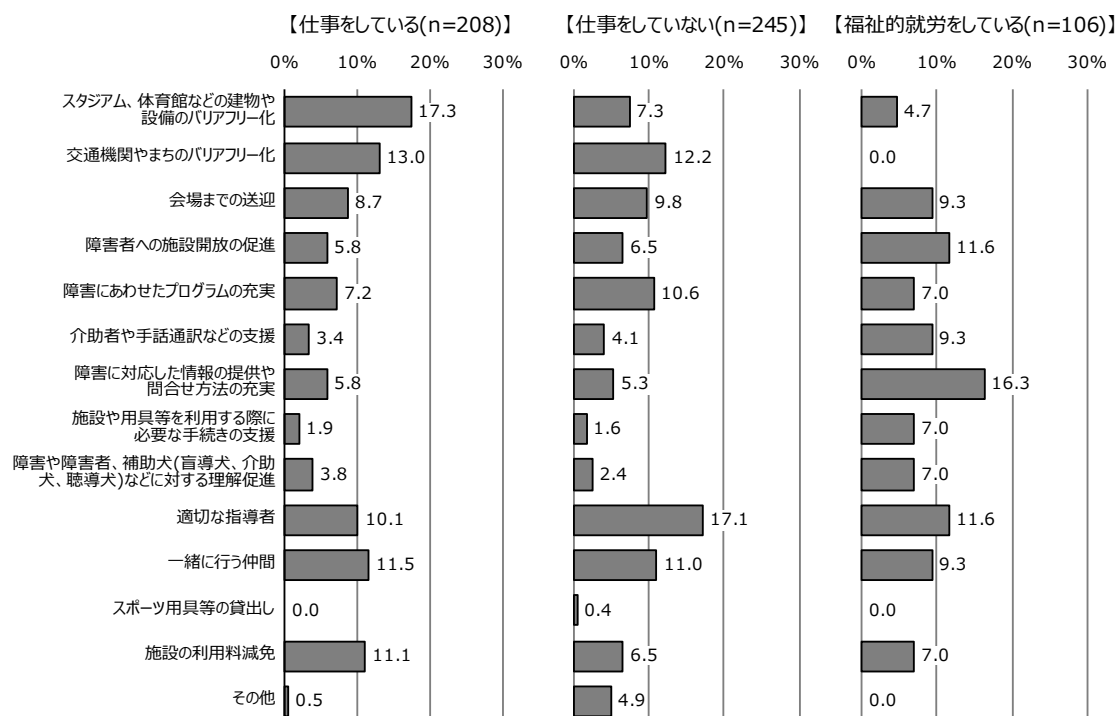


(17) スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援

スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援は、「仕事をしている」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(17.3%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.0%)であった。「仕事をしていない」では、「適切な指導者」(17.1%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(12.2%)であった。「福祉的就労をしている」では「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(16.3%)が最も高く、次いで「障害者への施設開放の促進」と「適切な指導者」(いずれも11.6%)であった。

【図表 115】

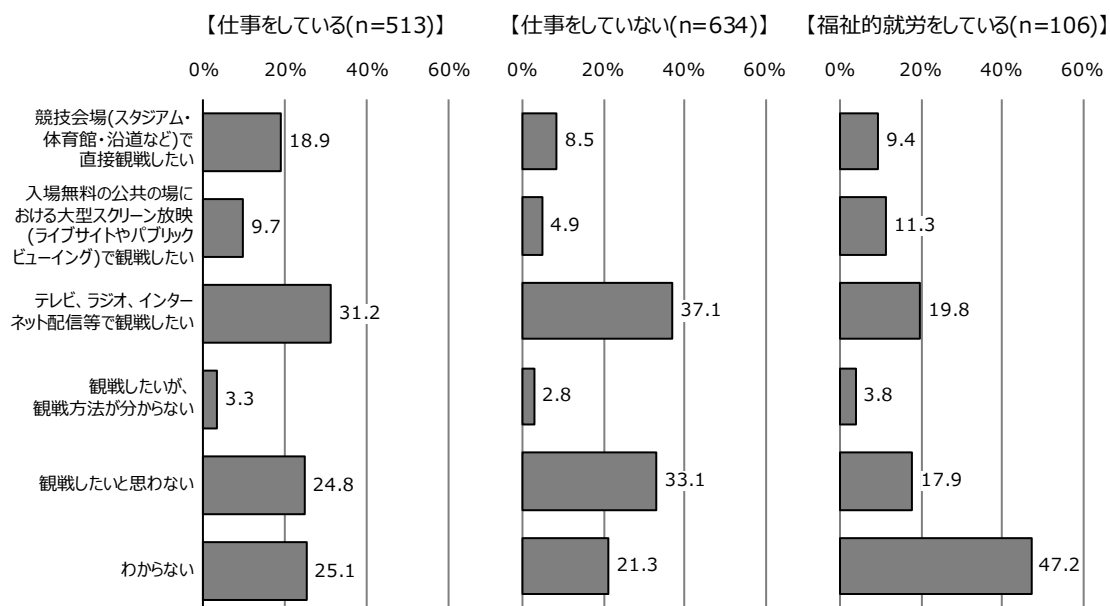
【図表 115】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(就業状況別)



(18) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦方法については、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれにおいても「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」(それぞれ31.2%、37.1%、19.8%)が最も高かった。一方で、「観戦したいと思わない」は、「仕事をしている」が24.8%、「仕事をしていない」が33.1%、「福祉的就労をしている」が17.9%であった。【図表 116】

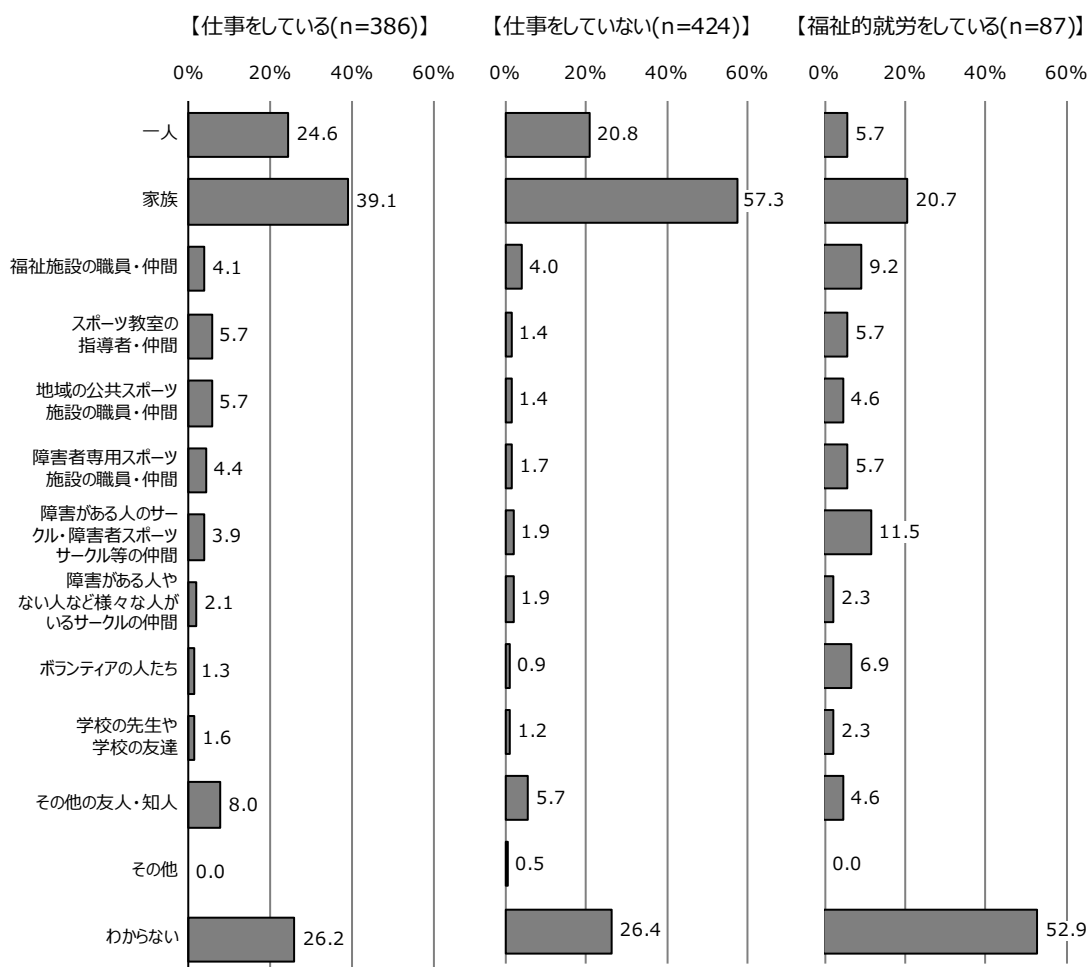
【図表 116】東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦希望(就業状況別)[複数回答]



(19) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人としては、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれにおいても「家族」(それぞれ39.1%、57.3%、20.7%)が最も高かった。「わからない」以外で2番目に高かったのは、「仕事をしている」と「仕事をしていない」では「一人」(それぞれ24.6%、20.8%)で、「福祉的就労をしている」では「障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間」(11.5%)であった。【図表 117】

【図表 117】東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を一緒に観戦したい人
(就業状況別)[複数回答]



5 まとめ

今回の調査をとりまとめると以下のとおりである。

○ 調査結果

● 週に1日以上スポーツ・運動を実施した人は37.0%、スポーツ・運動を実施していない人は47.0%

週に1日以上、何らかのスポーツ・運動を実施した人は37.0%で、昨年度から4.6ポイント上昇した。一方で、スポーツ・運動を実施していない人は47.0%であった。【図表 35】(P26参照)

障害種別にみると、「内部障害」「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」では週1日以上スポーツ・運動を実施した人が4割を超えたのに対して、「音声・言語・そしゃく障害」「精神障害」では3割あるいはそれ以下であった。【図表 37】(P27参照)

● 過去1年間に実施したスポーツ・運動の上位種目は、「ウォーキング、散歩」、「体操」、「室内運動器具を用いる運動」

過去1年間にスポーツ・運動を実施した人が行った種目は、昨年度と同様、「ウォーキング、散歩」が73.2%と最も高く、次いで「体操」(24.7%)、「室内運動器具を用いる運動」(16.6%)であった。【図表 42】(P30参照)

● スポーツ・運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」、「自宅」、「広場や公園」

スポーツ・運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」が49.8%と最も高く、次いで「自宅」(36.7%)、「広場や公園」(28.9%)であった。昨年度に比べ、「道路や遊歩道」は6.4ポイント、「自宅」は4.4ポイント上昇した。【図表 51】(P36参照)

● スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「一人」、「家族」、「福祉施設の職員・仲間」

スポーツ・運動を一緒に実施する人は、昨年度と同様、「一人」が54.2%と最も高く、次いで「家族」(30.9%)、「福祉施設の職員・仲間」(12.5%)であった。昨年度に比べ、「家族」は4.9ポイント上昇した。【図表 54】(P39参照)

● スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」、「運動不足解消のため」、「楽しみや気晴らしのため」

スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」が65.7%と最も高く、次いで「運動不足解消のため」(48.6%)、「楽しみや気晴らしのため」(35.5%)であった。「健康・体力づくりのため」は6.6ポイント、「運動不足解消のため」は6.5ポイント、昨年度に比べて高かった。【図表 57】(P42参照)

障害種別では、他の障害に比べて、「内部障害」と「聴覚・平衡機能障害」では「健康・体力づくりのため」(それぞれ80.0%、75.3%)、「知的障害」では「楽しみや気晴らしのため」(47.7%)、「肢体不自由」と「音声・言語・そしゃく障害」では「リハビリテーションや医療・治療のため」(それぞれ33.6%、28.6%)の割合が高かった。【図表 58】(P43参照)

● スポーツ・運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」、「活動したいが、身体的にできない」、「活動したいが、時間がない」

スポーツ・運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」が72.5%と最も高く、次いで「活動したいが、身体的にできない」(16.8%)、「活動したいが、時間がない」(4.9%)と、昨年度と同様の順位であった。【図表 60】(P45参照)

- **全体の約半数がスポーツ・運動に関心がある**

スポーツ・運動の取組に対して、「スポーツや運動に関心はない」との回答が49.2%で最も高かったが、その割合は、昨年度に比べ5.7ポイント低下した。これにより「スポーツや運動に関心がある」が半数を超えたが、その内訳は、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」(17.6%)、「スポーツや運動を行っており、満足している」(17.3%)、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(15.8%)であった。このうち、「スポーツや運動を行っており、満足している」は、昨年度に比べ、2.7ポイント上昇した。【図表 63】(P 48参照)

- **スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は「適切な指導者」など様々**

スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は、「適切な指導者」が10.6%と最も高く、次いで「障害にあわせたプログラムの充実」(9.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(8.3%)、「一緒に行う仲間」(8.1%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(7.6%)と様々であった。【図表 69】(P51参照)

スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援は、「適切な指導者」が13.7%で最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(11.5%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(11.3%)、「一緒に行う仲間」(11.1%)、「会場までの送迎」(9.3%)であった。【図表 72】(P54参照)

○ 参考(考察)

障害のある都民(18歳以上)のスポーツ・運動実施率を高める観点から、以下のとおり、分析・考察を行った。

① スポーツ・運動の実施率を高めるための施策

障害のある都民(18歳以上)のスポーツ・運動の実施率を向上させるための施策を検討するため、

- スポーツ・運動の実施者を増やす
- スポーツ・運動の実施者がスポーツ・運動を実施する頻度を高める

の2つに分けて分析を行った。

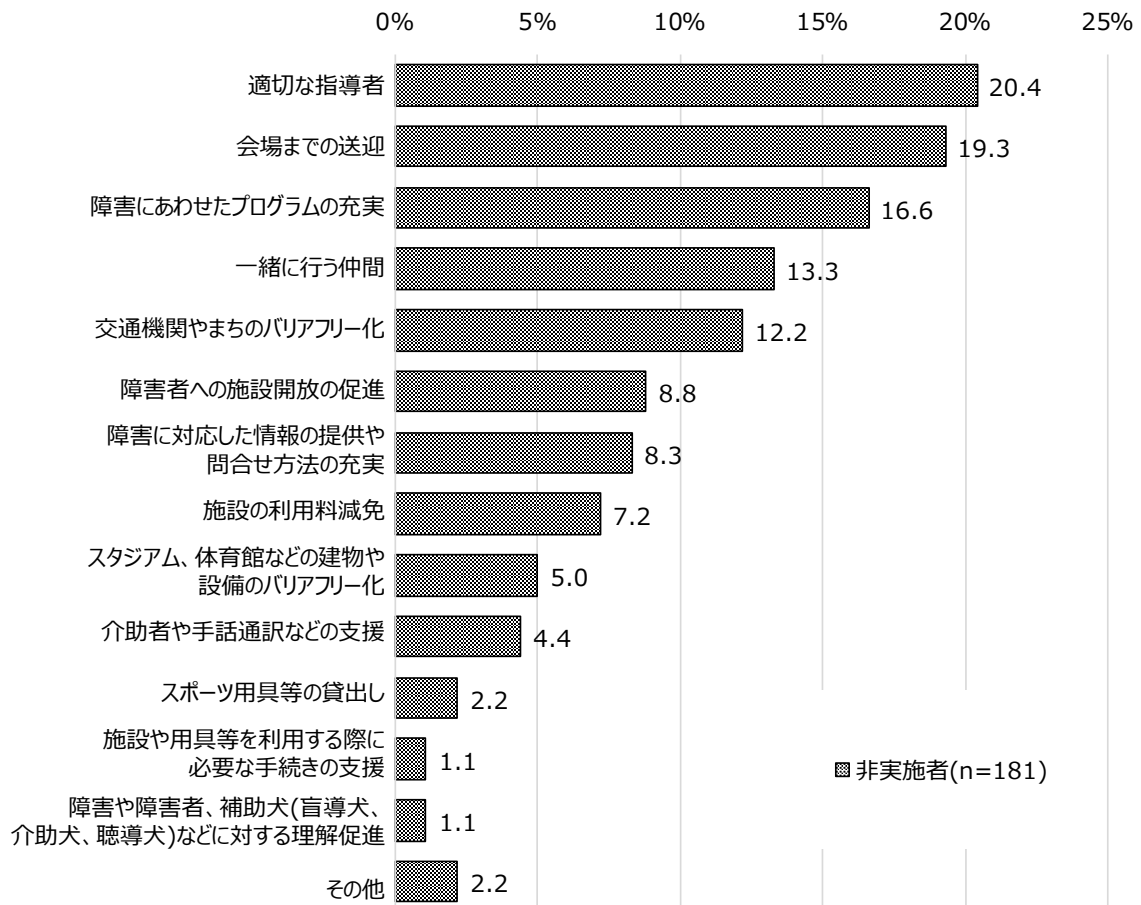
<スポーツ・運動の実施者を増やす>

過去1年間にスポーツ・運動を行っていない「非実施者」の中には、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」と回答している方がおり、その割合は、昨年度調査は7.0%(全対象者1,366人中95人)、今年度調査は6.9%(全対象者1,253人中86人)であった。

これらの方がスポーツ・運動を行う際に必要と考える支援について、二年分のデータをまとめて分析したところ、「適切な指導者」が20.4%で最も高く、次いで「会場までの送迎」(19.3%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(16.6%)、「一緒に行う仲間」(13.3%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(12.2%)の順であった。

【図表 118】

【図表 118】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(スポーツ・運動の実施の有無別)[複数回答]



また、現在のスポーツ・運動への取組状況について、以下のような理由が具体的に述べられている。

[現在のスポーツ・運動への取組状況の理由(一部を抜粋)]

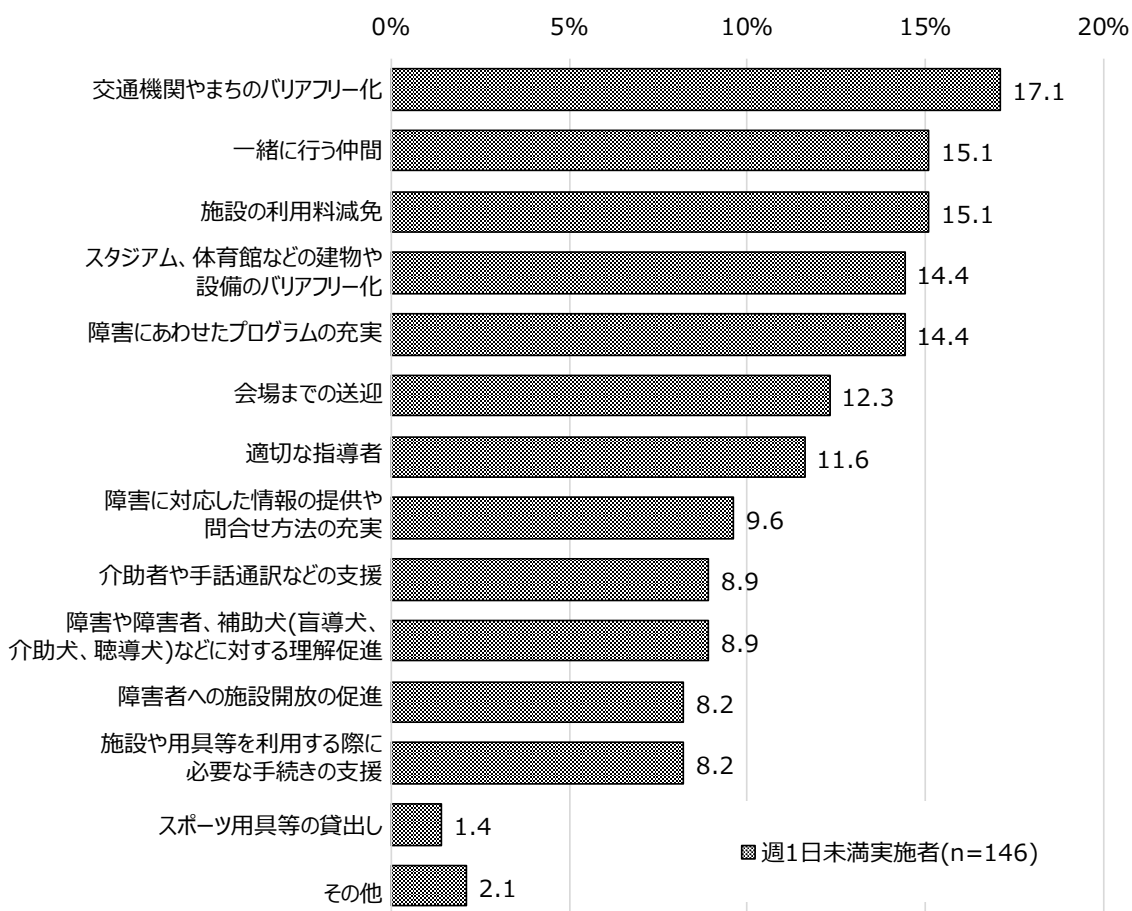
- 施設までなかなか行く事が出来ない。(67才女性)
- 周囲がバリアフリーではなく、移動が困難だから。(87才男性)
- 施設・場所・指導者のどれも無い(75才女性)
- 一緒にやる仲間がいればスポーツをやりたいです。(49才男性)
- やったことないから、どうすればいいかわからない(52才女性)
- 学生時代は運動をしていたが、就職して時間がなくなった。もともとインドアの方が好きなので運動をしなくなった。ポッチャとかは好きなのでイベントがあると参加しているようだが続けて行く場所がない。(29才男性)
- 健康な時にトライアスロンをしまして、オリンピック選手と一緒に練習をしていました。また競泳もしていましたので水泳をどうしてもやりたいのですが、障害者のスポーツ施設は近隣にあるのですが、プールから上がるころとある程度感覚を取り戻すところまでお手伝いいただければ、自主的に練習ができると考えますが、どうやってスポーツの指導をいただける、またお手伝いいただける方を探したらいいのかわかりません。(47才女性)

＜スポーツ・運動の実施者がスポーツ・運動を実施する頻度を高める＞

「週1日未満」の頻度でスポーツ・運動を行った方の中には、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」あるいは「スポーツや運動を行いたいと思うができない」と回答している方がおり、その割合は、昨年度調査は5.9%(全対象者1,366人中81人)、今年度調査は5.2%(全対象者1,253人中65人)であった。

これらの方がスポーツ・運動を行う際に必要と考える支援について、二年分のデータをまとめて分析したところ、「交通機関やまちのバリアフリー化」が17.1%で最も高く、次いで「一緒に行く仲間」(15.1%)、「施設の利用料減免」(15.1%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(14.4%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(14.4%)の順であった。【図表 119】

【図表 119】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(スポーツ・運動実施頻度別)[複数回答]



また、現在のスポーツ・運動への取組状況について、以下のような理由が具体的に述べられている。

[現在のスポーツ・運動への取組状況の理由(一部を抜粋)]

- 障害物が多過ぎる。(55才男性)
- まだまだ一人で行ける環境が整ってないので、今後の進捗が望まれる。(24才女性)
- 施設のバリアフリー化が進んでいないので、十分な運動ができません。(75才女性)
- 適切な場所がない(64才女性)
- 施設が少ないので機会が限られるので(19才男性)
- 場所も指導者もない(21才男性)
- ヘルパーさんなどの支援者が足りない(45才男性)
- 親の時間がない(28才男性)
- 移動は父親が車で行っているが、父の年齢の関係で回数が減っている。私は普段働いているので対応ができない(68才女性)
- モチベーションが続かない。(23才男性)
- 何ができるかわからない(59才男性)
- 具体的な目標設定が出来ておらず、無目的であるため、楽しさが存在していないため、何らかの目標を定めたい。(48才男性)

② まとめ

以上の結果を踏まえると、障害のある都民(18歳以上)のスポーツ・運動の実施率を向上させるためには、「会場までの送迎」や「障害に合わせたプログラムの充実」などのソフト面から環境を整えていくことに加え、「交通機関やまちのバリアフリー化」や「スタジアムや体育館などの建物や設備のバリアフリー化」などのハード面での整備も重要である。

また、「適切な指導者」や「一緒に行く仲間」などの多様な担い手の育成を図るとともに、一緒にスポーツ・運動に取り組める仲間・指導者に出会える機会の提供や、自分の障害に合ったスポーツを知る機会の提供も大切と言える。

○ 参考文献・付録

参考文献

東京都, 東京都スポーツ推進総合計画, 平成30年3月, 203p

東京都, 『都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査』, 平成31年2月, 181p

笹川スポーツ財団, 『地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』, 平成30年3月, 132p

【資料】調査設問

《予備調査》

	分野	設問番号	設問																
属性	回答者性別	1	あなたの性別をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 男性 2 <input type="checkbox"/> 女性																
属性	回答者年齢	2	あなたの年齢をお答えください。 <input type="text"/> 歳																
属性	回答者居住地域	3	あなたの居住している区市町村をお答えください。 区市町村(プルダウンで選択) <input type="text"/>																
属性	障害の有無	4	あなた、あるいはあなたが同居するご家族で障害のある方はいますか。(当てはまるものすべて) ※障害者手帳の有無は問いません 1 <input type="checkbox"/> あなたご自身 2 <input type="checkbox"/> 配偶者 3 <input type="checkbox"/> 父親 4 <input type="checkbox"/> 母親 5 <input type="checkbox"/> 兄弟 6 <input type="checkbox"/> 姉妹 7 <input type="checkbox"/> お子様 8 <input type="checkbox"/> 上記の中で障害のある方はいない																
<p>※以下の項目は、障害のある方それぞれについて、お答えください。 ※障害のある兄弟、姉妹、またはお子様が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の方についてのみお答えください。</p>																			
属性	障害者の年齢	5	ご家族で障害のある方の年齢をお答えください。(それぞれ数値をご記入ください) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">ヨコに回答</th> <th style="width: 50%;">年齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あなたご自身</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>配偶者</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>父親</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>母親</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>兄弟</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>姉妹</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>お子様</td> <td><input type="text"/> 歳</td> </tr> </tbody> </table>	ヨコに回答	年齢	あなたご自身	<input type="text"/> 歳	配偶者	<input type="text"/> 歳	父親	<input type="text"/> 歳	母親	<input type="text"/> 歳	兄弟	<input type="text"/> 歳	姉妹	<input type="text"/> 歳	お子様	<input type="text"/> 歳
ヨコに回答	年齢																		
あなたご自身	<input type="text"/> 歳																		
配偶者	<input type="text"/> 歳																		
父親	<input type="text"/> 歳																		
母親	<input type="text"/> 歳																		
兄弟	<input type="text"/> 歳																		
姉妹	<input type="text"/> 歳																		
お子様	<input type="text"/> 歳																		
属性	障害者の性別	6	障害のあるお子様の性別をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 男性 2 <input type="checkbox"/> 女性																

属性	障害種別	7	あなた、あるいはご家族で障害のある方の障害の種類をお答えください。(当てはまるものすべて)											
			ヨコに回答	1 視覚障害	2 聴覚・平衡機能障害	3 そ 音声・言語・ ししゃく障害	4 肢体不自由(上肢)	5 肢体不自由(下肢)	6 肢体不自由(体幹)	7 (脳原性運動機能障害※)	8 内部障害	9 知的障害	10 精神障害	11 その他
			あなたご自身											
			配偶者											
			父親											
			母親											
			兄弟											
			姉妹											
			お子様											
			※脳性まひによる脳病変上肢機能障害、脳病変移動機能障害など											

属性	障害種別	7-1	問7で、選択肢4, 5, 6, 7のうち1つ以上該当した方にお聞きます 該当する方は日常生活で車いすを必要としていますか。(それぞれ当てはまるもの1つ)		
			ヨコに回答	必要とする	必要としない
			あなたご自身		
			配偶者		
			父親		
			母親		
			兄弟		
			姉妹		
			お子様		

《本調査》

分野	設問番号	設問
障害のある()についてお伺いします。		
(属性)	障害者手帳の有無 1	障害のある()は障害者手帳はお持ちですか。(当てはまるものすべて) 1 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 1級 2 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 2級 3 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 3級 4 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 4級 5 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 5級 6 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 6級 7 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)1度(最重度) 8 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)2度(重度) 9 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)3度(中度) 10 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)4度(軽度) 11 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 1級 12 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 2級 13 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 3級 14 <input type="checkbox"/> 障害者手帳は持っていない
(属性)	受傷の時期 2	障害のある()は何歳から障害がありますか。 複数の障害がある方は、最初に障害が発生した年齢をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 出生時 2 <input type="checkbox"/> <input type="text"/> 歳のとき
アンケート	仕事の有無 3	障害のある()は、この1年間に収入を伴う仕事をしていましたか。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 仕事をしている 2 <input type="checkbox"/> 仕事をしていない 3 <input type="checkbox"/> 福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)
アンケート	平日過ごす場所 4	障害のある()は、この1年間に平日の日中、主にどこで過ごしていましたか。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 自分の家 2 <input type="checkbox"/> 職場(一般企業など) 3 <input type="checkbox"/> 職場(福祉的就労(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)の施設) 4 <input type="checkbox"/> 学校 5 <input type="checkbox"/> 通所施設(生活介護、デイケアなど) 6 <input type="checkbox"/> 入所施設 7 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/>
アンケート	情報入手先 5	障害のある()は、日頃、どこからスポーツ・運動にかかる情報を得ていますか。(当てはまるものすべて) 1 <input type="checkbox"/> 家族や友人 2 <input type="checkbox"/> 学校や職場、施設の人 3 <input type="checkbox"/> ボランティア、ヘルパーなどの支援者 4 <input type="checkbox"/> テレビやラジオ 5 <input type="checkbox"/> 新聞 6 <input type="checkbox"/> 区市町村などの広報誌 7 <input type="checkbox"/> 障害者団体の会合や機関誌 8 <input type="checkbox"/> インターネット 9 <input type="checkbox"/> SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど) 10 <input type="checkbox"/> 行政の窓口 11 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/> 12 <input type="checkbox"/> わからない

アンケート	過去1年間の実施種目	6	<p>障害のある()は、この1年間にスポーツや運動を行いましたか。(当てはまるものすべて) ※なお、ここでいう「スポーツ」や「運動」には、ルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツや運動だけでなく、散歩、体操をはじめ、健康づくりのために、目的を持って自主的に行う身体活動を広く含めます。</p> <p>1 <input type="checkbox"/> ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 陸上競技(ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含めます)</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 水泳・遊泳(水中歩行・水中運動)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 球技(キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含めます)</p> <p>7 <input type="checkbox"/> ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど)</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 格闘技(ボクシング、レスリング、相撲など)</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 武道(柔道、剣道、空手、合気道など)</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 射的(弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など)</p> <p>11 <input type="checkbox"/> ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード、スケートなど)</p> <p>12 <input type="checkbox"/> ウォータースポーツ(ボート、ヨット、スキndaイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウインドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど)</p> <p>13 <input type="checkbox"/> スカイスポーツ(ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど)</p> <p>14 <input type="checkbox"/> アウトドアスポーツ(ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど)</p> <p>15 <input type="checkbox"/> サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ</p> <p>16 <input type="checkbox"/> ブラインドサッカー</p> <p>17 <input type="checkbox"/> 車いすテニス</p> <p>18 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス</p> <p>19 <input type="checkbox"/> シットティングバレーボール</p> <p>20 <input type="checkbox"/> 車いすバスケットボール</p> <p>21 <input type="checkbox"/> 車いすラグビー</p> <p>22 <input type="checkbox"/> ボッチャ</p> <p>23 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>24 <input type="checkbox"/> 特にない</p>																																																
アンケート	過去1年間の実施種目	6-1	<p>問6で選択したスポーツや運動は、どの程度の頻度で行っていますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>週3日以上 (年151日以上)</th> <th>週2日程度 (年101日～150日)</th> <th>週1日程度 (年51日～100日)</th> <th>月に1～3日程度 (年12日～50日)</th> <th>3か月に1.2日程度 (年4日～11日)</th> <th>年に1～3日程度</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>：</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>：</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		週3日以上 (年151日以上)	週2日程度 (年101日～150日)	週1日程度 (年51日～100日)	月に1～3日程度 (年12日～50日)	3か月に1.2日程度 (年4日～11日)	年に1～3日程度	わからない	ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)								体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)								室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動								：								：							
	週3日以上 (年151日以上)	週2日程度 (年101日～150日)	週1日程度 (年51日～100日)	月に1～3日程度 (年12日～50日)	3か月に1.2日程度 (年4日～11日)	年に1～3日程度	わからない																																												
ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)																																																			
体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)																																																			
室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動																																																			
：																																																			
：																																																			
アンケート	実施頻度	6-2	<p>障害のある()のスポーツや運動を実施した日数を全部足し合わせると、どの程度の頻度で行っていますか。(当てはまるもの1つ)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 週3日以上(年151日以上)</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 週2日程度(年101日～150日)</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 週1日程度(年51日～100日)</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 月に1～3日程度(年12日～50日)</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 3か月に1.2日程度(年4日～11日)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 年に1～3日程度</p> <p>7 <input type="checkbox"/> わからない</p>																																																

アンケート	実施した場所	6-3	<p>障害のある()がスポーツや運動を行った場所はどこですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 自宅</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 道路や遊歩道</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 広場や公園</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 民間のスポーツ施設</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 公共のスポーツ施設(障害者専用施設)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 小中高校の体育施設</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 特別支援学校の体育施設</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 職場のスポーツ施設</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 福祉施設</p> <p>11 <input type="checkbox"/> 医療機関</p> <p>12 <input type="checkbox"/> 山・川・海</p> <p>13 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>14 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	一緒に実施する人	6-4	<p>障害のある()がスポーツや運動を一緒にするのは誰ですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 一人</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 家族</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 福祉施設の職員・仲間</p> <p>4 <input type="checkbox"/> スポーツ教室の指導者・仲間</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間</p> <p>9 <input type="checkbox"/> ボランティアの人たち</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 学校の先生や学校の友達</p> <p>11 <input type="checkbox"/> その他の友人・知人</p> <p>12 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>13 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	実施した理由	6-5	<p>障害のある()が、スポーツや運動をしたのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 健康・体力づくりのため</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 楽しみや気晴らしのため</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 運動不足解消のため</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 精神の修養や訓練のため</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 自己の記録や能力を向上させるため</p> <p>6 <input type="checkbox"/> リハビリテーションや医療・治療のため</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 家族のふれあいのため</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 友人・仲間との交流のため</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 美容や肥満解消のため</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 障害者スポーツ大会に参加するため</p> <p>11 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>12 <input type="checkbox"/> わからない</p>

アンケート	観戦意向	9	<p>障害のある()は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をどのように観戦したいですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 競技会場(スタジアム・体育館・沿道など)で直接観戦したい</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 入場無料の公共の場における大型スクリーン放映(ライブサイトやパブリックビューイング)で観戦したい</p> <p>3 <input type="checkbox"/> テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 観戦したいが、観戦方法が分からない</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 観戦したいと思わない</p> <p>6 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	観戦意向	9-1	<p>障害のある()は、観戦する場合、誰と観戦したいですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 一人</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 家族</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 福祉施設の職員・仲間</p> <p>4 <input type="checkbox"/> スポーツ教室の指導者・仲間</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間</p> <p>9 <input type="checkbox"/> ボランティアの人たち</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 学校の先生や学校の友達</p> <p>11 <input type="checkbox"/> その他の友人・知人</p> <p>12 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>13 <input type="checkbox"/> わからない</p>

ご協力ありがとうございました。

障害者のスポーツに関する意識調査報告書

令和元年 11 月発行

登録番号(31)166

発行／東京都オリンピック・パラリンピック準備局

パラリンピック部障害者スポーツ課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-7729(直通)

FAX 03-5388-1229

調査委託／株式会社グループワークス